

平成19年度文部科学省委託事業

I C Tを活用した授業の効果等の調査

報告書

平成20年3月

財団法人 コンピュータ教育開発センター

はじめに

学校教育の情報化の推進に関しては、コンピュータやプロジェクタ等の周辺機器の整備からインターネットへの高速接続と校内LANの整備などの情報インフラの整備と共に、教員のICT活用指導力の向上が鍵となっている。しかし、教育の情報化に関する格差は非常に大きくなっている。たとえば、校内LANの整備に関しては地域間格差が顕著であるとともに、教員のICT活用指導力に関しても大きな格差が起きているのが実情である。

このような状況の中で、我が国の場合、教育の情報化のための予算が地方交付税として措置されているため、各地域の事情によって十分に教育の情報化に活用されていないという状況にある。そのため、大きな格差が生じており、地域での予算化のための支援が必要である。

一方、日本の状況を海外と比較してみると、整備が大幅に遅れているのが実情であり、たとえば、コンピュータ1台あたりの児童生徒数に関しては7年前の米国のレベルであり、大幅な後れをとっている。また、電子黒板（電子情報ボード）の整備に関しては、英国とは比較にならないほど遅れているのが現実である。

内閣官房の調査によると、「ICT活用によって児童生徒の学力が向上すること」を具体的に示すことが学校の情報化予算獲得の説明として効果的であるとされている。学力向上に関する具体的なデータについては、独立行政法人メディア教育開発センターが文部科学省の委託を受けて実施した調査研究によって示されている。たとえば、児童生徒の意識調査の結果を分析した結果からは、関心・意欲、知識・理解、思考・表現という観点で評価した学力がICT活用によって高くなっている。また、ICTを活用した授業と活用しない授業について、それぞれの授業後に実施したテストの結果を比較した結果、ICT活用授業後のテストの成績が高かったことが示された。

このような背景から、多くの教員や教育関係者にICT活用による学力向上への影響について理解してもらうことを大きな目標として、本事業を実施した。また、学校の情報化を推進するためには、児童生徒の保護者の支援も重要であるということから、本事業では全国の6地域で教員や保護者等を対象にしたICTを活用した効果に関するフォーラムを開催して、成果を上げることができた。

また、ICTを活用した教科指導ができる教員を100%にする政府の目標を達成するための方策として、たとえば、教科指導でのICT活用について考えた場合、ICT活用に関してあまり関心のない教員やICT活用スキルの低い教員などの初心者を対象にした分かり易いICT活用ハンドブックが有効であると考え、この作成に力を入れた。幸い、委員をはじめ関係者の献身的な尽力によってその目的に沿ったハンドブックを作成することができた。このハンドブックが今後多くの場面で効果的に活用されることを期待している。

目 次

概要	4
1. 事業内容の概要	4
2. 「フォーラム開催事業」の概要	5
3. 「ハンドブック作成事業」の概要	6
4. ICT活用効果企画評価委員会の検討経過	7
ICT活用の効果に関するフォーラム	9
- 1 フォーラムの開催状況	9
1. 開催状況のまとめ	9
2. 開催地区の状況	11
(1) 東京都	
(2) 熊本県	
(3) 仙台市	
(4) 岡山県	
(5) 富山県	
(6) 神戸市	
- 2 参加者アンケートの結果	17
1. 教育関係者のアンケート結果	17
(1) まとめ	
(2) アンケートの集計	
(3) 開催地区全体集計	
(4) 自由記述より	
2. 保護者のアンケート結果	31
(1) まとめ	
(2) アンケートの集計	
(3) 開催地区全体集計	
(4) 自由記述より	
ICT活用指導ハンドブック	39
1. ハンドブック作成にあたって	39
2. ハンドブックの内容	40
まとめ	52

概要

1. 事業内容の概要

財団法人コンピュータ教育開発センター（以下、「CEC」という。）は、平成19年度文部科学省委託事業として、「ICTを活用した授業の効果等の調査」（以下、「本事業」という。）を受託した。本事業ではICTを活用した授業の効果等について全国的な普及を図るための取り組みとして、保護者等一般国民及び教育関係者への、教育の情報化の重要性に対する理解を促進することにより、教育の情報化の一層の推進に資するため、CEC内に独立行政法人メディア教育開発センター理事長清水康敬氏、尚美学園大学教授小泉力一氏など有識者による企画評価委員会を設置し「ICT活用の効果に関するフォーラム」及び「ICT活用に関する教員向けハンドブックの作成・配付」の二つの事業を実施した。

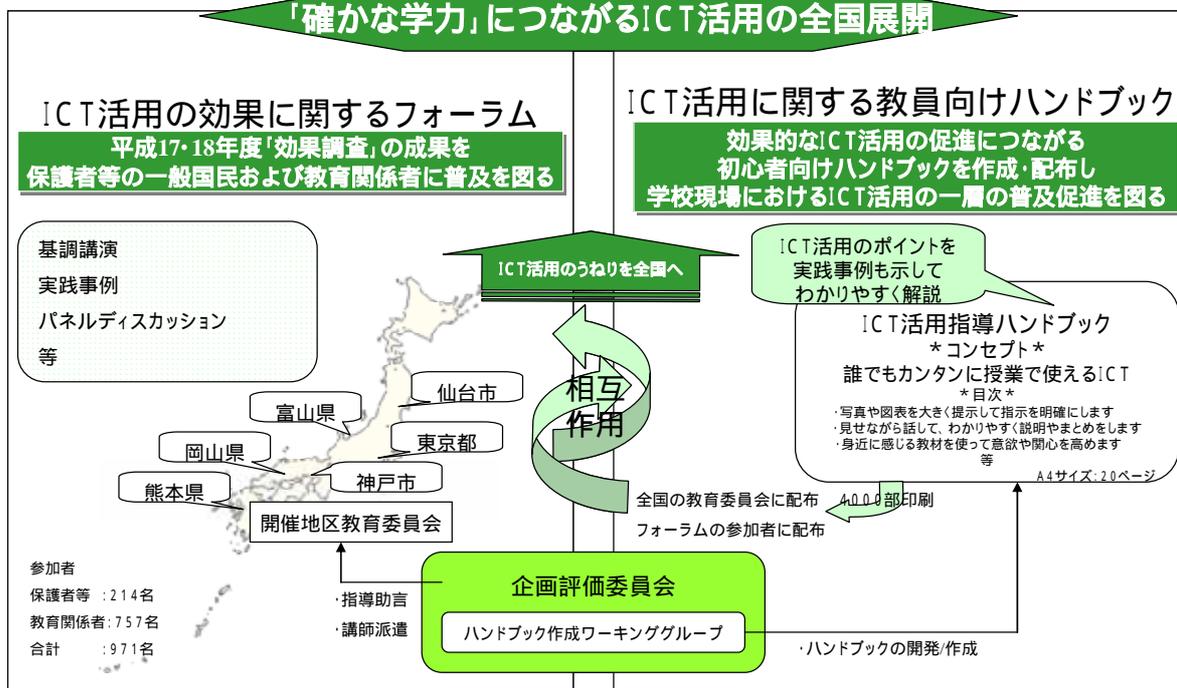
本事業の内容は、次のとおりである。

- (1) 「ICT活用の効果に関するフォーラム」の開催事業（以下、「フォーラム開催事業」という。）は、平成17、18年度に実施された「ICTを活用した指導の効果の調査」の結果に基づき、ICT活用の効果について一層の普及を図ることにより、教育の情報化の重要性に対する保護者等一般国民及び教育関係者の理解を促進することを目的として全国6ヶ所で開催地教育委員会と協力して実施する。
- (2) 「ICT活用に関する教員向けハンドブックの作成・配付」事業（以下、「ハンドブック作成事業」という。）では、企画評価委員会の中にハンドブック作成のためのワーキンググループを設置し、ICT活用の初心者やICT活用に苦手意識を持っている教員が学校現場で手軽に参照できるように、ICT活用による効果のポイントなどを分かり易くまとめた教員向けのハンドブックの作成・配付を行う。

以上の事業を実施するため、財団法人コンピュータ教育開発センターが事務局をつとめた。

平成19年度文部科学省委託事業
ICTを活用した授業の効果等の調査

「確かな学力」につながるICT活用の全国展開



2. 「フォーラム開催事業」の概要

本フォーラム開催事業は、平成17年度、18年度の2年間文部科学省の委託を受けてメディア教育開発センターで調査を行った「ICTを活用した指導の効果の調査」の結果、ICT活用が学力向上に繋がるという成果が得られたことを教員や保護者等の一般国民に広く普及することを目的としている。それは、一般国民や全国の教育関係者には、ICT活用の効果が十分に伝わっておらず、教育におけるICT活用の有効性についての理解が浸透していないのが実態であると考えたからである。

そこで、本事業では、これらの調査研究の結果として、ICTを教科指導に活用している学校の児童生徒の学力が、そうでない児童生徒と比べて向上したことを明らかにし、ICTを活用することで児童生徒の学力が向上することについて紹介するフォーラムを全国6ヶ所で開催することとした。

フォーラム開催にあたっては、企画評価委員会のメンバーが基調講演の講師を務め、ICTを活用した授業の効果に対する基本的な理解と実践に向けての具体的方策についての理解を促す講演を行うこととした。

プログラムの構成は、基調講演、授業実践事例、パネルディスカッション等とし、その組み合わせは、教育委員会等の状況に応じた対応をした。

評価をアンケートで収集し、フォーラムを開催した地域だけでなく、それを他の地域にも広げるにはどうしたらよいかを検討し提言することとした。

本フォーラムではICT活用の効果について、より一層の普及を図るため教員のみならず保護者等の一般国民の参加を得るべく財団法人コンピュータ教育開発センター（以下「CEC」という）のメーリングリストでの案内、Webページ掲載、教育関連新聞への記事掲載、教育関係新聞社のWeb掲載などの協力を得ることに努めた。保護者等一般からの参加は、6地域976名の参加者中29%の284名であった。第2回企画評価委員会に日本PTA全国協議会より常務理事にご参加いただき、保護者に対しPTAからのアプローチをお願いした。また、開催地教育委員会から学校を通じて保護者への案内を積極的に実施していただいた。今後、保護者等の一般国民の参加を求めるに当たっては、PTAを通じての協力はもとよりであるが、地元の放送局や新聞社などにも協力を求めるほか、開催日も平日ではなく、土曜日または日曜日とするなど保護者等が参加しやすい工夫をする必要がある。また、プログラムも保護者向けにしぼったものを用意する必要があると思われる。

全国6地区より下記の4都県、2市にて開催した。

- ・北海道・東北地域：仙台市 平成20年2月8日（金）開催
- ・関東地域：東京都 平成20年1月29日（火）開催
- ・中部地域：富山県 平成20年2月19日（火）開催
- ・関西地域：神戸市 平成20年3月4日（火）開催
- ・中国・四国地域：岡山県 平成20年2月14日（木）開催
- ・九州・沖縄地域：熊本県 平成20年2月5日（火）開催

フォーラム開催内容は、9ページを参照されたい。

3. 「ハンドブック作成事業」の概要

「ICT活用指導ハンドブック」の作成にあたっては、企画評価委員会の中にワーキンググループを設置し、CEC事務局との連携によって作成をすすめた。ICTの初心者やICTの苦手な教員などが学校現場ですぐに参照できるように授業の準備の段階、授業での活用、指導方法、情報モラル等について、様々な場面を示して指導法を説明し分かり易く解説、また、ICT機器操作のポイント等を示すとともに、保護者や一般国民から見てもICT活用の効果が理解しやすい内容とすることに配慮した。また、フォーラムのためだけではなく、広くICT活用の普及啓蒙につなげられることを考えて作成した。

ハンドブックの構成については企画評価委員会において下記を盛り込むことが検討された。基本ベースとして、小学校、中学校、高等学校をまとめて、A4版20ページとし、文章は多くしない、大きな文字でイラストなどを入れてイメージに訴える、とし、以下～を考慮した。

初心者やICTの苦手な先生方など、今後積極的にICTを使って頂きたい方々に、ICTを活用するとこんな効果があるということを大きく出す。

ICT活用の効果について一層の普及を図る。

- ・子どもの学力が向上するICT活用
 - ・子どもに自ら学ぶ力がつくICT活用
 - ・子どもの授業への興味関心が高まるICT活用等 目標とするものを入れる
- 教育の情報化の重要性の理解を説く。

事例は授業中での指導の場面と効果を中心とする。

- ・ 授業の開始時にあたって冒頭にICTを使用して授業に対する興味関心が高まる事例
- ・ 黒板だけでは理解しにくい授業においてICTを活用理解が深まる事例。
- ・ 思考・判断、技能・表現、知識の定着、子どもたちに授業に対する興味がわくICT活用等の事例を示す

教員の「ICT活用指導力の基準」との関係性を明確にする。

- A．授業準備の段階
- B．授業中（ ）に示す）
- C．子ども達がコンピュータやインターネットを使って主体的に学習できるように指導する。
- D．情報モラル
- E．校務

ハンドブックに掲載された内容については40ページを参照されたい。

4．ICT活用効果企画評価委員会の検討経過

3回の企画評価委員会とハンドブック作成のためのワーキンググループ会議を1回開催し、実質的な遂行は、メーリングリストとWeb共有フォルダーを利用した。

(1) 第1回委員会開催 平成19年11月30日(金)午後6時～午後8時

- (a) 全体スケジュールの確認
- (b) ハンドブックの作成計画
 - ・ ハンドブックスケジュール案検討
 - ・ ハンドブック構成案検討
- (c) フォーラムの開催計画
 - ・ フォーラム開催地検討
 - ・ フォーラム開催依頼の検討
 - ・ フォーラム実施要領の検討

(2) ワーキンググループ開催

平成19年12月6日(木)午後3時30分～午後5時30分

- (a) ハンドブック構成確認、執筆者、執筆内容の検討等

(3) 第2回委員会開催 平成19年12月27日(木)午後6時～午後8時

- (a) フォーラムの開催からの企画検討
- (b) フォーラムでのアンケート検討
 - ・ 教師向けアンケート
 - ・ 保護者向けアンケート
- (c) ハンドブック内容検討

(4) 第 3 回委員会開催 平成 2 0 年 3 月 1 7 日 (月) 午後 6 時 ~ 午後 8 時

(a) ハンドブックの内容最終確認

(b) 実績報告書 (案) 検討

ICT活用の効果に関するフォーラム

- 1 フォーラムの開催状況

1. 開催状況のまとめ

- (1) 「ICT活用の効果に関するフォーラム」は、次ページ以降にあるとおり、1月29日の東京都をはじめとして、熊本県、仙台市、岡山県、富山県、神戸市の全国6地域において合計976名の参加を得て開催された。

開催日時 (開催地域)	東京都(1月29日) 熊本県(2月5日) 仙台市(2月8日) 岡山県(2月14日) 富山県(2月19日) 神戸市(3月4日)			
		一般(保護者など)	教育関係者	合計
参加者人数	小学校	42	317	359
	中学校	45	138	183
	高等学校	0	112	112
	その他	197	125	322
	合計	284	692	976

- (2) フォーラムの構成は、各開催地域ともに、基調講演、実践報告、パネルディスカッションの3部構成であったが、仙台市や熊本県では、それぞれの地域のICT活用に関する活動報告と合わせて開催するなどの工夫がなされた。

開催が1月から3月という教員にとっては年間を通して一番多忙な時期であり、各地域とも集客については苦労したようである。保護者については、学校や地域のPTA協議会を通して参加の依頼をするとともに、各教育センター等と事務局(CEC)からも、各々が有するメーリングリストやWeb等を通して一般国民にも参加を呼びかけた。

参加者数は、各開催地とも100名から200名で、そのうち保護者など、一般の参加者は神戸市がもっとも多く、参加者全体の65%(約90名)を占めている。神戸市では、フォーラムのテーマを「ネット時代の子どもを育てる」とし、パネリストにPTA協議会副会長に登壇していただくなど、保護者が参加しやすいような企画とした。

- (3) 本フォーラムは、教員と保護者等の一般国民が対象であり、今後より多くの人に参加していただくには、教員と保護者で開催日時・テーマを分ける、平日でなく土日も視野に入れる、等の考慮が必要である。

教育委員会(教育センター)の研修計画は年度初めに作成するので、この時期に本フォーラムを年間計画に盛り込むことが出来れば、各地域の研修計画と融合した、より効果的なものになるものと期待される。

(4) 各開催地域担当者の報告から代表的な意見を以下に記述する。

ICTを活用し表現力豊かで分かりやすい授業とはどのようなものか、興味関心を高めるためのICT活用場面はどこにあるのか、「学ぶ喜びのある授業改善」に繋がるICT活用とはどういうことかなどについて、講演、実践発表、パネルディスカッションの3部構成で展開できたことは有意義であったと考える。

PTA協議会から多くの参加をいただき、現在喫緊の課題である「教員のICT活用」及び「ネット時代の子ども」の2本柱についてPTA・保護者・教員・教育委員会を巻き込んで、共に考えるよい機会となった。

開催案内をWeb上にアップすることで、一般の方々や教育企業関係者の参加がある程度あったが、今後、地域のPTA協議会へのチラシ配布についてのルートが確立していけばさらに多くの参加が見込まれると考えられる。

東京で大きなフォーラムを開催するのも意義深いですが、今回の開催のように全国各地で開催するのも非常に効果的であると考えられる。来年度以降もこのような形態で、フォーラムが開催されることが期待される。

開催時期が、3月上旬の平日ということもあり教員の参加が少なかった。土曜日開催も視野に入れるとともに、保護者・教員共に興味・関心の高い内容であれば盛況なフォーラムになるだろう。

PTA・保護者と教員の参加時間についてであるが、保護者は午後早い時間、教員は学校を出やすい15時以降というそれぞれが参加しやすい時間があり、共に多くが参集できるという時間設定が難しい。

2. 開催地域の状況

(1) 東京都

開催日時	平成20年1月29日（火） 14:00~17:00			
開催場所	東京都教職員研修センター			
参加者人数		一般(保護者など)	教育関係者	合計
	小学校	0	65	65
	中学校	0	31	31
	高等学校	0	52	52
	その他	9	36	45
	合計	9	184	193
セミナーの内容	基調講演	テーマ：ICT活用と学力向上 講師：清水康敬（メディア教育開発センター理事長）		
	実践事例	テーマ：自ら進んで、生き生き学ぶ子の育成 - ICTの活用を通して - 講師：野澤一代（荒川区立尾久第六小学校教諭） 尾形俊亮（荒川区立尾久第六小学校教諭） テーマ：ICTを活用した授業と校務の情報化への挑戦 講師：森田英之（日野市立大坂上中学校主幹） テーマ：ICTを活用した教材開発と実践 講師：加藤孝行（都立美原高等学校教諭）		
	パネルディスカッション	テーマ：学習教育におけるICT活用 コーディネータ：小泉カエ（尚美学園大学教授） パネリスト： ・野澤一代（荒川区立尾久第六小学校教諭） ・尾形俊亮（荒川区立尾久第六小学校教諭） ・森田英之（日野市立大坂上中学校主幹） ・加藤孝行（都立美原高等学校教諭）		

(2) 熊本県

開催日時	平成20年2月5日 (火) 13:00~16:10			
開催場所	熊本県立教育センター			
参加者人数		一般(保護者など)	教育関係者	合計
	小学校	0	55	55
	中学校	0	46	46
	高等学校	0	21	21
	その他	23	5	28
	合計	23	127	150
セミナー の内容	基調講演	テーマ：学力向上につながるICT活用の成果と課題 講師：清水康敬（メディア教育開発センター理事長）		
	実践事例	テーマ：研究協力校における実践と成果 講師：研修センターの研究協力員5名 （小中高それぞれ発表） アドバイザー：堀田龍也 （メディア教育開発センター准教授）		
	パネルディスカッション	テーマ：授業改善につながるICTの効果的な活用とは コーディネータ： ・宮田敏郎（熊本県教育庁教育政策課指導主事） ・清水康敬（メディア教育開発センター理事長） パネリスト： ・山本朋弘（熊本県立教育センター指導主事） ・大林みわ（山鹿市立岳間小学校教諭） ・堀田龍也（メディア教育開発センター准教授）		

(3) 仙台市

開催日時	平成20年2月8日（金） 13:00~16:30			
開催場所	仙台市青年文化センター			
参加者人数		一般(保護者など)	教育関係者	合計
	小学校	17	71	88
	中学校	5	29	34
	高等学校	0	0	0
	その他	44	27	71
	合計	66	127	193
セミナーの内容	基調講演	テーマ：学校におけるICT活用 ~学力向上と情報モラルへの対応~ 講師：堀田龍也（メディア教育開発センター准教授）		
	実践事例	テーマ：ICT活用部会実践報告 助言者：鶴川義弘（宮城教育大学教授） 講師：相澤文典（仙台市立岩切小学校教諭） 菅野麻里（仙台市立中山中学校教諭） 小田暁（仙台市立原町小学校教諭）		
		テーマ：情報モラル部会実践報告 助言者：稲垣忠（東北学院大学准教授） 講師：村上文俊（仙台市立七北田中学校教諭） 熊谷敬子（仙台市立広瀬小学校教諭） 久能由理（仙台市立岩切中学校教諭）		
		テーマ：校務情報化推進部会実践報告 助言者：岩本正敏（東北学院大学准教授） 講師：笹淵美登利（仙台市立八幡小学校教諭） 千田博史（仙台市立西多賀小学校教諭）		
	パネルディスカッション	コーディネータ：堀田龍也 （メディア教育開発センター准教授） パネリスト： ・菊地秀敏（仙台市立沖野小学校校長） 「沖野小学校のICT取り組みと仙台市としての取り組み」 ・戸来忠雄（八戸市立市川中学校教頭） 「八戸市の学校教育におけるICT活用の現状と課題」 ・吉田浩（つくば市教育委員会指導課指導主事） 「確かな学力をはぐくむ学校ICT教育」 ・皆川寛（登米市立北方小学校教諭） 「ICT活用と学力向上」 ・藤山弘子（仙台市PTA副会長）		

(4) 岡山県

開催日時	平成20年2月14日 (木) 13:00~16:00			
開催場所	岡山県国際交流センター			
参加者人数		一般(保護者など)	教育関係者	合計
	小学校	2	41	43
	中学校	1	22	23
	高等学校	0	23	23
	その他	6	6	12
	合計	9	92	101
セミナーの内容	基調講演	<p>テーマ：学校におけるICT活用 ～学力向上と情報モラルへの対応～ 講師：堀田龍也（メディア教育開発センター准教授）</p>		
	実践事例	<p>テーマ：デジタルコンテンツを活用した授業実践 講師：木谷秀史（倉敷市立帯江小学校 教諭） テーマ：教育現場からお伝えします！手軽なICTを活用して良かった例、活用せざるをえなかった例 講師：藤本義博（倉敷市立西中学校教諭） テーマ：ICTを使ったよくわかる「植物バイオテクノロジー」 講師：東森誠一（岡山県立瀬戸南高等学校教諭）</p>		
	パネルディスカッション	<p>コーディネータ：野中陽一（和歌山大学教育学部准教授） パネリスト ・中村武弘（三重県総合教育センター研修主事） 「教員のICT活用指導力を向上させる研修の在り方」 ・赤木恭吾（岡山県教育庁指導課 総括副参事） 「岡山県における教育の情報化」 ・皆川寛（宮城県登米市立北方小学校教諭） 「ICT活用と学力向上」</p>		

(5) 富山県

開催日時	平成20年2月19日 (火) 14:00~16:45			
開催場所	北日本新聞社ホール			
参加者人数		一般(保護者など)	教育関係者	合計
	小学校	0	75	75
	中学校	0	7	7
	高等学校	0	13	13
	その他	89	21	110
	合計	89	116	205
セミナーの内容	基調講演	<p>テーマ：学校におけるICT活用 ～学力向上と情報モラルへの対応～ 講師：堀田龍也（メディア教育開発センター准教授）</p>		
	実践事例	<p>テーマ：情報モラル指導の実際と課題 講師：江守恒明（富山県立砺波高等学校教諭） テーマ：簡単なICT活用で学力向上 講師：國香真紀子（富山市立光陽小学校教諭） テーマ：ICT活用時代に対応した教員研修 講師：向井康之（高岡市教育センター研究主事）</p>		
	パネルディスカッション	<p>テーマ：どう進める 教育の情報化 - 学校と家庭の協力のあり方 - コーディネータ：山西潤一（富山大学理事・副学長） パネリスト： ・堀田龍也（メディア教育開発センター准教授） ・吉倉哲夫（富山県教育委員会指導主事） ・杉田久信（富山市立山室中部小学校校長） ・大楠匡子（富山県PTA連合会副会長）</p>		

(6) 神戸市

開催日時	平成 20 年 3 月 4 日 (火) 13:00~16:20			
開催場所	神戸市総合教育センター			
参加者人数		一般(保護者など)	教育関係者	合計
	小学校	23	10	33
	中学校	39	3	42
	高等学校	0	3	3
	その他	26	30	56
	合計	88	46	134
セミナー の内容	基調講演	テーマ：学校教育における ICT 活用の効果 講師：小泉力一（尚美学園大学教授）		
	実践事例	テーマ：学校や家庭での情報モラル教育のはじめ方 講師：梶本佳照（三木市立教育センター所長） テーマ：学校園における ICT 活用と情報モラル 講師：富永直也（京都府八幡市立八幡小学校教頭） テーマ：PDA を活用した小学校算数理解度支援の取組み 講師：吉田和正（神戸市教育委員会調査課指導主事）		
	パネルディスカッション	テーマ：ネット時代の子どもを育てる ～学校と家庭で進める ICT 教育とは～ コーディネータ：平井尊士 （兵庫大学情報科学センター室長） パネリスト： ・梶本佳照（三木市立教育センター所長） ・西村茂（神戸市立友が丘中学校長） ・富永和也（神戸市 P T A 協議会副会長）		

- 2 参加者アンケートの結果

1. 教育関係者のアンケート結果

(1) まとめ

4割の参加者は、(週1回以上又はほぼ毎日)ICTを活用した授業に取り組み、その効果を実感している。しかしながら、学校全体でICTを活用した授業に取り組むためにはもっと環境の整備をおこなう必要があるとの意見が多くみられた。

一方、参加者の6割は日頃ICTを授業に活用していない(活用頻度が週1回未満)が、今回のフォーラムに参加して、「今後ICTを活用した授業を実施したい、現在のICT活用授業を改善したい」と考えるようになった。今回のフォーラムによりICT活用への理解が深められ、ICTを活用する教員の裾野を広げていくことができるものと思われる。

アンケート項目と地域別回答内容については付録を参照されたい。

(2) アンケートの集計

(a) 参加者プロフィール

参加者はすでにICTの積極的な活用に取り組んでいる人達が半数

教育関係参加者人数 692 名のうち 474 名から回答があり、回答率は 68.5%

学校種では、小学校が 48.5%、中学校が 21.7%、高等学校が 20.9%

40代から30代後半の男性で教員経験年数の中心軸が20年前後の方が50%以上参加者の約半数が、週1回以上授業でICTを活用している。

すでに授業で5年以上コンピュータを使っているベテラン経験者が約75%

(使用経験年数10年以上が50.4%、5年以上が24.9%)

ICTを授業で活用する頻度では、月1回以上活用しているとの回答が77.9%

(うち週1回以上活用するが23.8%、ほぼ毎日活用するが20.3%)

ICTを活用して校務処理をほぼ毎日おこなっている人が78.7%であり、校務処理にICTが必須となっている姿が浮かび上がる。

(b) 設問 . 本日のフォーラムの内容について

90%以上の人々が、フォーラムは参考になった、よく理解できたと回答しており、フォーラム開催の目的の1つであるICT活用の効果に関する普及活動に役立つことができた。

また、今後も授業でICTを活用すると回答した人が90%以上で、ICT活用に積極的に取り組もうという高い姿勢がうかがわれた。

フォーラムの内容は参考になった(とても思う/やや思う)と回答した人は95.5%

ICT活用のヒントが得られた(とても思う/やや思う)と回答した人は92.9%

ICT活用による学力向上への効果を理解できた(とても思う/やや思う)と回答した人は94.2%

ICTの効果的な活用を具体的に理解できる内容であった(とても思う/やや思う)と回答した人は92.5%

フォーラムの内容や研究成果を未参加の方々にも知ってほしい(とても思う/やや思う)と回答した人は93.2%

フォーラムの内容を参考に今後ICTを活用した授業を実践したい(とても思う/やや思う)と回答した人は94.2%

フォーラムの内容を参考に現在のICT活用授業を改善したい(とても思う/やや思う)と回答した人は92.1%

(c) 設問 . ICTの活用の効果について

ICTを活用して授業を行うと児童生徒の興味関心を高め学力の向上に結びつくこと過半数近くの参加者が考えており、ICTを活用した授業を広めていくべきとの意見に集約できる。

教員がICTで授業をすることで児童生徒の学力が向上する(とても思う/やや思う)と回答した人が93.3%

児童生徒がICTの授業をすることで学力が向上する(とても思う/やや思う)と回答した人が91.0%

ICT活用での学力向上を学校に広めていくことが重要(とても思う/やや思う)と回答した人が92.4%

ICT活用で児童生徒の興味・関心を高められると実感したことがある(とても思う/やや思う)と回答した人が94.3%

(d) 設問 . 情報モラル教育について

参加者は情報モラルの普及や意識の醸成のためには学校内での取り組みが必要なだけでなく保護者や地域との連携を欠かすことが出来ないとの意識が高い。その一方で学校全体から見た情報モラルの取り組みはまだ不十分でありその間にギャップが生じている。

情報モラル教育の実施に際して保護者や地域との連携が重要(とても思う/やや思う)と回答した人が98.1%

インターネットや携帯電話のマナーやルールを学校でも教える必要がある(とても思う/やや思う)と回答した人が98.5%

あなたの学校で情報モラルの指導が充実している(とても思う/やや思う)と回答した人

が 38.0%で、(やや思わない / 思わない) と回答した人が 62.0%であった。

(e) 設問 . I C T 機器の活用について

8 割以上の参加者が何らかの形でプロジェクタやインターネットを使って授業を行っている。

授業でプロジェクタ等の I C T 機器を使って資料を(週 1 回以上 / 月 1 回以上 / 1 学期 1 回以上) 提示している人は 87.3%で、うち回答が最も多いのは「週 1 回以上」の 36.5%
授業でインターネットを(週 1 回以上 / 月 1 回以上 / 1 学期 1 回以上) 利用している人は 84.6%で、うち回答が最も多いのは「月 1 回以上」の 34.2%

授業で児童生徒がコンピュータ等の I C T を使って(週 1 回以上 / 月 1 回以上 / 1 学期 1 回以上) を発表している人は 68.8%で、うち回答が最も多いのは「1 学期 1 回以上」の 47.1%

調べ学習で児童生徒がコンピュータやインターネットを(週 1 回以上 / 月 1 回以上 / 1 学期 1 回以上) 使用している人は 86.7%で、うち回答が最も多いのは「月 1 回以上」の 39.8%
授業に必要な資料等を作成する際に(週 1 回以上 / 月 1 回以上 / 1 学期 1 回以上) I C T を使っている人は 93.4%で、うち回答が最も多いのは「週 1 回以上」の 57.8%

学校に I C T 活用授業実施の情報機器やネットワーク環境について十分であると(とても思う / やや思う) 人が 36.7%で、(やや思わない / 思わない) 人が 63.3%、うち回答が最も多いのは「やや思わない」の 38.5%

学校に校務に使えるコンピュータが十分に整備されていると(とても思う / やや思う) 人が 38.5%で、(やや思わない / 思わない) 人が 61.5%、うち回答が最も多いのは「やや思わない」の 35.4%

(3) 開催地区全体集計

平成19年度文部科学省委託事業
ICT活用の効果に関するフォーラム 参加者アンケート【教師向け】

開催県	実施開催県(6県)	参加人数	692名
開催日時	各地実施日	有効アンケート回収数	474名
開催場所	各地開催場所	アンケート回収率	68.5%

参加者プロフィール

◇授業でコンピュータを使い始めて何年になりますか (回答数)

10年以上	5年以上	1年以上	1年未満	使っていない	未回答
239	118	54	15	27	21
50.4%	24.9%	11.4%	3.2%	5.7%	4.4%

◇ICTを活用した授業をどの程度実施していますか。 (回答数)

ほぼ毎日	週1回以上	月1回以上	使っていない	未回答
96	113	160	70	35
20.3%	23.8%	33.8%	14.6%	7.4%

◇校務処理などでICTをどの程度活用していますか。 (回答数)

ほぼ毎日	週1回以上	月1回以上	使っていない	未回答
373	40	22	16	23
78.7%	8.4%	4.6%	3.4%	4.9%

◇教員になって何年になりますか。 (回答数)

0-9年	10-19年	20-29年	30年～	未回答
110	121	181	33	29
23.2%	25.5%	38.2%	7.0%	6.1%

◇学校種 (回答数)

小学校	中学校	高等学校	その他	未回答
230	103	99	31	11
48.5%	21.7%	20.9%	6.5%	2.3%

◇担任 (回答数)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	その他
小学校	9	21	30	32	30	22	84 ^{1*}
	3.9%	9.1%	13.0%	13.9%	13.0%	9.6%	36.5% ^{2*}
中学校	18	24	9	52 ^{1*}			
	17.5%	23.3%	8.7%	50.5% ^{2*}			
高等学校	19	8	20	52 ^{1*}			
	19.2%	8.1%	20.2%	52.5% ^{2*}			

注)
1* 複数の学年を担当している場合は、担当の最高学年で表示
2* 学年ごとの%は各学校種を母数とした割合

◇性別 (回答数)

男性	女性	未回答
374	80	20
78.9%	16.9%	4.2%

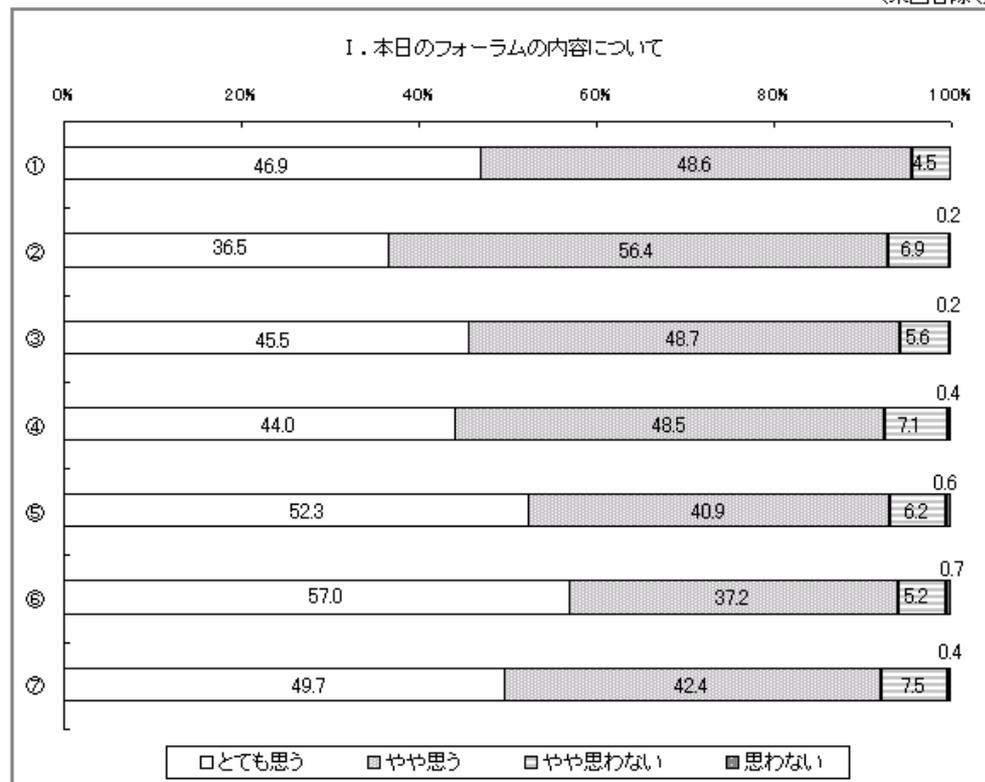
◇年齢 (回答数)

20代	30代	40代	50代	未回答
64	103	200	83	24
13.5%	21.7%	42.2%	17.5%	5.1%

設問Ⅰ．本日のフォーラムについて

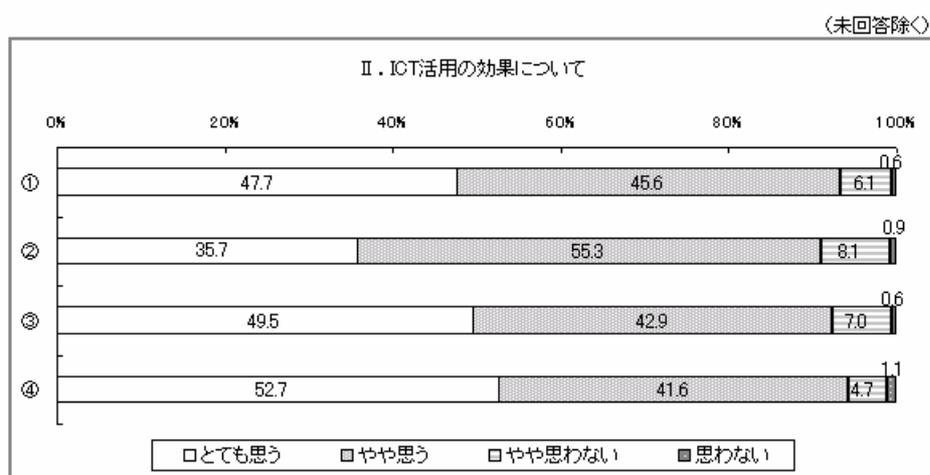
	(回答数)				
	とても 思う	やや思う	やや 思わない	思わない	未回答
①フォーラムの内容は参考になったか	219	227	21	0	7
②コンピューターやインターネットの活用にヒントが得られたか	170	263	32	1	8
③ICT活用による学力向上への効果を理解出来たか	212	227	26	1	8
④ICTの効果的な活用を具体的に理解できる内容があったか	205	226	33	2	8
⑤フォーラムの内容や研究成果を、未参加の方々にも知って欲しいか	243	190	29	3	9
⑥フォーラムの内容を参考に今後ICTを活用した授業を実践したいか	262	171	24	3	14
⑦フォーラムの内容を参考に現在のICT活用授業を改善したいと思うか	226	193	34	2	19

(未回答除く)



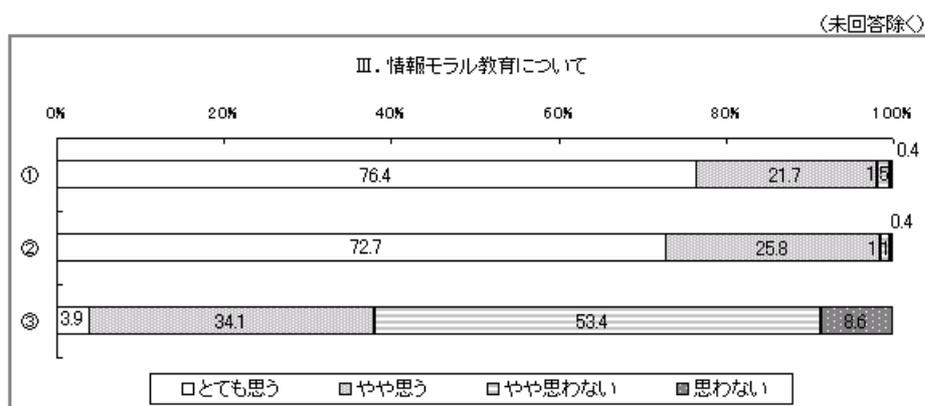
設問Ⅱ．ICTの活用の効果について

	(回答数)				
	とても思う	やや思う	やや思わない	思わない	未回答
①教員がICTで授業をすることで児童生徒の学力が向上すると思うか	225	215	29	3	2
②児童生徒がICTの授業をすることで学力が向上すると思うか	168	260	38	4	4
③ICT活用での学力向上を学校に広めていくことが重要だと思うか	233	202	33	3	3
④ICT活用で児童生徒の興味・関心を高められると実感したことはあるか	247	195	22	5	5



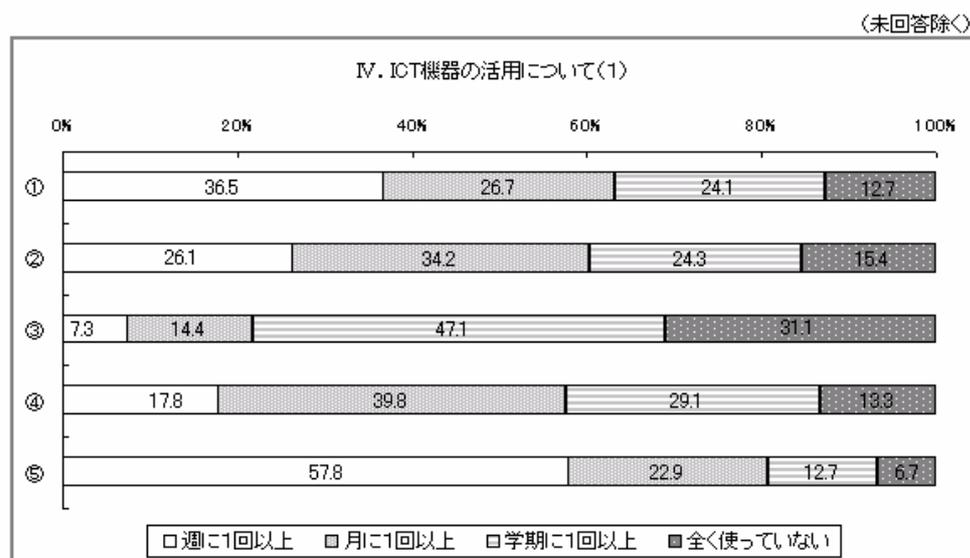
設問Ⅲ．情報モラル教育について

	(回答数)				
	とても思う	やや思う	やや思わない	思わない	未回答
①情報モラル教育の実施に際して保護者や地域との連携が重要か	359	102	7	2	4
②インターネットや携帯電話のマナー・ルールを学校でも教える必要があるか。	341	121	5	2	5
③あなたの学校で、情報モラルの指導が充実していると思うか	18	159	249	40	8

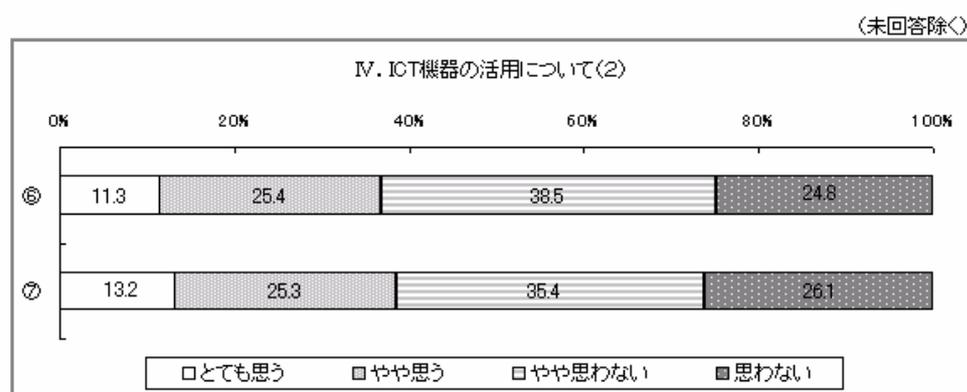


設問Ⅳ. ICT機器の活用について

	(回答数)				未回答
	週1回以上	月1回以上	学期1回以上	全く使っていない	
①授業でプロジェクタ等のICT機器を使って資料を提示しているか	164	120	108	57	25
②授業でインターネットをどの程度利用しているか	117	153	109	69	26
③授業で児童生徒がコンピュータ等のICTを使った発表をどの程度か	33	65	212	140	24
④調べ学習で児童生徒がコンピュータやインターネットをどの程度使用か	80	179	131	60	24
⑤授業に必要な資料等を作成する際に、ICTをどの程度使っているか	260	103	57	30	24



	(回答数)				未回答
	とても思う	やや思う	やや思わない	思わない	
⑥学校にICT活用授業実施の情報機器やネットワーク環境が十分か	52	117	177	114	14
⑦学校に校務に使えるコンピュータが十分整備されていると思うか	61	117	164	121	11



(4) 自由記述より

以下では、アンケートの自由記述にて寄せられた参加者の生の声を紹介します。(参加者が記載した文章を転記しています。)

(a) ICT活用について

どうしたら授業や校務におけるICT活用が活発になると思いますか。

本質問に対する回答を、【設備、環境整備、体制に関する意見】、【人材育成、研修に関する意見】、【コンテンツ、ソフト面に関する意見】、【サポート体制に関する意見】、【時間のゆとりに関する意見】、【その他の意見】に分類し、代表的な意見を以下にまとめた。

全意見のうち、60%以上が【設備、環境整備、体制に関する意見】であり、それに続いて多かったのが【人材育成、研修に関する意見】であった。

設備・環境に関しては、「いつでも、どこでも、すぐ使えるような環境にして欲しい」との意見が多数を占めた。また研修に関しては、実践授業を取り込んだ研修の必要性や、リーダーシップの重要性についての意見が多かった。

【設備、環境整備に関する意見】

- ・各教室(コンピュータ室でない)に、PC・プロジェクタを常設し、使いたい時に、いつでも使えるようにすること。
- ・ノートと同じように一人一台PCがあると、待ち時間などがなくなり、もっと活用できると思う。
- ・スマートボード、タブレットPC等、授業で使える機器を整備する。
- ・プロジェクタをつり下げにして欲しい。
- ・持ち運びや待ち時間(起動のための)がなく、教室に行きスイッチを入れれば、すぐにコンピュータやプロジェクタ、スクリーン、電子ボード等が使用できる状態にあること。
- ・毎時間の授業で活用する場合、パソコン、プロジェクタ、スクリーン、電源コードを教室まで持って行って、接続して、授業が終わったらはずして、次の教室へというのが現状で、いつも接続されていて、すぐに使える教室がほしいのですが、大規模校の本校では、空き教室もなく無理なところ です。
- ・インターネットがあるにはあるが、スピードが現在のところ遅すぎる(イントラが原因らしい)ので、授業にも十分に使えない(止まってしまう)状況があります。早く改善されたいのですが・・・
- ・管理面が厳しく指定されているため、利用するのに手間がかかりすぎる。(毎時間収納ケースに入れて棚に収納するように管理職が指導) 最初の一步を踏み出そうと思う教師にとっては、この敷居が高すぎる。今頃になって「一太郎」を校務でいっさい使えない状態もいかなものだろうか。つまり、あまりにも管理面の厳しさが先行してしまい、使いに

くさを作り出している現状も何とかしないといけないと感じている。

- ・使いやすい提示器具などの数を揃えることと、その利用がしやすい保管方法。
- ・どの学校に移動しても、同じ環境が用意されていること。PCが苦手な教員が活用できるようになるために大切と考えます。
- ・校務処理には個人用端末が不可欠ですが、まったく整備されていない。また個人のPCはLAN接続出来ない学校（物理的ではなく権力的に・・・）もあり、仕事にならない。まず使える環境を整備することが第一なのではないだろうか。
- ・公立高校では、校内LAN等を設置することが予算的に制限されたり、セキュリティ上の危なさからも「禁止」に近い取り扱いであった学校が多い。Layer3スイッチなどを活用し、外線とつながらないイントラネットとファイルサーバ、外部にも出られるネットワークを、できるだけすみやかに整備するべきである。

【人材育成、研修に関する意見】

- ・ICT活用と学力の向上の関係についてのエビデンスに基づいた啓発参加型研修の機会の充実。
- ・ワークショップ型の研修会（校内）を増やす。
- ・手軽に使えるノウハウの研修を充実させる。
- ・アイデアの提供。例えば何年生のこの単元のここを教えるときに、こんな風にICTを活用するといいですよ、児童の理解が深まりますよ、といった具体的な指導のアイデアを共有させてもらえればもっと使おうと思います。使いたいと思っても、どこでどう使ったら効果的か分からない方（私も含め）は多いのではないのでしょうか。
- ・学校内で積極的にICTの活用を推進する、使用法や授業での活かし方について、校内研修を行うなどをする。
- ・ICTを活用している授業を見る。ICTを活用できる人による10分程度のミニ研修を行う。
- ・校内でICTを活用した授業を、学期に一度は行い、校内にて研修発表会を行うと良いと思う。
- ・ソフトウェアに関する研修。
- ・学校全体で取り組む体制の構築が不可欠であり、リーダーとしての教諭が必要である。またICTを使った取り組みの成果を認識することも大切である。
- ・行政が学校の管理職に（義務化しても良いが）今日のような講演に参加してもらうべきだと強く思う。ICT整備の「鍵」は組織のリーダーシップ力だと切に感じる。
- ・各学校の代表職員が当研修会に参加して、その内容を復講するやり方では、今以上の成果は上がらないと思う。現場には「できる人、パソコンに詳しい人がやればいい」という空気があるので、全職員に必修とするような研修会をしないと、いつまでたっても変わりません。
- ・教員一人ひとりにICT教材配布。教員への活用資格を身につける研修の実施。教員を対象にしたITスキル資格・検定を作り習得させる。

- ・教員の意識改革を行うことが必要だと思います。

【コンテンツ、ソフト面に関する意見】

- ・映像コンテンツ（無料）が豊富になること。
- ・使うと便利なソフトのライブラリー化、コンテンツの充実。プレゼンテーションソフトの利用。
- ・教材となるCD、DVD、ソフト、コンテンツ等が教科書と同じように1セットになっている。またその資料にどんなものが入っているのか、一覧になったものを生徒も持っていて、パッとそのフォルダやページが開けたらよい。
- ・道具として使えるようになってきたら、ソフト面の提供が豊富に欲しい。（索引みたいな物がセンターのホームページから見ることが出来、ダウンロードが自由に出来る。コメントを書けるようにし、改善や活用のメリット等も提供できる。）
- ・校務支援ソフトの配布。適切なグループウェア（校務支援用）の導入。
- ・ICTで利用できるコンテンツを全教員で共有できるようにできればよい。すべての学校のコンテンツを共有できる整備をするのも良い。

【サポート体制に関する意見】

- ・企業におけるネットワーク管理者を採用し、専門職として配置し、管理および研修を行ってもらおう。
- ・使い方が分からないとき、故障したときのサポート体制があること。
- ・校長や事務職員が情報担当をサポートし、孤立させない。
- ・各学校にネットワークトラブルなどを解決できるスキルを持った人物を配置する。
- ・機器の整備と教員向けに啓蒙・アドバイスのできるスタッフの確保。

【時間のゆとりに関する意見】

- ・学習指導に対する教材研究をする時間が充分にとれるように、他の校務（調査・統計等）を減らしていく。（行政サイドからの依頼が多い）
- ・児童朝会での子ども達への話を構想する際、インターネットをよく利用します。先生方が授業に活用できるようになるには、やはり時間的なゆとりが必要だと思います。ICTを利用すればいろいろな効果があることはよく分かっているのですが、それを利用するところまでいかないのが実情です。
- ・教員の持ち授業時数を減らして（定員の増加）、ICT活用の準備が十分持てる時間的余裕を作る。
- ・教材研究をするために時間をとること。（目の前の忙しさにICTに目が向かない方がたくさんいます）
- ・ICT活用の専門教員・職員が必要。今の学校の忙しさの中では、情報科の教員以外、ICTを活用するのは無理である。
- ・ICTを活用するスキルを身に付ける場や時間がほとんどない。どちらかというと個人の

力や趣味で身に付けている力に頼っているのではないか。ICTは一つの道具と考えるが、誰にでも簡単に使えなくてはいけないと思う。

【その他の意見】

- ・ 1クラスの児童数を20名程度にして、教師のサポートが児童1人1人に多くできるようにする。
- ・ 提出文書を全て、サーバのファイルに入力するようにすると、必要にせまられて活用するようになる。
- ・ 利便性やメリットをもっと探し出していないと、使う気にならない。ICTを使い始めて6ヶ月になるが、本当に使って良かったという授業づくりには、至っていない。
- ・ 使っている先生には、誰も何も言わなくてもどんどん使っている。デジカメを使ってもメディアからハードディスクに移せない先生や、学級通信の打ち込みに3時間ぐらいかかる先生のボトムアップをすればいい。また自分で使えても、指導できない先生もいるので、ひな形を示してあげればいい。
- ・ 無理に使う必要は無い。ICTを活用する教員が楽しくできればよい。嫌いな人が無理にやっても間抜けなだけ。
- ・ 仕事(分掌)の一部として位置付ける。人的配置は必要。独立した職として配置して欲しい。
- ・ 校務に関しては、ICT(ネットワーク)を使わないと得することがない限り、先生は使わない。使わないと損をするようにするしかない。
- ・ ICT使用カリキュラムの義務化(児童に対して)。ICT必須の教務を義務化(教育現場、教員に対して)

(b) フォーラム全体用について

ご意見がありましたらご自由にお書きください。

本質問に対する回答を、【本セミナーに関する意見】、【予算、設備、環境、研修、等に関する意見】、【ICT活用に関する意見】、【その他の意見】に分類し、代表的な意見を以下にまとめた。

【本セミナーに関する意見】

- ・ 組織力、実践例の話が聞けたのが良かったです。実践例がもう少し聴きたかったです。
- ・ 東京のCECのフォーラムでもそういった内容を企画して欲しい。
- ・ 具体的な活用例についてさらに研修を深めていきたい。
- ・ 本日のフォーラムについて、より具体的な授業実践方法を示して欲しかった。実際にICTを持ち込んでもらい、模擬授業を行って欲しい。各学校にICTを普及させるなら、そ

の具体的方法を示して欲しい。

- ・ICTによる学力向上の効果はよく理解できました。自分でも出来るだけ取り入れていきたいと思っています。ただ、もう少しICTの取り入れ方を具体的に知りたかったです。効果的な使い方、授業内容(模擬授業などして)を次回は教えていただきたいと思います。時間の使い方も(どのくらい作るのに時間がかかり)他の仕事との両立はどうか、教えていただきたいです。ハンドブックの紹介がありましたが、それをここで渡していただけるとわかりやすかったです。
- ・夏休みに教員向け研修会や講演会にいくつか出席しましたが、本日の内容が最もピンとくるものでした。県教委の具体的な取り組みについて(特にICT)もう一步詳しく教えて頂きたかったようにも思います。
- ・「学力」という言葉は、きちんと定義をして使うべきと思う。
- ・情報モラルとICT活用の内容がラセン化。どちらかに重点を。例えば本日はICT活用の実践事例を具体的に。そしてその実践が効果的であったデータの報告。
- ・今年から情報モラルに関する研修を生徒指導担当と情報教育担当とが合同で実施しました。来年度は全教員を対象とした研修にしようと考えています。あわせて情報モラルの指導計画を小1年から中3までのものを作る準備に入ります。とても参考になりました。
- ・校種別に開催したほうが良い。

【予算、設備、環境、研修、等に関する意見】

- ・市の予算がどんどん削られている現状なので、器具は備品としてはなかなか買えない。また故障した場合の修繕費についても、額が決まっているので治せないこともある。お金を持っていて教育の方にそれを配分してくれる市でないと、なかなか前進しない。計画的に購入を進めているが、全クラスへの機器の設置などは夢。
- ・黒板だけを使用する場合と、ICT機器を活用する場合との違いは、よく分かったし理解できましたが、現実的に必要な数がないので、これから必要な数を配布して欲しいなと思います。どのように使っていくかは学校内の研修でやっていけばよいと思います。
- ・まずはICT機器の整備・充実を行うことが重要だなと思いました。
- ・ICT関連の学習をする場合、自費によるものが多い。ネットワークソフト、その他の機器の使い方など、学ぶ環境になっていないのが現場である。外部からの支援が大切である。
- ・コンピュータは各教室に導入されても、全ての教室で同時に活用するためには、プロジェクトが不足し制約があります。周辺機器の整備を望みます。
- ・予算とITコーディネータのような人の配備を考えてください。
- ・ICTに関する機器が導入されるが、その後のメンテナンス等はどのように行うのか。学校予算対応では、支出の限度がある。ネットワークを整備する際、無線LANの利用は都立高校では禁止されているが、有線での整備には予算がかかりすぎる。異動が多い学校の場合、管理者となれる人材をどのように確保するのか。
- ・なにしろ機器の充実をお願いしたい。国(都)が積極的に資金面でもバックアップしてほしい。限られた学校内予算では限界があります。

- ・ICTを活用しながらない(年輩の)先生というのは、配線するというのが一番ネックになっているようだ。職員室のコンピュータは配線済みだから、どんどん使ってもらえるが、教室はそうでない。イギリスのように常にすぐ使える状態にまですることが大切と思う。

【ICT活用に関する意見】

- ・視覚障害を持つ子どもたち(色の区別などに障害を持っているなど)をどうするのだろう・・・と感じました。小中学校での子どもたちへの関心・興味を高めるために役立つことは充分感じる事が出来ました。
- ・インターネットのフィルタリングにより、生徒指導面でありがたい面もありますが、教育で使いたい内容までストップされたことが何度かあります。この点について改善されることを期待します。
- ・ICT活用には様々な方法があり、その効果も様々である。現在その検証を行う時間が確保できない。活用を図るためには、先進的な取り組みを参考にしたり、公開されているデジタルコンテンツを利用したりすることが必要であると思う。
- ・私の学校ではしばらく触らないとパスワードを入れ直さないといけないため、ためらう方が多いです。個人情報の保護と使いやすさのバランスが現場に合うような形になると、もっと活用する方が増えるのではないのでしょうか。
- ・模擬授業等、具体的な実践があると、ICTを活用した授業の魅力がわかると思います。
- ・ICTの活用が児童・生徒の興味・関心・意欲を高めることは、誰もが簡単に理解できます。それが学力・人間性にどうかかわっていくのかを、データをもとに伝えていかなければ、ICTは広まらないと思います。
- ・ICT活用についての意識が、現場でのものと教育委員会でのもので異なったり、また教諭と管理職でも異なっている。ICTの活用が常識化されていないと私は現場で感じる。
- ・校務のICT化が進んでいるのは、各教諭が自費でノートPCを購入しているから。その教員の中でも、ICT学習による学習効果に関心のある教諭が自費でソフトをそろえて授業に活用している。結局、今のICT化を支えているのは、そういった各教員の努力によるものだと思う。真剣に推進を考えているのなら、まず子ども1人1台、教諭1人1台機器を整備すべき。
- ・PCを使うことなどを嫌ったり、理解がない人(特に管理職)が多く、やりにくい事が多い。まずはICTのすばらしさなどをもっと伝えていくべきだと考える。
- ・ICTに詳しい人が専門用語を駆使して説明を繰り返しても、ICT活用は広がらないと思う。同様にe黒板の優れた機能を持つ機器を活用した実践だけを紹介されても、環境が整っていない多くの学校にとっては、あまり参考にならないと思う。本日のフォーラムを機会に、多くの学校に整っているような機器を使用した実践例を共有できるような研修会も設けて欲しい。

【その他の意見】

- ・学ぶ上での基本を忘れないで欲しい。読み書き・互いに話すこと、それらの育成が先で、そのあとに道具・手段としての活用が大切だと思う。これを見ていて、小中高・地域の情報格差が心配になった。どの学校でも最低限のICT教育の目標を設けてもらいたい。
- ・ICTを活用した教材作り等の時間的余裕は中学校教員には無い。1日6時間、空き時間の無い日何日もあり、たまの空き時間は急に生徒指導が入ったりする。
- ・ICT活用がなぜ活発にならなければならないのかがわからない。教授法の一つとしてあるのは良いと思う。しかし、それを半強制的に教員に使わせようとするのはおかしい。使いたい教員が自由に使えばいい。苦手な人に無理に使わせて、子どもたちの学力が上がるのだろうか。
- ・校務処理等をパソコンで効率よく行えるようにするには、手書きではなく、パソコンでの処理を前提としたフォームの設定がまず必要だと思う。県下で使う物は、できれば統一したフォームで、全市町村で使える物であればいい。
- ・企業などもどんどん交えて研究会が行われると良いと思われます。また大学の先生方のお知恵をもっともって借りることが出来ればと思います。どんどん大学の先生方の力を借りた研修会を各地区センターで行ってほしいものです。
- ・子供を取り巻く社会では、情報機器は特別なものではなく、あって当たり前、使えて当たり前なものとなっている。にもかかわらず、教育現場では、未だに特別なもの、専門の人がやればよいという風潮がある。さらに教育委員会等、上の方が「情報教育」を軽く扱ったり、低く見たりする傾向がある。情報教育を担当する者が、年々肩身の狭い思いをするようになっているのは、困ったことだと感じている。
- ・ICTの活用に関しては、短期目標として分かる授業のための活用を広め、中期目標として子供のエネルギーをクリエイティブな方向に向かわせるよう、実践を進めていきたいと考えた。
- ・何をどう使うとどんなメリットがあるのかを、具体的に子供(教員)に教示し、確実に実行することが大切。

2. 保護者のアンケート結果

(1) まとめ

保護者からは、フォーラムに参加してICTを活用した授業について一定の理解が示され、地域・保護者と連携した普及活動につなぐことが出来た。しかし、一部の方から今回の説明は教師向けでありもっと保護者に合わせた内容にしてほしいとの要望が寄せられた。今後のフォーラム開催の参考にしたい。

アンケート項目と地域別回答内容については付録を参照されたい。

(2) アンケートの集計

(a) 参加者プロフィール

携帯電話を児童生徒に持たせ始める小学校中学年から中学校の児童生徒を持つ保護者（母親）が多く参加されたと推察される。
また、保護者世代はパソコンや携帯電話の普及が始まる時期に20代、30代を過ごし携帯電話を違和感（抵抗感）無く積極的に活用している姿が見えてくる。

コンピュータやインターネットを使用している参加者は92.6%で、使用回数から見ると（ほぼ毎日が66.0%、週1回以上が21.3%、月1回以上が5.3%）で、毎日使う参加者が最も多い。

携帯電話を使用している参加者は65.7%で、使用回数から見ると（ほぼ毎日が89.2%、週1回以上が5.4%、月1回以上が1.1%）で、毎日使う参加者が最も多い。

携帯電話の電子メールを使用している参加者は93.6%で、使用回数から見ると（ほぼ毎日が78.5%、週1回以上が12.9%、月1回以上が2.2%）で毎日使う参加者が最も多い。
参加者のお子さんの学校種は、小学校が59.4%、中学校が56.3%、高等学校が25.0%、その他が26.0%（複数回答）

参加者の性別では、男性が27.11%、女性が71.9%

参加者の年齢別では、20代が6.3%、30代が19.8%、40代が56.3%、50代が14.6%

(b) 設問 . 本日のフォーラムの内容について

フォーラムに参加してICT活用の効果について理解され、ICTを活用した授業を実践し広がってほしいと要望されており、ICT活用の効果について普及を図る目的の1つを達成できた。

フォーラムの内容は参考になった（とても思う/やや思う）と回答した人は92.5%

コンピュータやインターネットの活用のヒントが得られた（とても思う/やや思う）と回答した人が91.4%

ICT活用による学力向上の効果を理解することが出来た(とても思う/やや思う)と回答した人が91.5%

フォーラムの内容・研究成果を未参加の先生方にも知ってほしい(とても思う/やや思う)と回答人が92.5%

学校で今後先生たちにICTを活用した授業を実践してほしい(とても思う/やや思う)と回答した人が91.4%

(c) 設問 . 情報モラル教育について

情報モラルの影について保護者自身が携帯電話で経験したりしているためか情報モラルに対する関心は非常に高く、子どもたちとインターネットや携帯電話を使う上で何らかのルールを決めている保護者が87%と高率である。ただし、その決め方が“だいたい決めている”が一番多く内容については不明。今後その取り決め内容の調査を行ない保護者や地域との連携の仕方について研究が必要と思われる。

家庭で情報モラルを指導するのは重要なことだ(とても思う/やや思う)と回答した人が97.9%

情報モラルを小学校低学年から子どもたちに指導したほうが良い(とても思う/やや思う)と回答した人が87.5%

インターネット・携帯電話を子どもたちが使うルールを(決めている/だいたい決めている/わずかししか決めていない)と回答した人が87.3%で、まったく決めていないと回答した人が12.6%であった。

(d) 設問 . お子さん(お孫さん)について

4割強の児童生徒がほぼ毎日コンピュータやインターネットおよび携帯電話や携帯電話の電子メールを使用しており保護者のプロフィールと重なると児童生徒と保護者が連絡を取り合う姿が浮かんでくる。

情報社会を生き抜く力を身に付けるためには、学校における授業のみでなく家庭での取り組みも重要な位置を占めるものと推察できる。

コンピュータやインターネットを(ほぼ毎日/週1回以上/月1回以上)使用している児童生徒は88.0%で、うち回答が最も多いのは「ほぼ毎日」の45.1%

携帯電話を(ほぼ毎日/週1回以上/月1回以上)使用している児童生徒は55.6%で、うち回答が最も多いのは「ほぼ毎日」の45.6%

携帯電話の電子メールを(ほぼ毎日/週1回以上/月1回以上)使用している児童生徒は55.6%で、うち回答が最も多いのは「ほぼ毎日」の43.3%

(3) 開催地区全体集計

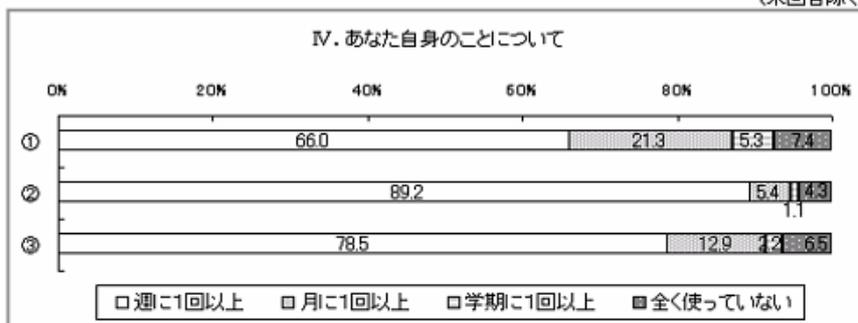
平成19年度文部科学省委託事業
ICT活用の効果に関するフォーラム 参加者アンケート【保護者向け】

開催県	実施開催県(6県)	参加人数	284名
開催日時	各地実施日	有効アンケート回収数	96名
開催場所	各地開催場所	アンケート回収率	33.8%

参加者プロフィール

	(回答数)				
	ほぼ毎日	週1回以上	月1回以上	全く使っていない	未回答
①コンピューターやインターネットをどの程度使用か	62	20	5	7	2
②携帯電話をどの程度使っているか	83	5	1	4	3
③携帯電話の電子メールをどの程度使っているか	73	12	2	6	3

(未回答除く)



⑤お子さん(お孫さん)の学校種と学年

小学校	57	59.4% ^{1*}
中学校	54	56.3% ^{1*}
高等学校	24	25.0% ^{1*}
その他	25	26.0% ^{1*}

	(複数回答)					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
小学校	6	11	7	16	19	15
	10.5%	19.3%	12.3%	28.1%	33.3%	26.3% ^{2*}
中学校	16	32	14			
	29.6%	59.3%	25.9% ^{2*}			
高等学校	9	5	11			
	37.5%	20.8%	45.8% ^{2*}			

注)

1* 学校種の%は有効アンケート回収数を母数とした割合であり
複数回答の為、合計は100%を越えている

2* 学年ごとの%は各学校種を母数とした割合であり
複数回答の為、合計は100%を越えている

⑥性別

(回答数)		
男性	女性	未回答
26	69	1
27.1%	71.9%	1.0%

⑦年齢

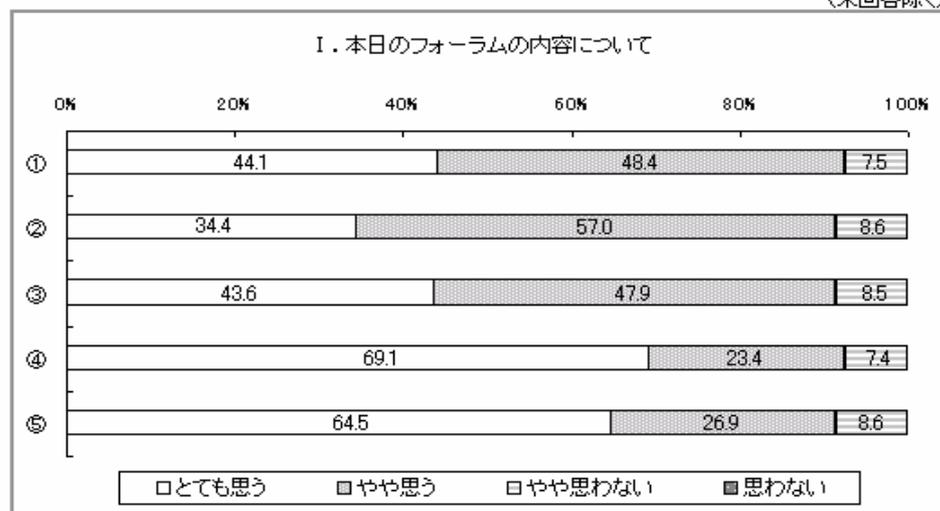
(回答数)					
20代	30代	40代	50代	60代以上	未回答
6	19	54	14	2	1
6.3%	19.8%	56.3%	14.6%	2.1%	1.0%

注)熊本県保護者の参加人数は23名だがアンケートは未回収

設問Ⅰ．本日のフォーラムの内容について

	(回答数)				未回答
	とても 思う	やや思う	やや 思わない	思わない	
①フォーラムの内容は参考になったか	41	45	7	0	3
②コンピュータやインターネットの活用のヒントが得られたか	32	53	8	0	3
③ICT活用による学力向上の効果を理解することができたか	41	45	8	0	2
④フォーラムの内容・研究成果を未参加の先生方も知って欲しいか	65	22	7	0	2
⑤学校で今後先生達にICTを活用した授業を実践してほしいか	60	25	8	0	3

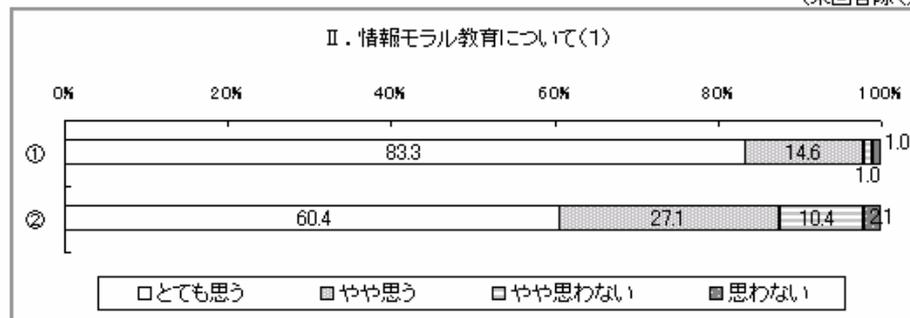
(未回答除く)



設問Ⅱ．情報モラル教育について

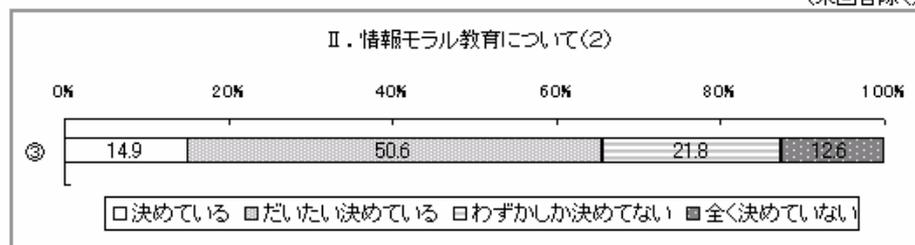
	〈回答数〉				未回答
	とても 思う	やや思う	やや 思わない	思わない	
①家庭で情報モラルを指導するのは、重要なことだと思うか	80	14	1	1	0
②情報モラルを小学校低学年から子ども達に指導した方がよいか	58	26	10	2	0

(未回答除く)



	〈回答数〉				未回答
	決めている	たいたい 決めている	わずかしが 決めてない	全く決めて いない	
③インターネット・携帯電話を子どもが使うルールを決めているか	13	44	19	11	9

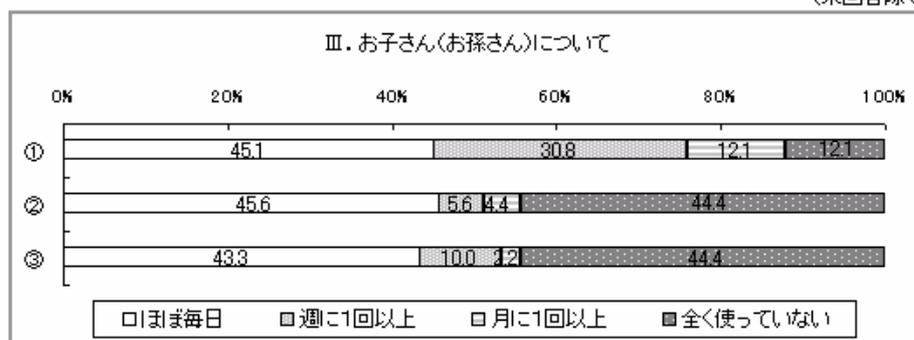
(未回答除く)



設問Ⅲ．お子さん(お孫さん)について

	〈回答数〉				未回答
	1回 毎日	週1回 以上	月1回 以上	全く使っ ていない	
①コンピューターやインターネットをどの程度使用か	41	28	11	11	5
②携帯電話をどの程度使っているか	41	5	4	40	6
③携帯電話の電子メールをどの程度使っているか	39	9	2	40	6

(未回答除く)



(4) 自由記述より

以下では、アンケートの自由記述にて寄せられた参加者の生の声を紹介します。(参加者が記載した文章を転記しています。)

(a) 本日のフォーラムについて(その1)

フォーラムの特に参考になった内容を記入してください。

本質問に対しての自由記述回答の代表的なものを、以下にまとめる。

- ・実践発表はわかりやすく参考になった。
- ・授業が随分様変わりしていることが分かった。時代に遅れないようついていきたいと思う。地域の人たちが、ICT活用の授業を参観する機会があるといい。
- ・ネットの危険性を訴えるフォーラムが多い中、とても前向きな内容だった。ほとんど1日中PCをログイン状態の我が家、便利だから使っている、使わなければ危険性も分からないは大いに納得できた。
- ・コンピュータが家庭でツールとして広まったのは、今の大人が大人になってから。その反面子どもが次々に使いこなしていく。コントロール出来にくい恐れがある。
- ・ハードを恐れるのではなく、使う側の意識が大切であること……。家庭でのコミュニケーションが一番であること。
- ・こどもたちの授業の場でICTを活用することの効果を知った。「大きく映す」ことだけでも子ども達の理解が深まる事例が一番印象的。
- ・授業の中でICTを活用することが、いかに有効であるかということ。どんどん取り入れ、ICTによってできたゆとりの時間をより深く子どもたちとの関わり・ふれあう時間に充てて欲しいと思う。
- ・投影機・プロジェクタを使った授業風景。子どもたちの大きく楽しそうな声が聞こえてきそう。ぜひ当学校にも用意して欲しい。

(b) 本日のフォーラムについて(その2)

フォーラムで扱って欲しかった内容、改善点を記入してください。

本質問に対しての自由記述回答の代表的なものを、以下にまとめる。

- ・家庭でのICT活用の事例をもっとあげて欲しかった。どちらかというとPTA向けでなく先生向けの内容が多かった。
- ・保護者として参加しましたが、家庭でのモラルを扱った内容と思っていましたが、教育現

場での内容でしたので、先生方向けかと思います。

- ・家庭でのインターネットやケータイのモラルについて、具体的に専門家の方の話が聞きたかった。保護者の立場ではICT活用の授業などは理解できても、何にも活用できない。
- ・先生方と保護者同士で連携しなければならないことはよく理解していますが、誰を対象にしているのかよく分からない内容だったと思います。もう少し吟味して頂きたかったです。また授業についての活用もこれからという時のようですから、保護者から見て活用することが、何が必要で有効なのかよく分かりません。
- ・校務情報化の発表の中で、通知表のデジタル化が取り上げられた。資料の中でもそれに対して保護者からの意見は出なかったとあるが、実際には手書きの良さが失われたことを残念に思っている保護者はいるのに、残念です。
- ・ネットによるトラブルの実例と解決法。フィルタリングによる切断の実害について。
- ・日常息子に、「なぜこのサイトに入ったらいけないの？」と聴かれても明確な返答ができなくて悔しい思いをしております。その辺の指導についても聞いてみたい。
- ・家庭で簡単にできることで、子どもを「情報社会の影の部分」から守る具体的な方法は何かないでしょうか。

(c) フォーラム全体について

ご意見がありましたらご自由にお書きください。

本質問に対しての自由記述回答の代表的なものを、以下にまとめる。

- ・もっとこのようなフォーラム、勉強会等機会を増やせばいいと思います。先生方の情報交換の場として、県教委に交換ブログがあっても良いくらいかと。
- ・フィルタリングをするといった、どちらかといえば使わせないようにというなお話が多く、少しどうかと思っていました。今日のお話はとても納得できるいいお話でした。
- ・PTA代表でしたが、もっと多くの方々に声をかけ参加した方が良いフォーラムでした。ICT活用の授業、ぜひやってほしいので進めていきたいです。
- ・学校が抱えている多くの問題を知ることができました。PTAとして後押しできればと思います。
- ・携帯電話が普及し、ネットがあたりまえにある今日、情報モラル教育はとても重要・必要性を感じました。校務のデジタル化は、情報漏洩だけが心配です。
- ・最近の小中学校の子ども達から、いろいろ知ることも多いです。メールでデマや中傷を流され仲間はずれにされ、学校に行けなくなった子もいました。トラブルが多いため、頻繁にアドレスを変える子もいます。ネットでチャットを楽しんでいる子もいますが、「こわいことや変な人いない？」と聞くと、「小学生だけのサイトだから大丈夫」との返事があり、かなり危うさを感じています。早い時期での情報モラル教育の必要性を感じています。
- ・ICT活用で授業が分かりやすくなるということが分かった。子ども達の学校でも取り入

れて欲しい。

- ・ICT教育というのがどういうものがわかりましたが、そういうものに時間を割くより、もっと子どもの顔を見る、子どもの話を聞く時間を増やす、ひとりひとりを見つめる教育に力を注いで欲しいと思います。
- ・ICT活用については技術が日進月歩ということもあって、試行錯誤の連続なのだなと実感しました。ただ小学校の算数理解支援についての取り組み発表がありましたが、導入にそこまで時間とお金をかける必要があるのかなとも思います。学校での実態はそこまでやらないとついていけない子供が多いのでしょうか。子供が大人になっていく上で大切なのは、知識ももちろんですが知恵と工夫を自らの頭で編み出していくための能力ではないかと思いますが。ICT活用は結構なことですが、決して技術の中におぼれないようにして頂きたいと思います。
- ・講演の中にありましたが、ICTにたより過ぎない、自らの手、体を使うということをお大切にしてくださいと思います。学校裏サイトに対して肯定しない方がよい。学校だから被害者の立場に立ち、否定・参加しない・させないことを指導して欲しい。
- ・「ネット時代の子どもを育てる」に少し興味があって来ましたが、本当に子ども達に必要なかというあまりそう思わない。どうしてもネットを使うことがありきで、少し違うと感じます。
- ・教師向け、保護者向けでは話が異なると思うので、一緒に講演では長い時間の割には参考になった話が少なかった。プロフ・裏サイトなど、こどもたちの実状などの話をもっと聞きたかった。
- ・情報モラル教育の前に「常識」があいまいになっている。情報モラル教育に関しては、知識としては持っていないとは思わないと思う。もちろん不登校児童や特別支援を必要とする児童への取り組みとしては必要だと思った。
- ・時代の流れからICT化は当然だと思う。職場は2000年からIT化しており、ペーパーレスです。1人1台体制です。苦手だというのは通用せず、年輩の方でも頑張っております。「先生方はITが苦手だ」という話をしておられることは違うと思います。出来る先生と出来ない先生がおられるのは、不平等だと思います。環境を整備して全ての先生が使えるようにしてもらいたいです。ただ機械の数が少ないと、普及は難しいと思います。

ICT活用指導ハンドブック

1. ハンドブック作成にあたって

「ICT活用指導ハンドブック」は、授業にICTを効果的に活用することで児童生徒の学力が向上するという実証結果に基づき、具体的にどのような活用方法がありそれによりどのような効果が期待できるかということ、授業実践例を示しながら平易に解説することを目的に作成された。ICT活用授業を実践したことのない教員を対象とした解説になっている。ただし、すでにICT活用授業を実践している教員が新たなポイントに気づくことも想定している。また、児童生徒の保護者に学校の授業でICTを活用する効果を認識してもらうことも意図して作られ、特に情報モラルの指導については学校と家庭との連携が重要であることを強調した。

ハンドブックの構成は、平成19年2月に文部科学省が策定した「教員のICT活用指導力の基準」に基づいて行われた。同基準では教員のICT活用指導力のチェックリストを示しており、教員に求められるスキルを、「A 教材研究・指導の準備・評価などにICTを活用する能力」「B 授業中にICTを活用して指導する能力」「C 児童生徒のICT活用を指導する能力」「D 情報モラルなどを指導する能力」「E 校務にICTを活用する能力」という5つのカテゴリに分類している。ハンドブックでは、これらの能力をどのような場面で発揮すべきかについて具体的な実践事例を示しながら解説した。

カテゴリB、Cに関係する活用スタイルを大きく5つに分類し、左ページにICTがどのような効果をもたらすかについて解説し、右ページに実際の活用事例を具体的な形で示した。このように、統一したスタイルを見開きのページで具体例を添えて示すことで、ICT活用の根拠と実際を一目で理解できる。文章による解説はポイントにとどめ、写真やイラストを用いてイメージ化を図っており、ICT活用授業の未経験者にも気軽に取りかかれるようになっている。具体的には、実物投影機、パソコン、プロジェクタ、スクリーンなど、できるだけ身近にあるICTを活用した事例を紹介している。デジタルカメラやデジタルビデオカメラ、各種アプリケーションソフトなどを利用した事例も含まれている。いずれも基本的な操作で実現できるICT活用方法を紹介している。活用するICTはアイコンで表示し一目でわかるようにしてある。

また、カテゴリA（授業準備におけるICT活用）とカテゴリE（校務でのICT活用）については、小学校、中学校、高等学校に共通して押さえるべきポイントをまとめた。一方、カテゴリD（情報モラルの指導）については、小中高等学校を通じて児童生徒の発達段階に応じた指導が必要であるという観点から、小学校段階と中学・高等学校段階に分けて、それぞれの段階における指導のポイントをまとめた。

最終ページには近未来の教室のイメージ図を提示して、誰もが簡単に便利にICTを活用できる環境を提案した。

ハンドブック作成の過程で、多くの現場の教員の意見を取り入れ、できる限りそれを反映することに努めた。

2. ハンドブックの内容

ハンドブックは以下のような構成とし、ICT活用の成果を分かり易く表示するとともに、授業におけるICTの活用と指導のポイントをわかりやすくまとめている。併せて、「教員のICT活用指導力の基準」におけるカテゴリA～Eへの対応を示す。

写真や図表を大きく提示して指示を明確にします・・・・・・・・・・カテゴリB、C
見せながら話して、わかりやすく説明やまとめをします・・・・・・・・・・カテゴリA、B、C
身近に感じる教材を使って意欲や関心を高めます・・・・・・・・・・カテゴリB、C
学習素材やソフトウェアで知識や技能を定着させます・・・・・・・・・・カテゴリB、C
インターネットを使って最新情報を収集したり、その便利な機能を利用します
・・・・・・・・・・カテゴリB、C
授業準備にICTを使います・・・・・・・・・・カテゴリA
情報の整理や共有で校務の効率化を図ります・・・・・・・・・・カテゴリE
情報モラル教育に「待った」はない！・・・・・・・・・・カテゴリD
近未来の教室では誰でも簡単にICTが使える！・・・・・・・・・・共通

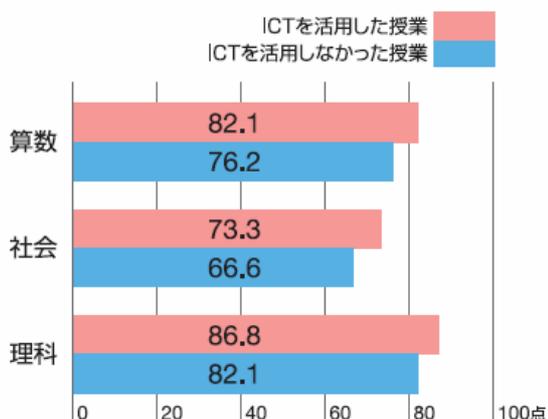
(1) 目次上部に主張点を表示

「ICTの活用で学力は向上する！」

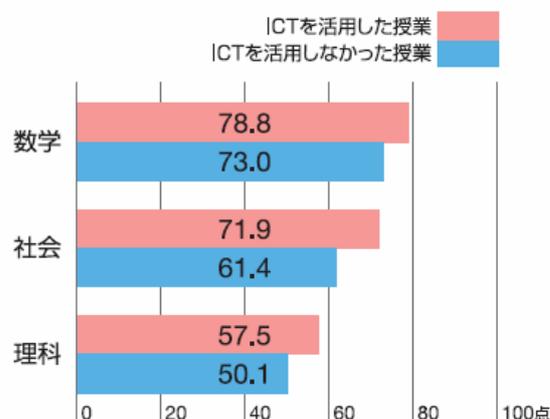
成績が上がる

ICTを活用した授業の後に実施した客観テストの成績は、ICTを活用しなかった授業後の成績より高いことが示されています。

小学校のテスト結果 (授業数:55 児童総数:2,139人)



中学校・高等学校のテスト結果 (授業数:28 生徒総数:852人)

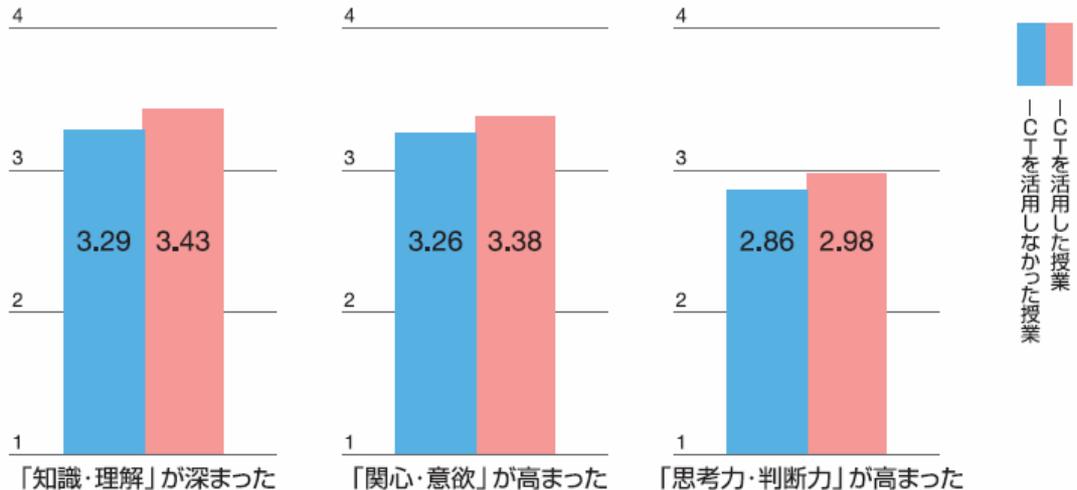


「知識・理解」、「関心・意欲」、「思考力・判断力」が向上する

小学校においてICTを活用した授業を行い、授業後に延べ2,543人の児童に24の質問をした結果、ICTを活用しなかった授業と比較して、「知識・理解」、「関心・意欲」、「思考力・判断力」が向上したと考えていることが示されました。

グラフの数値は質問に対する肯定の度合いを

たいへん思う……4 少し思う……3 あまり思わない……2 まったく思わない……1 の4段階で回答した結果の平均値です。



*データを統計的に分析した結果、ICTを活用した授業が活用しなかった授業と比較して効果があることが示されています。

*この成果は、平成18年度に独立行政法人メディア教育開発センターが文部科学省の委託を受けて実施した「教育の情報化の推進に資する研究 (ICTを活用した指導の効果の調査)」によるものです。

(2) 見開き2ページで解説

写真や図表を大きく提示して指示を明確にします

いつも使っている教科書やプリントを、実物投影機とプロジェクタで大きく提示します。特別な教材を用意しなくても、誰でも気軽にICT活用を始めることができます。授業のほんの一場面でもICTを使うことでより学習効果が上がるのです。このような利用方法なら、今までの授業スタイルをほとんど変えずに高い学習効果を得ることができます。

大きく提示することにより視線が集まり指示が明確になります！

教科書の図表や手元の細かい作業などを大きく示すだけで、従来の口頭だけの指示と比べて、指示の内容が児童生徒に対して一斉に短時間でわかりやすく伝わるようになります。

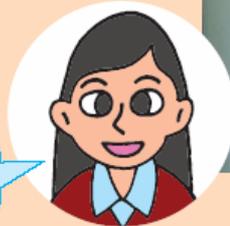
また、児童生徒が同じ視線を持つようになるので、考えさせたり話し合いをさせたりする環境も作れます。その結果、児童生徒に課題意識を確実に持たせることができます。

児童生徒が一人ひとりしっかりと理解できているか確認しながら進めることが大切です。

教科書などの図表を大きく映して説明しましょう!

教科書などの図表や写真を大きく映すだけで児童生徒が集中し、教師の指示も明確に伝わります。また、図表を大きく提示して大切な点を強調したり、プリントを大きく映して全員で答え合わせをしたりできます。プロジェクタで黒板やホワイトボードに映して、そこにチョークやマーカーで書き込むことも効果的です。

教科書を大きく映すことから始めましょう!



映した副教材に書き込みながら説明
(副教材:「きょう土のすがた 富山県」富山県教育会発行)

【実践事例】小学校 算数「分度器の目盛りに注目させる」

活用や指導のポイント: 拡大して提示し、分度器の目盛りに注目させ、分度器の中心などの合わせ方を指導することがポイントです。分度器の目盛りの読み方を理解させながら、角度の求め方を習得させます。

【実践事例】小学校 家庭「手元の動きを繰り返してみせる」

活用や指導のポイント: 手元の複雑で細かい動きを拡大して提示し、繰り返してみせることがポイントで、効果的です。

【実践事例】中学校 国語(書写)「教師の書く手本に注目させる」

活用や指導のポイント: 手本を大きく提示し、中心線を示して全体のバランスや余白を確認し、一文字ずつ書きながら筆の動きを見せ、筆順や運筆のリズムを示すことがポイントです。

【実践事例】高等学校 生物「観察するポイントを確認させる」

活用や指導のポイント: 生徒各自が細胞の観察や実験を行う前に、教師が試料を拡大して提示し、その構造や色彩などをリアルに見せることにより、注目すべき点や注意する事項などを説明することがポイントです。やや高度な利用法ですが、生徒の理解には大変効果的です。

見せながら話して、わかりやすく説明やまとめをします

わかりにくい部分を詳しく説明したり、授業の最後にまとめをしたりする場合に、ICTを活用すると効果的です。

プロジェクタを使って動きのある教材を大きく映してわかりやすく示したり、プレゼンテーションソフトを使ってまとめを提示して説明したりします。

教材を大きく映すことで理解を深めることができます！

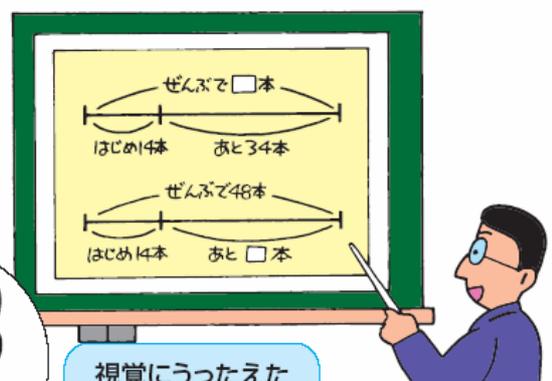
たとえば、原稿用紙の使い方など、教科書だけではわかりにくい部分は、写真や短い映像を見せることで理解を促すことができます。

また、文章を鑑賞したり語句の意味を考えさせたりする場合は、その部分をスクリーンに提示して教師が児童生徒と対面する形で説明します。こうすると、理解度を確かめながら授業を進めることができます。

理解を促すために教材や実物や考え方を大きく映して説明しましょう！

「理解しにくい部分をわかりやすくする」、「同じテーマで考えたり話し合ったりする」、「教師が授業のまとめをする」ときなど、全員に確実に内容を理解させる場合は、大きく見せながら説明することが効果的です。

また、児童生徒のノート・レポート・作品、写真や映像などを提示して説明したり、プレゼンテーションソフトで話の流れを提示して説明したりすることで、児童生徒の理解を促進できます。



視覚にうったえた説明やまとめをしてみましよう！

【実践事例】小学校 理科「動画を見せて理解を深めさせる」

活用や指導のポイント：普段目にすることができない事物を提示して、児童たちの驚きや発見を引き出し、関心や意欲を高めるようにします。動画を要所所で一時停止し、静止画像として利用することやその静止画像に説明を書き込むことも大切です。長時間提示するのではなく、動画コンテンツの一部分を提示して、学習の課題作りに役立てたり、学習内容を絞り込んだりすることが大切です。

【実践事例】中学校 美術「作品を大きく提示してポイントを解説する」

活用や指導のポイント：制作した作品を全ての生徒に見えるように大きく提示して、生徒から発想や作品に込めて伝えたい内容を説明させた上で、配色や形の工夫についても説明させることがポイントです。

【実践事例】高等学校 外国語（英語）「英単語をイメージとともに理解させる」

活用や指導のポイント：新たに学ぶ英単語の意味や用法の正しい理解に役立ちます。生徒の様子を見ながら教師が間合いを上手にとって提示することがポイントです。

身近に感じる教材を使って意欲や関心を高めます

「野外観察で児童生徒が撮影した植物や昆虫」、「校外学習や修学旅行で撮影した施設や風景」、「体育の時間に撮影した跳び箱の跳び方」など、デジタルカメラやデジタルビデオカメラで撮影したデータを蓄積しておきます。実体験に加えて、このような教材を授業で利用すれば、ちょっとした手間とアイデアで身近に感じる教材が作成でき、児童生徒の関心や意欲を高める授業が実現できます。

肖像権や著作権などにも配慮しましょう。

身近な教材を手作りすることで関心や意欲を高めます！

身近な風景をデジタルカメラやデジタルビデオカメラで撮影し、そのまま教材として提示するだけで児童生徒の関心が高まります。たとえば、「日かげの観察」で棒の影の様子を時間を追って撮影するだけでも教材を作ることができます。何度も利用でき、パソコンで簡単に加工もできるので、目的に応じた提示をすることができます。

自作教材できめ細かな授業も展開できます！



写真や映像は現実を記録するのに最適です。特に映像はリアリティが高いため、児童生徒の関心や意欲を向上させます。デジタルカメラやデジタルビデオカメラだけでなく、プリンタやイメージスキャナなども利用してオリジナル教材作りに挑戦してみましょう。



教師自らの手による教材は児童生徒の関心を高めます！

【実践事例】小学校 体育「自分たちの運動を振り返らせる」

活用や指導のポイント：模範の動きを撮影して、ポイントを書き込んで提示し、イメージを持たせるようにします。児童が互いに撮影し合うことで、相互評価にも役立ちます。

【実践事例】小学校 理科「実際に観察した結果を利用させる」

活用や指導のポイント：野外観察から教室に戻り、撮影した画像を振り返りとして活用することがポイントです。撮影だけでなく、絵に描くことやメモすることもしっかりと指導します。

画像を拡大して見え方の違いを確かめながら、編集・加工などデジタル情報の利用のしやすさを理解させることも大切です。

【実践事例】 中学校 外国語（英語）「生徒が自分たちで考えた教材を活用させる」
活用や指導のポイント：生徒の考えた英語の対話文を使った会話の様子をビデオ撮影することで生徒の関心や意欲を高め、積極的に会話練習に取り組みさせることがポイントです。

【実践事例】 高等学校 国語表現「身近にある出来事を教材に生かす」
活用や指導のポイント：身近な出来事を写真や映像に記録して教室で利用する点がポイントです。プレゼンテーションソフトの編集や加工などの機能を活用して見せ方も工夫できます。

学習素材やソフトウェアで知識や技能を定着させます

漢字や英単語などの知識の定着が大切な学習では、繰り返し見せたり、定着が低いものだけを編集して見せたりして、重点的に指導を行うことができます。

また、シミュレーションソフトやグラフ作成ソフトの活用は説明をよりわかりやすくします。教科書の内容に即した学習素材やツールが組み込まれているデジタル教科書の利用も効果的です。

基礎基本の確実な習得に効果があります！

シミュレーションソフトやグラフ作成ソフトを活用すると、理由や仕組みを視覚にうたえたり、条件の異なるいろいろな状況を確認させたりできるので、児童生徒が納得するまで繰り返して学習させることができます。漢字や計算などのドリル型のソフトウェアは、習熟度に応じた繰り返し学習を可能にし、基礎基本の確実な習得に役立ちます。

個別学習は、児童生徒の習熟度に応じて行われるよう留意することが大切です。

教科書に準拠したコンテンツで基礎学力を向上させましょう！



教材を簡単に探せる教科書準拠型のコンテンツが便利です！

デジタル教科書や教科書に即した教育用ソフトウェアは、教師が教科書と併用して手軽に活用できます。

国語では、漢字の筆順アニメーションや朗読の機能。算数・数学では、図形や関数などを理解させるアニメーション、計算問題の練習をする機能。英語では、英文や単語の発音やリスニングを練習する機能。これらは、一斉指導でも個別学習でも活用することができます。



【実践事例】 小学校 国語「クイズ形式の展開で関心を持たせる」

活用や指導のポイント：クイズ形式の展開をすることで、学習意欲を高めることができます。また、出題した問題を印刷して、個別に繰り返し練習させることも大切です。

【実践事例】 小学校 算数「ドリル型ソフトでマイペースの学習をさせる」

活用や指導のポイント：児童の習熟の度合いに応じたステップを選んで、繰り返し練習させるようにすることがポイントです。

【実践事例】 中学校 理科「シミュレーションソフトで知識を定着させる」

活用や指導のポイント：一人一台のパソコンでシミュレーションソフトを使って、金星のみかけの形や大きさと惑星の位置との関係を繰り返しシミュレーションさせます。

【実践事例】 高等学校 数学「グラフ作成ソフトで理解を促進させる」

活用や指導のポイント：グラフの変化と式の係数の関係を視覚にうたえて理解させることがポイントです。プロジェクタによる提示だけでなく、ノートに手書きで x と y の値の対応表を作らせて変化した放物線上の座標と一致するかを確認させることも大切です。

インターネットを使って最新情報を収集したり、その便利な機能を利用します

インターネット上に豊富にある学習内容に関連する写真や映像を活用すると、児童生徒の興味や関心を高め、理解を深めることができます。

たとえば、地層の写真や地層のでき方をわかりやすく示したコンピュータグラフィックス、水泳の水中映像、世界各地の今の様子を映し出すライブカメラの映像などがあります。

校内LANの整備により、普通教室でいながらに豊富な教材の利用が可能になります。

インターネット上の教材で興味や関心を高めることができます！

1枚の写真や短い映像を提示するだけで、児童生徒の興味や関心を高めることが可能です。また、写真を拡大したり映像を一時停止して詳しく見せたりすることで、自ら考えさせて新たな気づきや発見に導くこともできます。インターネットは、教材として使える写真や映像の宝庫なのです。

著作権や課金などの問題が発生することにも留意しましょう。

インターネットの利用は児童生徒に任せきりにしないよう注意しましょう。

インターネット上には豊富な教材を備えたサイトが数多くあります！

●教育情報ナショナルセンター (NICER)

<http://www.nicer.go.jp/>

インターネット上にある日本の教育・学習に関する情報が体系的に整理されています。(一部を除き無料)

●理科ねっとわーく

<http://www.rikanet.jst.go.jp/>

中・高等学校の授業で使える理科教育用デジタル教材(動画・静止画)が約4万点収録されています。(無料)

●IPA教育用画像素材集

<http://www2.edu.ipa.go.jp/gz/>

教育のために学校や家庭で、無償で利用できる画像素材が約17,000点収録されています。(無料)

●NHK デジタル教材

<http://www.nhk.or.jp/school/>

NHKの教育放送番組や関連する教材が提供されています。(無料)

●オアシス

<http://www.fmnc.or.jp/oasis/>

NHKの学校向け番組やビデオクリップ等のコンテンツが高画質な映像で、小中学校の授業用に平成18年11月から3年間無料配信されています。

【実践事例】小学校 社会「地図サイトでリアリティのある地形を確認させる」
活用や指導のポイント：地図や衛星写真を瞬時に切り替えることができるので、地図情報や地形のイメージの理解が深まります。また、地図を簡単に拡大・縮小できるので、地図の縮尺を変えて提示することもポイントです。

【実践事例】中学校 数学「学習サイトで理解しやすい学びをさせる」
活用や指導のポイント：インターネット上に多数公開されている数学のシミュレーションソフトを生徒の実態に応じて活用し、きめ細かなアドバイスをすることがポイントです。

【実践事例】高等学校 地学「気象サイトに公開されたリアルな情報を利用する」
活用や指導のポイント：降水量や気温などの気象データは表計算ソフトなどで読み込める形式のファイルが提供されていることもあるので、リアルな情報として利用することにより、興味を高め理解を深めることができます。

授業の準備にICTを活用します

各教科において“ICTを活用した”効果的な授業を行うためには、授業の準備がとても大切です。とりわけ、インターネットなどのICTが大きな力を発揮します。

準備が簡単です！

できるだけ短い時間で効率的に児童生徒がワクワクするような素材を集めたいとき、インターネットがとても役に立ちます。また、準備が簡単に行えます。

再利用や持ち運びも楽です！

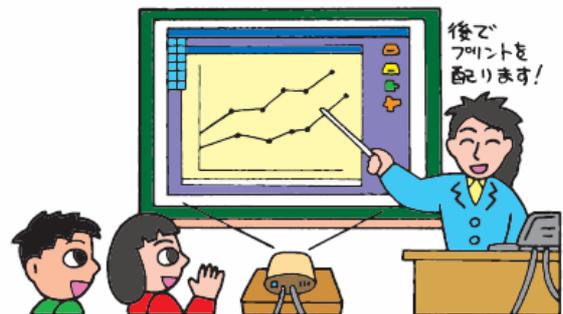
パソコンやインターネットで準備したデータはデジタルデータであるため、教材の加工や編集が容易にでき、またファイルに保存すればいつでも開いて使うことができます。また、手軽に持ち運んで教室で利用することもできます。

インターネットから教材入手



キーワードを入れて検索し、いろいろな写真や動画を見ること自体が教材研究になります。また、インターネットには、たくさんの実践例や学習指導案があります。さらに、Webページそのものが教材になることもあるので、授業で利用することも効果的です。インターネットには情報が豊富にあるので、授業づくりも充実します。

パソコンで速く、美しく自作プリントを作ろう！



簡単に、速く、美しくプリントを作ることができるプレゼンテーションソフトを使って自作プリントを作り、授業を効率的に進めましょう。自作プリントのデータはそのまま授業中に提示することもできるので、児童生徒にとって理解しやすくなります。

情報の整理や共有で校務の効率化を図ります

校務などでICTを活用すると、情報の整理や共有が効率的に行えるようになり、子どもたちと向き合う時間が増え教育が充実します。

また、ICTを活用し保護者や地域へ情報発信することにより、開かれた学校づくりにつながります。

校務が軽減し効率化されます！

ICTは名簿や提示物の作成の手間を減らすだけでなく、通知票作成時に転記ミスを減らすので校務処理が効率的に行えるようになります。ただし、デジタル化された個人情報などは慎重に扱うことも心得ておきましょう。

翌年も使えます！

校務用に作成した文書などは翌年も使えます。少し変更するだけで再利用ができます。教師同士で共有しておけば、誰でも再利用できるので、みんなに喜ばれます。

パソコンで成績処理すれば 児童生徒への指導もきめ細かになる



児童生徒の評価などをICTを用いて分析することは、成績処理として日常的に行われています。素点だけでなく、問題ごとの回答を入力しておけば、問題ごとの達成率がわかるだけでなく、評価をきめ細かに行うことができます。また、個々の問題について達成度が不十分な児童生徒を、ひとめで確認することもできます。

学校のWebページで 家庭や地域に情報発信する



学校生活や学習の様子を、保護者や地域に向けて学校のWebページから発信することができます。このような、保護者や地域への情報発信は、開かれた学校づくりにつながります。

情報モラル教育に「待った」はない！

情報モラル教育は、日常指導している「相手を思いやること」や「自分の身は自分で守ること」をベースに学校全体の取組みとして、小中高等学校の各段階を通じて、体系的に指導することが大切です。

特に、児童生徒は、インターネット上の違法・有害な情報にさらされているので、そのような情報への適切な対処法を指導します。

平成19年3月の内閣府調査によると携帯電話等の使用状況は、小学生31.3%、中学生57.6%、高校生96.0%です。

平成19年度のいわゆる出会い系サイトに関係した事件として警察庁に報告のあったものは1,753件で、被害者のうち18歳未満が84.8%で、その大半を中高生が占めています。

小学校では

●インターネットの「きまり」を知ろう

インターネットにはルールやマナー、違法・有害情報があることを理解させ、困ったときは保護者や教師に相談するように指導します。

●情報の「読み方」を知ろう

情報が正しいか信頼できるかを考える習慣を身につけさせます。

●人の作ったものを大切にしよう

著作物には著作権者の権利があることを理解して、人の権利を尊重することの重要性を理解させます。



「情報を大切に扱う」「IDやパスワードを大切に使う」「携帯電話を適切に利用する」「ICTを使う際の健康への影響に気をつける」ことなども指導します。

中学校・高等学校では

●インターネットを正しく活用しよう

掲示板、チャット、特別なコミュニティなどの特徴を理解させ、類発する問題やそれに対する基本的な対処方法を身につけさせます。

●ネットワークはだれのものか考えてみよう

ネットワークを利用する上での一人ひとりが守るべきことを考えさせ、公共的な意識を持たせることによって、情報社会の一員として適切な判断や行動ができるように指導します。

●情報を読み解く力を身につけよう

インターネットや電子メールから得られる情報の信頼性や信ぴょう性を判断して、情報を適切に活用する能力を身につけさせます。



「情報社会のルールやマナーを守る」「ネットワークを利用する際に身体的・精神的な面の影響に気をつける」「見えない相手とのコミュニケーションを考える」ことなども指導します。

【実践事例】 人権の尊重「ネットいじめ」

活用や指導のポイント：疑似体験を通して、ネットいじめは絶対にしてはならない行為であることを理解させます。

【実践事例】 著作権の尊重「ファイル共有ソフトの問題」

活用や指導のポイント：ネットワーク上で情報を受発信するときには、著作権の考え方は必須の知識だと理解させます。

保護者と連携して実施します！

児童生徒がトラブルに遭遇する事例の多くは、保護者が契約した携帯電話やインターネット接続の利用によって起こっていますが、これは保護者が児童生徒の利用実態を把握していなかったり、危険性を十分理解していなかったりすることが原因です。そのため、家庭と連携した情報モラルの指導が大切です。学校は、家庭での情報モラル教育を促す観点

からも保護者への啓発活動も積極的に行う必要があります。

フィルタリングは、好ましくない内容を含むWebページへのアクセスを禁止する機能で、インターネットプロバイダや携帯電話会社などが提供するほか、パソコンに専用ソフトをインストールするなどして利用します。

「子どもの携帯電話等におけるフィルタリングの普及促進のための啓発活動について（依頼）」の通知を平成20年3月に、総務省・文部科学省連名で各都道府県教育委員会などに発出し、学校関係者や保護者をはじめ住民に対する啓発活動などを要請しています。

無料で公開されている事例など (2008年3月現在)

■ 授業事例など

- ① “情報モラル” 授業サポートセンター
<http://sweb.nctd.go.jp/support/>
- ② インターネット活用ガイドブックモラル・セキュリティ編
<http://www.cec.or.jp/books/guidebook.pdf>

■ 情報モラル教材

- ③ ネット社会の歩き方
<http://www.cec.or.jp/net-walk/>
- ④ 情報モラル研修教材2005
<http://sweb.nctd.go.jp/2005/index.htm>

■ 保護者向け教材, 教員研修会向け教材

- ⑤ ネット社会の7つの常識 安心インターネットライフ★ガイド改訂版
<http://www.fmmc.or.jp/ejf/guide/>
- ⑥ 知識集約型ネットワーク社会における個の自衛
<https://www.tokai-ic.or.jp/selfdefense/>
- ⑦ すべての先生のための「情報モラル」指導実践キックオフガイド
<http://www.japet.or.jp/moral-guidebook/>
- ⑧ 5分でわかる情報モラル
http://sweb.nctd.go.jp/5min_moral/

■ 保護者・教職員向けの出前講座

- ⑨ e-ネットキャラバン
<http://www.fmmc.or.jp/e-netcaravan/>

「学力向上ICT活用指導ハンドブック」(PDF 容量：約 22MB)がダウンロードできます。

<http://www.cec.or.jp/monbu/report/handbook.pdf>

まとめ

本プロジェクトにおけるICT活用の効果に関するフォーラムは、仙台市教育委員会、東京都教育委員会、富山県教育委員会、神戸市教育委員会、岡山県教育委員会、熊本県教育委員会を主催者として、全国6カ所の会場で開催された。いずれの会場でも主催者である教育委員会の全面的な協力を得ることができた。スケジュール設定、会場準備、内容構成、登壇者の手配、参加者へのアナウンスなど、開催までの準備にたいへん尽力していただき、自治体として教育の情報化の重要性を重く受け止めている状況がうかがえた。

ICT活用の学力向上に対する効果の普及

フォーラムのメインテーマである「授業におけるICT活用と学力向上」について、独立行政法人メディア教育開発センターの清水康敬理事長、同センター堀田龍也准教授、尚美学園大学小泉力一教授が基調講演を行った。平成17年度から平成18年度にかけて独立行政法人メディア教育開発センターで実施された文部科学省委託事業において、授業におけるICT活用が児童生徒の学力向上に効果があることが示されたが、その経緯と成果について詳細なデータを基に解説が行われた。また、英国をはじめとした諸外国の状況についても最新の情報を交えて紹介された。

実践事例報告やパネルディスカッションでは、身近な単元で授業にICTを活用することでどのような効果があるかについて具体的に紹介された。また、同じ自治体でも学校間で温度差があること、市区町村レベルのインフラ整備状況に差異があること、授業でのICT活用がインフラ整備状況に依存している割合が高く学校として情報化に取組み難いという問題点があること、文部科学省が国策として進めている教育の情報化は確実に学校現場の意識を高めているもののICTインフラの整備を担当する教育委員会の一部において積極性に課題があることなどが指摘された。

授業実践事例の発表やパネルディスカッションの議論を聴取した参加者からは、発表された内容はICTスキルが足りない教員からすれば敷居が高いという意見が出された。これに対して、授業で活用するICTのスキルは決して高いものが求められるわけではなく、誰もが最初は手間と時間をかけて試行錯誤をしたという回答がされた。しかし、現状では教員が行うべき作業はますます増える傾向にあり、授業にかける時間が前にも増して少なくなっている。この状況下でICT活用の効果を得るには、教員にとって使いやすいICT環境が必要であるということがいえる。

フォーラムの参加者に対するアンケートの結果から、授業でのICT活用が学力向上に効果がある、児童生徒のICT活用が学力向上に効果がある、ICT活用が児童生徒の興味・関心を高めるということに90%以上の参加者が肯定的意見を持っていることが明らかになった。しかし、参加者の半分以上が小学校教員であり、開催時期を考慮しても、もう少し中学校や高等学校の教員に参加してもらうことが望ましかった。一部の地域では主催者が

市の教育委員会という事情もあったが、今後は中学校や高等学校にICT活用授業の普及が必要と思われる。それには、

教科や科目という視点だけでなく、授業形態ごとにICT活用がどのような効果をもたらすかについて分析し、教員が自らの授業でどのような場面でどのようなICT活用が有効であるか平易に理解できる実践手引きを提示することも有効である。さらに、

授業におけるICT活用を実現するためのインフラを整備することはもとより、授業にICTを活用するための技術と基礎的ICTスキルをすべての教員が習得するための研修手段を充実させ、いつでもだれにでも手軽に使える教材データベースを準備することが必要である。

小学校を中心にして、授業におけるICT活用で児童生徒の学力向上を実現している学校は着実に増えており、授業での効果的なICT活用の事例集を作成するなどにより、中学校及び高等学校にも拡大することが重要である。

教育の情報化における地域連携の必要性

フォーラム参加者としては、学校教員や教育委員会関係者を想定したが、教育の情報化には地域や保護者の理解が重要であるという考え方から、保護者の参加についても主催者側に協力を要請した。その結果、保護者の参加を得ることができ、参考となる貴重な意見を得ることができた。それらの内容から、以下の取組みが望まれる。

ICT活用による恩恵はとりもなおさず児童生徒に与えられる。このことをより強く保護者にアピールし、ICT活用度の学校間格差がいずれ児童生徒の学力間格差につながりかねないことを認識してもらい取組みが広く実施されることが期待される。また、

地域間格差についても同じで、教育の情報化が地域の情報化の推進に影響があることを理解させ、地域と学校が連携して授業でのICT活用を普及させることの重要性を認識させる必要がある。そのためには、たとえば児童生徒に関する個別情報を情報ネットワークを介して保護者に提供するなど、保護者にとってもICTの有効性を実感できる仕組み作りが望まれる。

地域や家庭と連携した情報モラル教育

フォーラムに参加した保護者からは、ネット社会に生きる子どもたちをどのように守るかということについて意見を求める声が多く聞かれた。授業におけるICTとは直接関係するテーマではないが、情報モラル教育は我が国の喫緊の課題として文部科学省が重要視している課題であり、フォーラムにおいてもいろいろな意見交換が行われた。

情報モラル教育については、学校が保護者や地域と連携して取り組むことの重要性、インターネットや携帯電話を利用する際のルールやマナーを学校で指導する必要性について、ほとんどの参加者が肯定的な意見を持っているにもかかわらず、学校において情報モラル教育を実践しているかという質問についてはごく一部の参加者からしか肯定的な回答が得

られなかった。情報モラルの指導の必要性は感じているが、具体的な指導にまでは至っていない現実が明らかになった。参加した保護者に対するアンケート結果でも、90%以上の保護者が家庭での情報モラル教育が必要であると回答している。情報モラル教育については、学校、地域、家庭の連携の下に抜本的な対策を講ずる必要がある。

情報モラル教育の第一歩は現状認識である。児童生徒がネット社会をどのようにとらえ、どのように関わっているかについて、定期的に全校アンケートを実施して実態把握を行う必要がある。その上で、

教員はもとより児童生徒や保護者に対しても集計・分析結果を周知し、学校と家庭が連携して情報モラル教育に取り組むことの必要性を認識させる必要がある。保護者は昨今の違法・有害情報や「学校裏サイト」等の危険に対して極めて敏感になっているため、保護者の理解を得て学校との連携が実現すれば効果的な指導が可能となる。

情報モラル教育の実施にあたっては、教育委員会や外部有識者の指導の下に、適切な教材を用いて効果的な指導を行う必要がある。その際、児童生徒の指導だけでなく、教員や保護者を対象とした指導者教育も行わなくてはならない。

そのためには、保護者向けのハンドブックを作成し、保護者会の協力を得て説明会や親子向けのセミナーを開催するなどの地道な活動を続けていくことが必要である。

ICT活用ハンドブックについて

「ICT活用ハンドブック」の作成にあたっては、情報教育の研究者、ICT活用授業の実践者、教員研修の担当者などが自らの知見に基づいて担当ページの執筆に従事した。編集の過程で、文部科学省のアドバイスや現場の先生方の意見をできる限り取り入れ、よりよいものを完成させるために十分な時間と労力をかけた。その結果、ICTスキルに関して様々なレベルの教員に広く活用していただける内容のものが完成したと考えている。全体的に分かりやすいイラストでまとめられており、必要に応じてリアリティのある実写写真を利用している。これにより、読者はICT活用方法の具体と効果について一目で理解できるようになっている。

活用については各地で開催されるフォーラム会場にて配布される予定であったが、編集開始時期の遅れや内容の精査に時間を要したことなどから実現しなかった。一部のフォーラムにおいてハンドブックの概要について紹介したところ、是非見てみたいという意見がアンケートの中に見られ、ICT活用と学力向上に大きな関心が寄せられていることがうかがえた。

今後、ハンドブックを県市区町村教育委員会に配布し、教員が授業でICTを活用するための指導書として使用していただくとともに、配布を希望するフォーラム参加者にも送付しICT活用効果について理解を深めていただくことにより、普及促進に資するものとする。またCECのWebにもハンドブックを掲載し、自由にダウンロードできるようにする予定である。

最後に、本プロジェクトの委員各位、およびフォーラム実施やハンドブックの作成に協力していただいた各位に心よりお礼を申し上げます。

付録 参加者アンケート

1. アンケート質問文

- (1) 教師向け
- (2) 保護者向け

2. 教師向け開催地域別アンケート回答結果

- (1) 東京都
- (2) 熊本県
- (3) 仙台市
- (4) 岡山県
- (5) 富山県
- (6) 神戸市

3. 保護者向け開催地域別アンケート回答結果

- (1) 東京都
- (2) 仙台市
- (3) 岡山県
- (4) 富山県
- (5) 神戸市

参考 熊本県・保護者向け説明会アンケート回答結果

1. アンケート質問文

(1) 教師向け

以下の項目について4つの選択肢から1つにチェックマーク「レ」を付けてください。

本日のフォーラムの内容について

フォーラムの内容は参考になったと思いますか。

とても思う やや思う あまり思わない まったく思わない

コンピュータやインターネットの活用に関して何らかのヒントが得られたと思いますか。

とても思う やや思う あまり思わない まったく思わない

ICT 活用による学力向上への効果を理解することができたと思いますか。

とても思う やや思う あまり思わない まったく思わない

ICT の効果的な活用を具体的に理解できる内容があったと思いますか。

とても思う やや思う あまり思わない まったく思わない

フォーラムの内容や研究成果を、参加していない先生方（方々）にも知ってほしいと思いますか。

とても思う やや思う あまり思わない まったく思わない

フォーラムの内容を参考にして、今後 ICT を活用した授業を実践したいと思いますか。

とても思う やや思う あまり思わない まったく思わない

フォーラムの内容を参考にして、現在の ICT 活用授業を改善したいと思いますか。

とても思う やや思う あまり思わない まったく思わない

ICT活用の効果について

教員が ICT を活用した授業をすることによって児童生徒の学力が向上すると思いますか。

とても思う やや思う あまり思わない まったく思わない

児童生徒が ICT を活用した学習をすることによって学力が向上すると思いますか。

とても思う やや思う あまり思わない まったく思わない

ICT 活用によって学力が向上することを学校に広めていくことが重要だと思いますか。

とても思う やや思う あまり思わない まったく思わない

ICT を活用した授業で、児童生徒の興味・関心を高めることができると実感したことはありますか。
(他の教員の授業も含む)

何回もある ある あまりない まったくない

情報モラル教育について

情報モラル教育の実施に際して、保護者や地域との連携が重要と思いますか。

()とても思う ()やや思う ()あまり思わない ()まったく思わない

インターネットや携帯電話を使う時のマナーやルールを学校でも教える必要があると思いますか。

()とても思う ()やや思う ()あまり思わない ()まったく思わない

あなたの学校で、情報モラルの指導が充実していると思いますか。

()とても思う ()やや思う ()あまり思わない ()まったく思わない

ICT機器の活用について

授業でプロジェクト等のICT機器を使って資料を提示していますか。

()週に1回以上 ()月に1回以上 ()学期に1回以上 ()まったく使っていない

授業でインターネットをどの程度利用していますか。

()週に1回以上 ()月に1回以上 ()学期に1回以上 ()まったく利用していない

授業において児童生徒がコンピュータ等のICTを使った発表をどの程度していますか。

()週に1回以上 ()月に1回以上 ()学期に1回以上 ()まったくしていない

調べ学習で、児童生徒がコンピュータやインターネットなどをどの程度使っていますか。

()週に1回以上 ()月に1回以上 ()学期に1回以上 ()まったく使っていない

授業に必要な資料等を作成する際に、ICTをどの程度使っていますか。

()週に1回以上 ()月に1回以上 ()学期に1回以上 ()まったく使っていない

学校にICTを活用した授業を実施できる情報機器やネットワーク環境が十分だと思いますか。

()とても思う ()やや思う ()あまり思わない ()まったく思わない

学校に校務のために使えるコンピュータが十分整備されていると思いますか。

()とても思う ()やや思う ()あまり思わない ()まったく思わない

あなた自身のことについて

授業でコンピュータを使い始めて何年になりますか

10年以上 5年以上 1年以上 1年未満 使っていない

ICTを活用した授業をどの程度実施していますか。

ほぼ毎日 週に1回以上 月に1回以上 まったく使っていない

校務処理などでICTをどの程度活用していますか。

ほぼ毎日 週に1回以上 月に1回以上 まったく使っていない

どうしたら授業や校務におけるICT活用が活発になると思いますか。

上記質問、で「まったく使っていない」にチェックをした方は、どうしたら活用したいと思うかについて書いてください。

(自由記述)

教員になって何年になりますか。 年

学校種

小学校 中学校 高等学校 その他()

担任 1年 2年 3年 4年 5年 6年 その他()

担当教科 ()

性別 男 女

年齢 20代 30代 40代 50代

自由記述

ご意見がありましたらご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

(2)保護者向け

以下の項目について4つの選択肢から1つにチェックマーク「レ」を付けてください。

本日のフォーラムの内容について

フォーラムの内容は参考になったと思いますか。

とても思う やや思う あまり思わない まったく思わない

コンピュータやインターネットの活用に関して何らかのヒントが得られたと思いますか。

とても思う やや思う あまり思わない まったく思わない

ICT活用による学力向上への効果を理解することができたと思いますか。

とても思う やや思う あまり思わない まったく思わない

フォーラムの内容や研究成果を、参加していない先生方(方々)にも知ってほしいと思いますか。

とても思う やや思う あまり思わない まったく思わない

学校で、今後先生たちにICTを活用した授業を実践してほしいと思いますか。

とても思う やや思う あまり思わない まったく思わない

フォーラムの中で、特に参考になった内容を記入してください。

フォーラムで扱ってほしかった内容、改善点を記入してください。

情報モラル教育について

家庭で情報モラルを指導するのは、重要なことだと思いますか。

とても思う やや思う あまり思わない まったく思わない

情報モラルについて、小学校低学年の時期から子どもたちに指導した方がよいと思いますか。

とても思う やや思う あまり思わない まったく思わない

インターネットや携帯電話を子どもが使う上でのルールを決めていますか。

きちんと決めている だいたい決めている わずかのことしか決めていない
 まったく決めていない

．お子さん(お孫さん)について

コンピュータやインターネットをどの程度使っていますか。

ほぼ毎日 週に1回以上 月に1回以上 まったく使っていない

携帯電話をどの程度使っていますか。

ほぼ毎日 週に1回以上 月に1回以上 まったく使っていない

携帯電話の電子メールをどの程度使っていますか。

ほぼ毎日 週に1回以上 月に1回以上 まったく使っていない

．あなた自身のことについて

コンピュータやインターネットをどの程度使っていますか。

ほぼ毎日 週に1回以上 月に1回以上 まったく使っていない

携帯電話をどの程度使っていますか。

ほぼ毎日 週に1回以上 月に1回以上 まったく使っていない

携帯電話の電子メールをどの程度使っていますか。

ほぼ毎日 週に1回以上 月に1回以上 まったく使っていない

お子さん(お孫さん)の学校種と学年(人数分に)

小学校 1年 2年 3年 4年 5年 6年
 中学校 1年 2年 3年
 高等学校 1年 2年 3年
 その他()

性別

男 女

年令 20代 30代 40代 50代 60代以上

．自由記述

ご意見がありましたらご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

2. 教師向け開催地域別アンケート回答結果

(1) 東京都

平成19年度文部科学省委託事業
ICT活用の効果に関するフォーラム 参加者アンケート【教師向け】

開催県	東京都	参加人数	184名
開催日時	平成20年1月29日	有効アンケート回収数	136名
開催場所	東京都教職員研修センター	アンケート回収率	73.9%

設問I. 本日のフォーラムの内容について

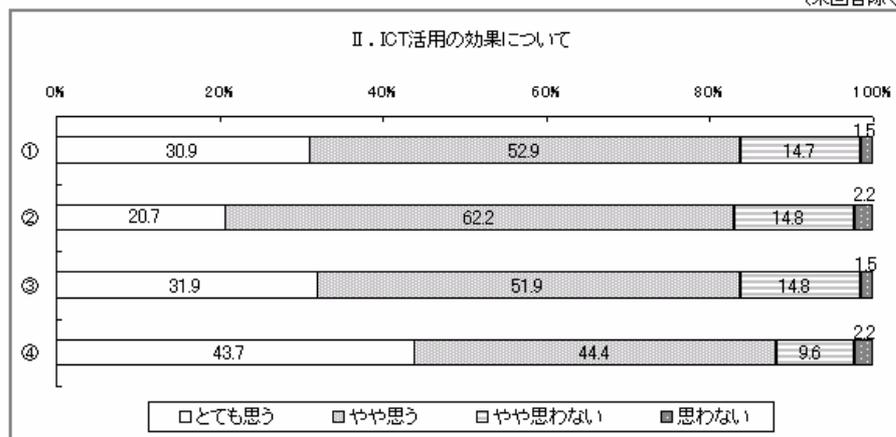
	(回答数)					未回答
	とても 思う	やや思う	やや 思わない	思わない		
①フォーラムの内容は参考になったか	30	91	14	0	1	
②コンピューターやインターネットの活用にヒントが得られたか	28	93	14	1	0	
③ICT活用による学力向上への効果を理解出来たか	35	85	14	1	1	
④ICTの効果的な活用を具体的に理解できる内容があったか	25	86	22	2	1	
⑤フォーラムの内容や研究成果を、未参加の方々にも知って欲しいか	42	74	17	2	1	
⑥フォーラムの内容を参考に今後ICTを活用した授業を実践したいか	49	65	17	2	3	
⑦フォーラムの内容を参考に現在のICT活用授業を改善したいと思うか	37	70	23	2	4	



設問Ⅱ．ICTの活用の効果について

	(回答数)				
	とても 思う	やや思う	やや 思わない	思わない	未回答
①教員がICTで授業をすることで児童生徒の学力が向上すると思うか	42	72	20	2	0
②児童生徒がICTの授業をすることで学力が向上すると思うか	28	84	20	3	1
③ICT活用での学力向上を学校に広めていくことが重要だと思うか	43	70	20	2	1
④ICT活用で児童生徒の興味・関心を高められると実感したことはあるか	59	60	13	3	1

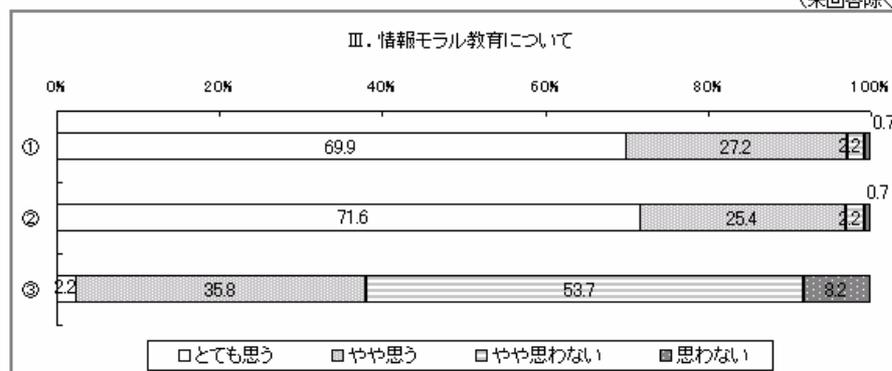
(未回答除く)



設問Ⅲ．情報モラル教育について

	(回答数)				
	とても 思う	やや思う	やや 思わない	思わない	未回答
①情報モラル教育の実施に際して保護者や地域との連携が重要か	95	37	3	1	0
②インターネットや携帯電話のマナー・ルールを学校でも教える必要があるか	96	34	3	1	2
③あなたの学校で、情報モラルの指導が充実していると思うか	3	48	72	11	2

(未回答除く)

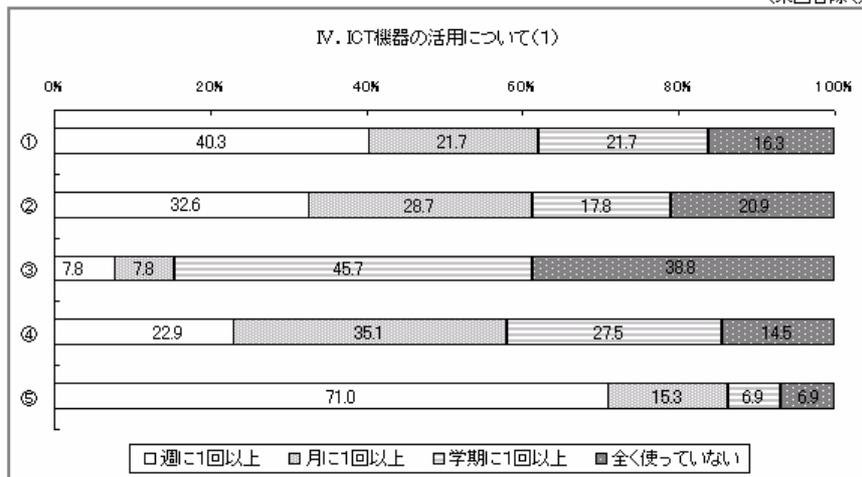


設問Ⅳ. ICT機器の活用について

(回答数)

	週1回以上	月1回以上	学期1回以上	全く使っていない	未回答
①授業でプロジェクタ等のICT機器を使って資料を提示しているか	52	28	28	21	7
②授業でインターネットをどの程度利用しているか	42	37	23	27	7
③授業で児童生徒がコンピュータ等のICTを使った発表をどの程度か	10	10	59	50	7
④調べ学習で児童生徒がコンピュータやインターネットをどの程度使用か	30	46	36	19	5
⑤授業に必要な資料等を作成する際に、ICTをどの程度使っているか	99	20	9	9	5

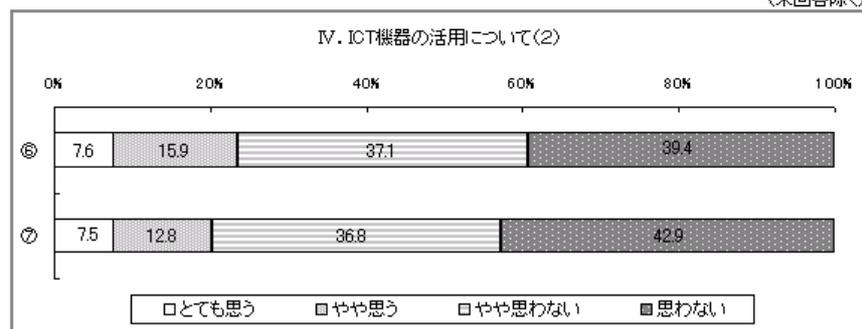
(未回答除く)



(回答数)

	とても思う	やや思う	やや思わない	思わない	未回答
⑥学校にICT活用授業実施の情報機器やネットワーク環境が十分か	10	21	49	52	4
⑦学校に校務に使えるコンピュータが十分整備されていると思うか	10	17	49	57	3

(未回答除く)



あなた自身のことについて

◇授業でコンピュータを使い始めて何年になりますか (回答数)

10年以上	5年以上	1年以上	1年未満	使っていない	未回答
71	19	25	9	6	6
52.2%	14.0%	18.4%	6.6%	4.4%	4.4%

◇ICTを活用した授業をどの程度実施していますか。 (回答数)

ほぼ毎日	週1回以上	月1回以上	使っていない	未回答
39	32	34	22	9
28.7%	23.5%	25.0%	16.2%	6.6%

◇校務処理などでICTをどの程度活用していますか。 (回答数)

ほぼ毎日	週1回以上	月1回以上	使っていない	未回答
109	10	4	7	6
80.1%	7.4%	2.9%	5.1%	4.4%

◇教員になって何年になりますか。 (回答数)

0-9年	10-19年	20-29年	30年～	未回答
49	27	38	12	10
36.0%	19.9%	27.9%	8.8%	7.4%

◇学校種 (回答数)

小学校	中学校	高等学校	その他	未回答
51	24	45	16	0
37.5%	17.6%	33.1%	11.8%	0%

◇担任 (回答数)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	その他
小学校	2	6	9	0	8	4	22 ^{1*}
	3.9%	11.8%	17.6%	0%	15.7%	7.8%	43.1% ^{2*}
中学校	4	3	3	14 ^{1*}			
	16.7%	12.5%	12.5%	58.3% ^{2*}			
高等学校	4	2	7	32 ^{1*}			
	8.9%	4.4%	15.6%	71.1% ^{2*}			

注)

1* 複数の学年を担当している場合は、担当の最高学年で表示

2* 学年ごとの%は各学校種を母数とした割合

◇性別 (回答数)

男性	女性	未回答
106	23	7
77.9%	16.9%	5.1%

◇年齢 (回答数)

20代	30代	40代	50代	未回答
30	31	43	24	8
22.1%	22.8%	31.6%	17.6%	5.9%

(2) 熊本県

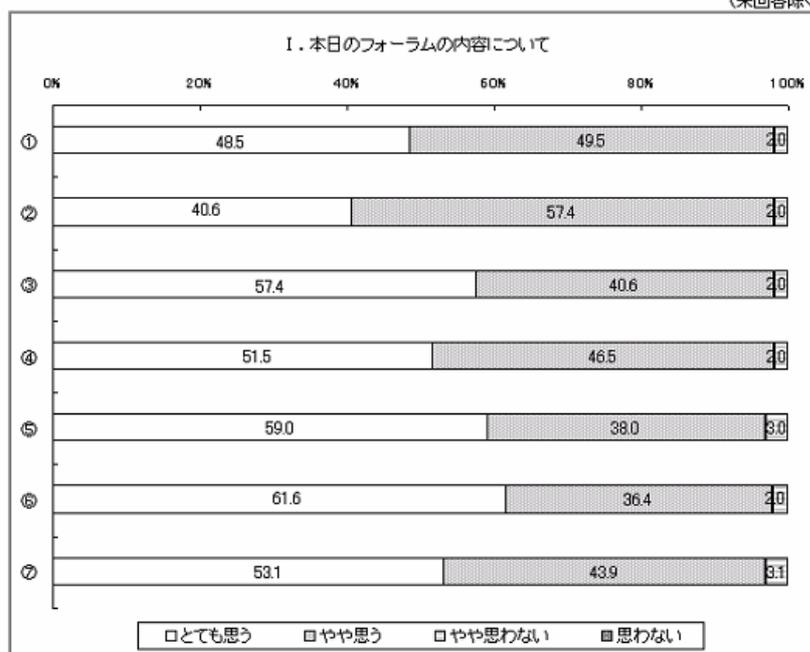
平成19年度文部科学省委託事業
ICT活用の効果に関するフォーラム 参加者アンケート【教師向け】

開催県	熊本県	参加人数	127名
開催日時	平成20年2月5日	有効アンケート回収数	104名
開催場所	熊本県立教育センター体育館	アンケート回収率	81.9%

設問Ⅰ. 本日のフォーラムの内容について

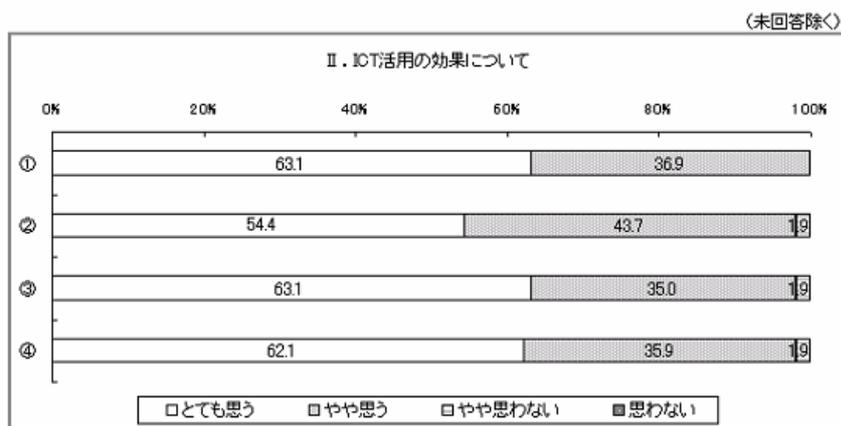
	(回答数)				
	とても 思う	やや思う	やや 思わない	思わない	未回答
①フォーラムの内容は参考になったか	49	50	2	0	3
②コンピューターやインターネットの活用にヒントが得られたか	41	58	2	0	3
③ICT活用による学力向上への効果を理解出来たか	58	41	2	0	3
④ICTの効果的な活用を具体的に理解できる内容があったか	52	47	2	0	3
⑤フォーラムの内容や研究成果を、未参加の方々にも知って欲しいか	59	38	3	0	4
⑥フォーラムの内容を参考に今後ICTを活用した授業を実践したいか	61	36	2	0	5
⑦フォーラムの内容を参考に現在のICT活用授業を改善したいと思うか	52	43	3	0	6

(未回答除く)



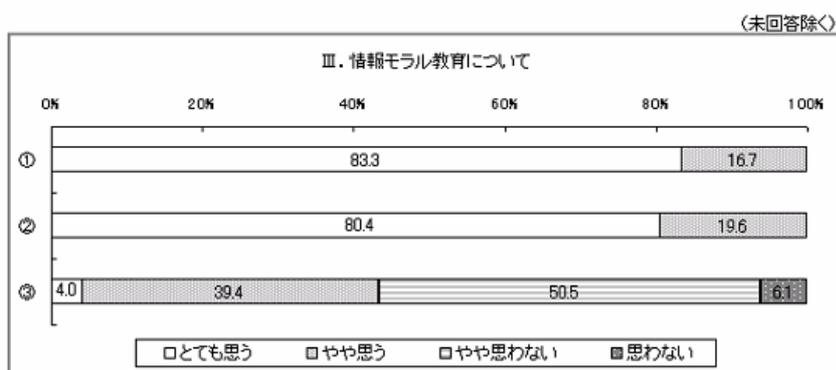
設問Ⅱ．ICTの活用の効果について

	(回答数)				
	とても 思う	やや思う	やや 思わない	思わない	未回答
①教員がICTで授業をすることで児童生徒の学力が向上すると思うか	65	38	0	0	1
②児童生徒がICTの授業をすることで学力が向上すると思うか	56	45	2	0	1
③ICT活用での学力向上を学校に広めていくことが重要だと思うか	65	36	2	0	1
④ICT活用で児童生徒の興味・関心を高められると実感したことはあるか	64	37	2	0	1



設問Ⅲ．情報モラル教育について

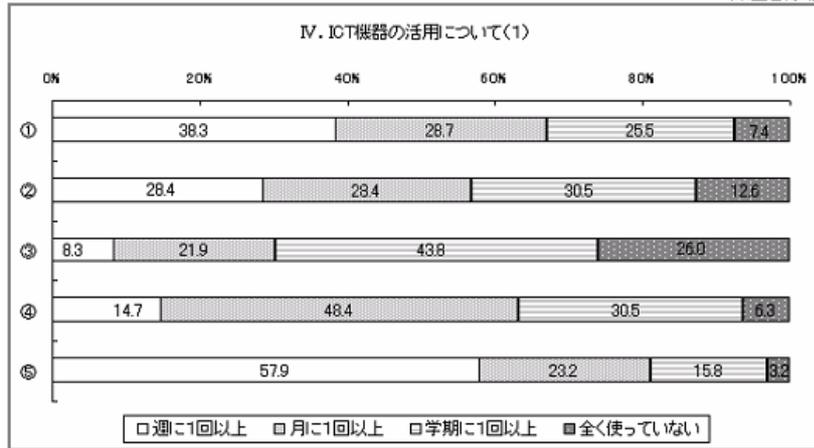
	(回答数)				
	とても 思う	やや思う	やや 思わない	思わない	未回答
①情報モラル教育の実施に際して保護者や地域との連携が重要か	85	17	0	0	2
②インターネットや携帯電話のマナー・ルールを学校でも教える必要があるか。	82	20	0	0	2
③あなたの学校で、情報モラルの指導が充実していると思うか	4	39	50	6	5



設問Ⅳ・ICT機器の活用について

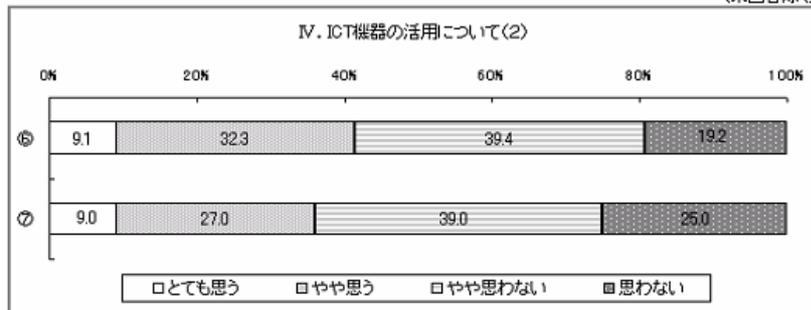
	(回答数)				
	週1回以上	月1回以上	学期1回以上	全く使っていない	未回答
①授業でプロジェクタ等のICT機器を使って資料を提示しているか	36	27	24	7	10
②授業でインターネットをどの程度利用しているか	27	27	29	12	9
③授業で児童生徒がコンピュータ等のICTを使った発表をどの程度か	8	21	42	25	8
④調べ学習で児童生徒がコンピュータやインターネットをどの程度使用か	14	46	29	6	9
⑤授業に必要な資料等を作成する際に、ICTをどの程度使っているか	55	22	15	3	9

(未回答除く)



	(回答数)				
	とても思う	やや思う	やや思わない	思わない	未回答
⑥学校にICT活用授業実施の情報機器やネットワーク環境が十分か	9	32	39	19	5
⑦学校に校務に使えるコンピュータが十分整備されていると思うか	9	27	39	25	4

(未回答除く)



あなた自身のことについて

◇授業でコンピュータを使い始めて何年になりますか (回答数)

10年以上	5年以上	1年以上	1年未満	使っていない	未回答
55	31	5	2	4	7
52.9%	29.8%	4.8%	1.9%	3.8%	6.7%

◇ICTを活用した授業をどの程度実施していますか。 (回答数)

ほぼ毎日	週1回以上	月1回以上	使っていない	未回答
22	21	36	11	14
21.2%	20.2%	34.6%	10.6%	13.5%

◇校務処理などでICTをどの程度活用していますか。 (回答数)

ほぼ毎日	週1回以上	月1回以上	使っていない	未回答
81	9	3	2	9
77.9%	8.7%	2.9%	1.9%	8.7%

◇教員になって何年になりますか。 (回答数)

0-9年	10-19年	20-29年	30年～	未回答
12	42	37	5	8
11.5%	40.4%	35.6%	4.8%	7.7%

◇学校種 (回答数)

小学校	中学校	高等学校	その他	未回答
44	31	16	7	6
42.3%	29.8%	15.4%	6.7%	5.8%

◇担任 (回答数)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	その他
小学校	1	1	4	9	7	4	18 ^{1*}
	2.3%	2.3%	9.1%	20.5%	15.9%	9.1%	40.9% ^{2*}
中学校	5	7	4	15 ^{1*}			15 ^{1*}
	16.1%	22.6%	12.9%	48.4% ^{2*}			48.4% ^{2*}
高等学校	4	1	2	9 ^{1*}			9 ^{1*}
	25.0%	6.3%	12.5%	56.3% ^{2*}			56.3% ^{2*}

注)
^{1*} 複数の学年を担当している場合は、担当の最高学年で表示
^{2*} 学年ごとの%は各学校種を母数とした割合

◇性別 (回答数)

男性	女性	未回答
88	10	6
84.6%	9.6%	5.8%

◇年齢 (回答数)

20代	30代	40代	50代	未回答
5	27	53	12	7
4.8%	26.0%	51.0%	11.5%	6.7%

(3) 仙台市

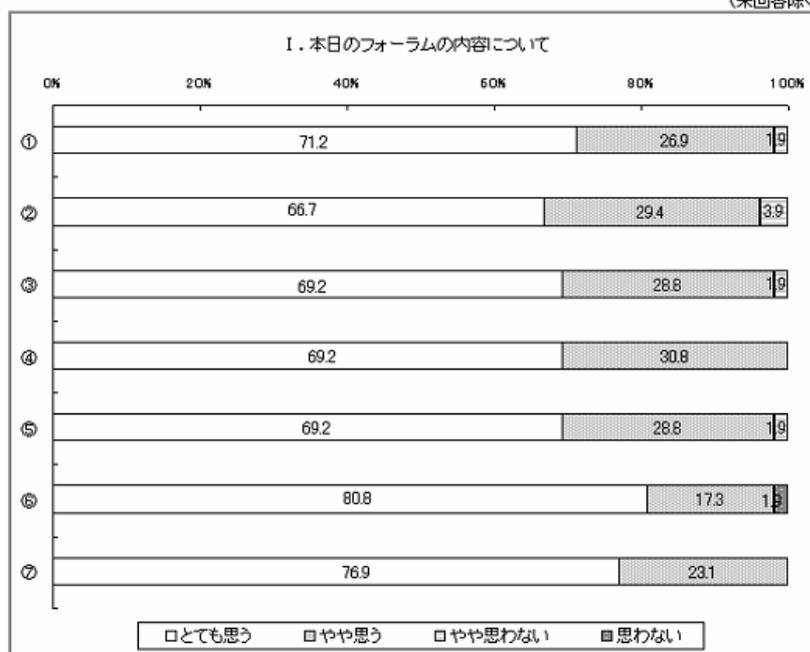
平成19年度文部科学省委託事業
ICT活用の効果に関するフォーラム 参加者アンケート【教師向け】

開催県	仙台市	参加人数	127名
開催日時	平成20年2月8日	有効アンケート回収数	52名
開催場所	仙台市青年文化センター交流ホール	アンケート回収率	40.9%

設問I. 本日のフォーラムの内容について

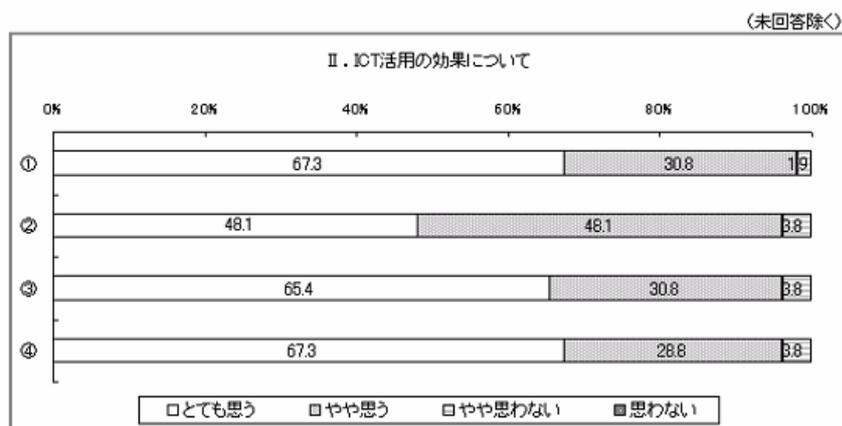
	(回答数)				
	とても 思う	やや思う	やや 思わない	思わない	未回答
①フォーラムの内容は参考になったか	37	14	1	0	0
②コンピュータやインターネットの活用にヒントが得られたか	34	15	2	0	1
③ICT活用による学力向上への効果を理解出来たか	36	15	1	0	0
④ICTの効果的な活用を具体的に理解できる内容があったか	36	16	0	0	0
⑤フォーラムの内容や研究成果を、未参加の方々にも知って欲しいか	36	15	1	0	0
⑥フォーラムの内容を参考に今後ICTを活用した授業を実践したいか	42	9	0	1	0
⑦フォーラムの内容を参考に現在のICT活用授業を改善したいと思うか	40	12	0	0	0

(未回答除く)



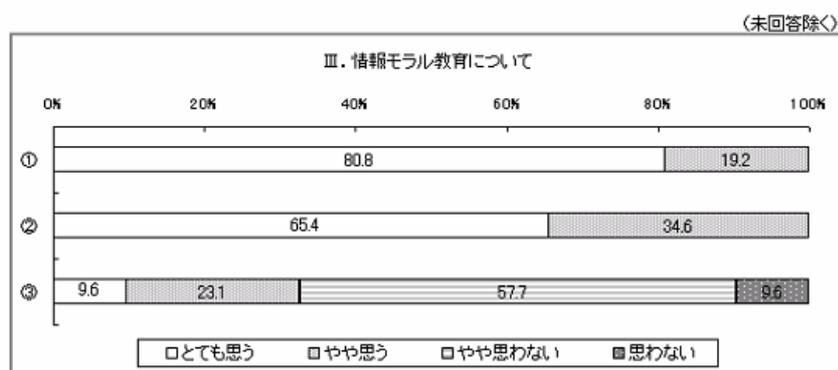
設問Ⅱ．ICTの活用の効果について

	(回答数)				
	とても 思う	やや思う	やや 思わない	思わない	未回答
①教員がICTで授業をすることで児童生徒の学力が向上すると思うか	35	16	1	0	0
②児童生徒がICTの授業をすることで学力が向上すると思うか	25	25	2	0	0
③ICT活用での学力向上を学校に広めていくことが重要だと思うか	34	16	2	0	0
④ICT活用で児童生徒の興味・関心を高められると実感したことはあるか	35	15	2	0	0



設問Ⅲ．情報モラル教育について

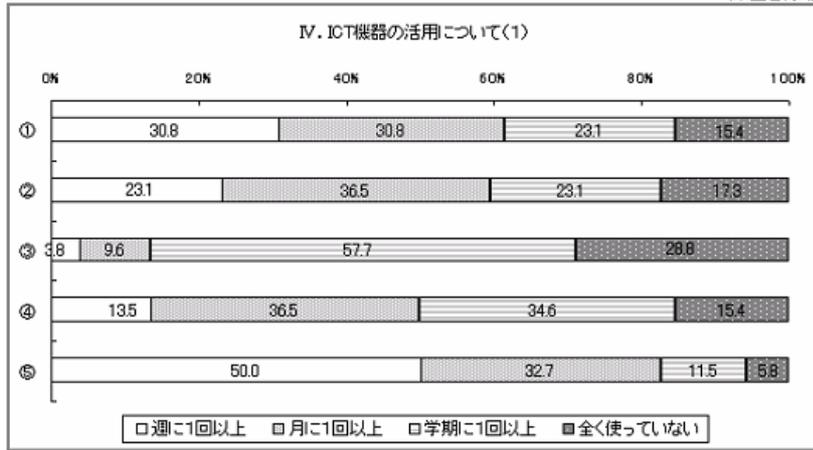
	(回答数)				
	とても 思う	やや思う	やや 思わない	思わない	未回答
①情報モラル教育の実施に際して保護者や地域との連携が重要か	42	10	0	0	0
②インターネットや携帯電話のマナー・ルールを学校でも教える必要があるか。	34	18	0	0	0
③あなたの学校で、情報モラルの指導が充実していると思うか	5	12	30	5	0



設問Ⅳ・ICT機器の活用について

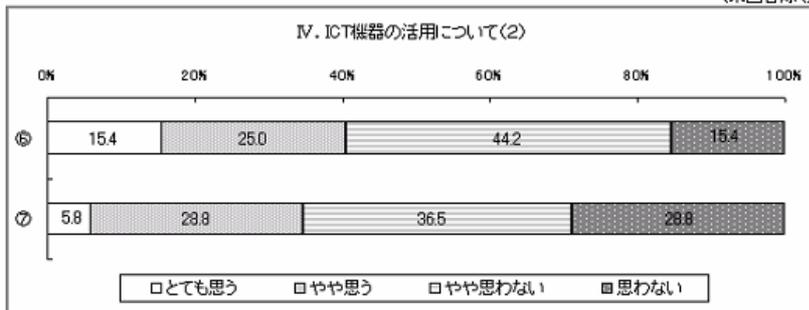
	(回答数)				
	週1回以上	月1回以上	学期1回以上	全く使っていない	未回答
①授業でプロジェクタ等のICT機器を使って資料を提示しているか	16	16	12	8	0
②授業でインターネットをどの程度利用しているか	12	19	12	9	0
③授業で児童生徒がコンピュータ等のICTを使った発表をどの程度か	2	5	30	15	0
④調べ学習で児童生徒がコンピュータやインターネットをどの程度使用か	7	19	18	8	0
⑤授業に必要な資料等を作成する際に、ICTをどの程度使っているか	26	17	6	3	0

(未回答除く)



	(回答数)				
	とても思う	やや思う	やや思わない	思わない	未回答
⑥学校にICT活用授業実施の情報機器やネットワーク環境が十分か	8	13	23	8	0
⑦学校に校務に使えるコンピュータが十分整備されていると思うか	3	15	19	15	0

(未回答除く)



あなた自身のことについて

◇授業でコンピュータを使い始めて何年になりますか (回答数)

10年以上	5年以上	1年以上	1年未満	使っていない	未回答
24	19	6	0	2	1
46.2%	36.5%	11.5%	0%	3.8%	1.9%

◇ICTを活用した授業をどの程度実施していますか。 (回答数)

ほぼ毎日	週1回以上	月1回以上	使っていない	未回答
9	15	21	6	1
17.3%	28.6%	40.4%	11.5%	1.9%

◇校務処理などでICTをどの程度活用していますか。 (回答数)

ほぼ毎日	週1回以上	月1回以上	使っていない	未回答
41	6	4	0	1
78.8%	11.5%	7.7%	0%	1.9%

◇教員になって何年になりますか。 (回答数)

0-9年	10-19年	20-29年	30年～	未回答
7	18	23	1	3
13.5%	34.6%	44.2%	1.9%	5.8%

◇学校種 (回答数)

小学校	中学校	高等学校	その他	未回答
33	18	0	1	0
63.5%	34.6%	0%	1.9%	0%

◇担任 (回答数)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	その他
小学校	3	1	7	6	3	3	10 ^{1*}
	9.1%	3.0%	21.2%	18.2%	9.1%	9.1%	30.3% ^{2*}
中学校	2	5	2	9 ^{1*}			9 ^{1*}
	11.1%	27.8%	11.1%	50.0% ^{2*}			
高等学校	0	0	0	0 ^{1*}			0 ^{1*}
	0%	0%	0%	0% ^{2*}			

注)
^{1*} 複数の学年を担当している場合は、担当の最高学年で表示
^{2*} 学年ごとの%は各学校種を母数とした割合

◇性別 (回答数)

男性	女性	未回答
39	12	1
75.0%	23.1%	1.9%

◇年齢 (回答数)

20代	30代	40代	50代	未回答
4	14	24	9	1
7.7%	26.9%	46.2%	17.3%	1.9%

(4) 岡山県

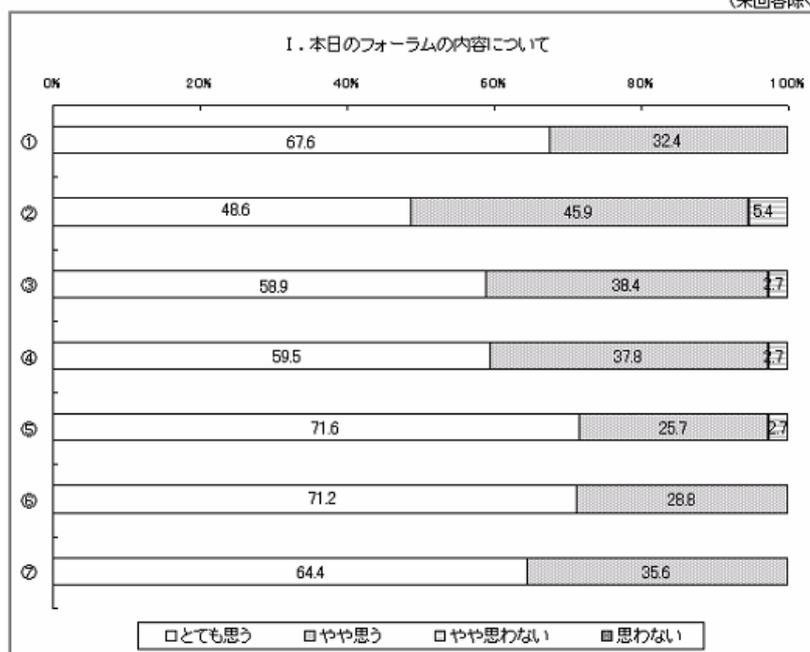
平成19年度文部科学省委託事業
ICT活用の効果に関するフォーラム 参加者アンケート【教師向け】

開催県	岡山県	参加人数	92名
開催日時	平成20年2月1日	有効アンケート回収数	74名
開催場所	岡山県国際交流センター	アンケート回収率	80.4%

設問I. 本日のフォーラムの内容について

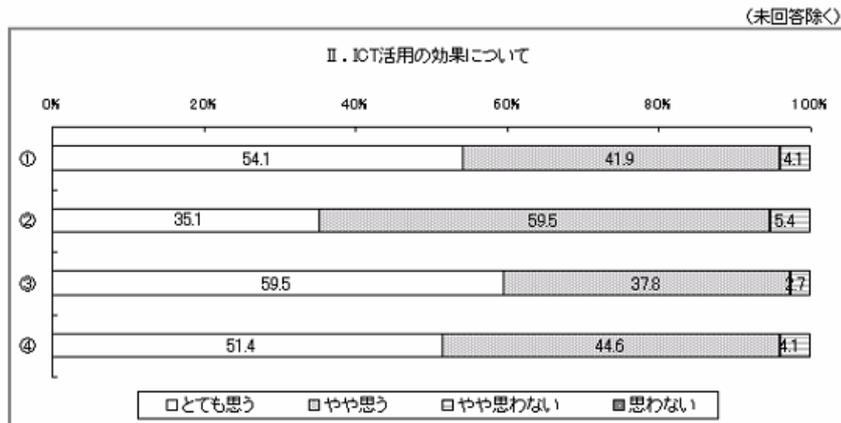
	(回答数)				
	とても 思う	やや思う	やや 思わない	思わない	未回答
①フォーラムの内容は参考になったか	50	24	0	0	0
②コンピューターやインターネットの活用にヒントが得られたか	36	34	4	0	0
③ICT活用による学力向上への効果を理解出来たか	43	28	2	0	1
④ICTの効果的な活用を具体的に理解できる内容があったか	44	28	2	0	0
⑤フォーラムの内容や研究成果を、未参加の方々にも知って欲しいか	53	19	2	0	0
⑥フォーラムの内容を参考に今後ICTを活用した授業を实践したいか	52	21	0	0	1
⑦フォーラムの内容を参考に現在のICT活用授業を改善したいと思うか	47	26	0	0	1

(未回答除く)



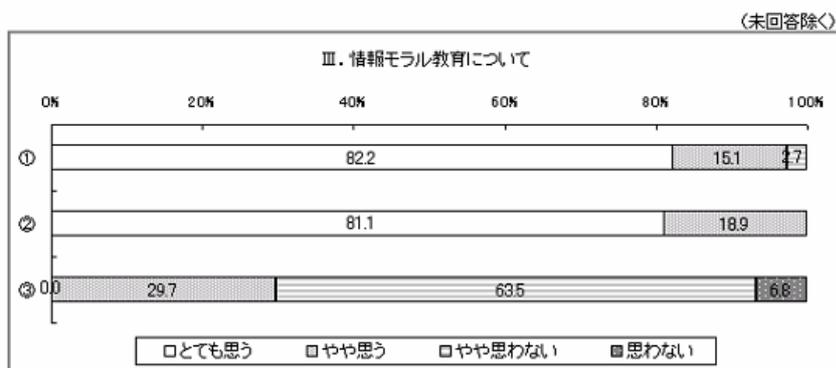
設問Ⅱ．ICTの活用の効果について

	(回答数)				
	とても 思う	やや思う	やや 思わない	思わない	未回答
①教員がICTで授業をすることで児童生徒の学力が向上すると思うか	40	31	3	0	0
②児童生徒がICTの授業をすることで学力が向上すると思うか	26	44	4	0	0
③ICT活用での学力向上を学校に広めていくことが重要だと思うか	44	28	2	0	0
④ICT活用で児童生徒の興味・関心を高められると実感したことはあるか	38	33	3	0	0



設問Ⅲ．情報モラル教育について

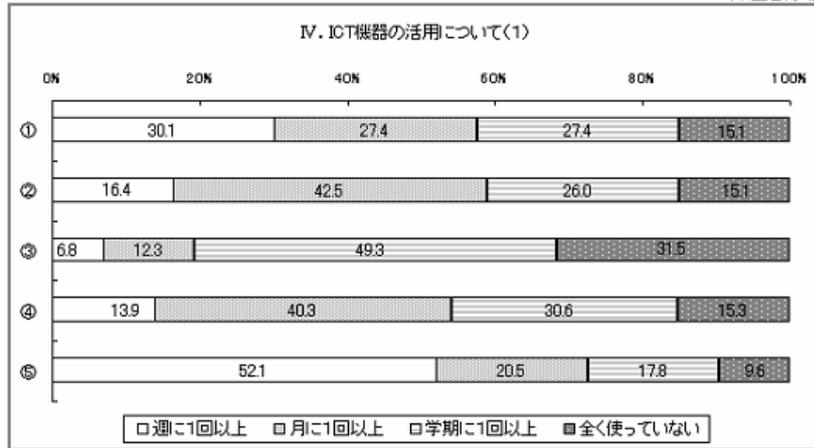
	(回答数)				
	とても 思う	やや思う	やや 思わない	思わない	未回答
①情報モラル教育の実施に際して保護者や地域との連携が重要か	60	11	2	0	1
②インターネットや携帯電話のマナーを学校でも教える必要があるか。	60	14	0	0	0
③あなたの学校で、情報モラルの指導が充実していると思うか	0	22	47	5	0



設問Ⅳ・ICT機器の活用について

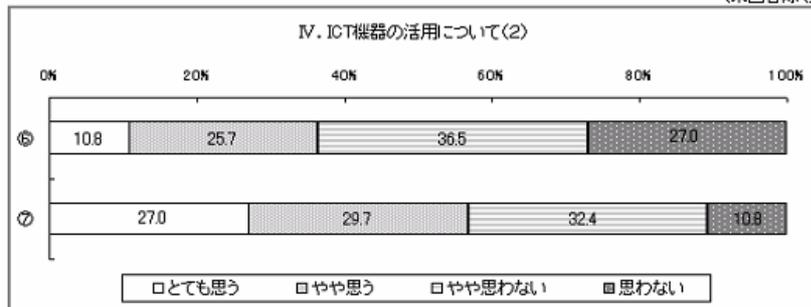
	(回答数)				
	週1回以上	月1回以上	学期1回以上	全く使っていない	未回答
①授業でプロジェクタ等のICT機器を使って資料を提示しているか	22	20	20	11	1
②授業でインターネットをどの程度利用しているか	12	31	19	11	1
③授業で児童生徒がコンピュータ等のICTを使った発表をどの程度か	5	9	36	23	1
④調べ学習で児童生徒がコンピュータやインターネットをどの程度使用か	10	29	22	11	2
⑤授業に必要な資料等を作成する際に、ICTをどの程度使っているか	38	15	13	7	1

(未回答除く)



	(回答数)				
	とても思う	やや思う	やや思わない	思わない	未回答
⑥学校にICT活用授業実施の情報機器やネットワーク環境が十分か	8	19	27	20	0
⑦学校に校務に使えるコンピュータが十分整備されていると思うか	20	22	24	8	0

(未回答除く)



あなた自身のことについて

◇授業でコンピュータを使い始めて何年になりますか (回答数)

10年以上	5年以上	1年以上	1年未満	使っていない	未回答
35	21	7	2	9	0
47.3%	28.4%	9.5%	2.7%	12.2%	0%

◇ICTを活用した授業をどの程度実施していますか。 (回答数)

ほぼ毎日	週1回以上	月1回以上	使っていない	未回答
8	21	26	16	3
10.8%	28.4%	35.1%	21.6%	4.1%

◇校務処理などでICTをどの程度活用していますか。 (回答数)

ほぼ毎日	週1回以上	月1回以上	使っていない	未回答
55	9	7	2	1
74.3%	12.2%	9.5%	2.7%	1.4%

◇教員になって何年になりますか。 (回答数)

0-9年	10-19年	20-29年	30年～	未回答
18	22	29	2	3
24.3%	29.7%	39.2%	2.7%	4.1%

◇学校種 (回答数)

小学校	中学校	高等学校	その他	未回答
29	19	22	4	0
39.2%	25.7%	29.7%	5.4%	0%

◇担任 (回答数)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	その他	
小学校	1	2	5	5	7	6	3	1*
	3.4%	6.9%	17.2%	17.2%	24.1%	20.7%	10.3%	2*
中学校	1年	2年	3年	その他				
	4	8	0	7				1*
	21.1%	42.1%	0%	36.8%				2*
高等学校	1年	2年	3年	その他				
	8	2	6	6				1*
	36.4%	9.1%	27.3%	27.3%				2*

注)
1* 複数の学年を担当している場合は、担当の最高学年で表示
2* 学年ごとの%は各学校種を母数とした割合

◇性別 (回答数)

男性	女性	未回答
62	10	2
83.8%	13.5%	2.7%

◇年齢 (回答数)

20代	30代	40代	50代	未回答
13	14	36	9	2
17.6%	18.9%	48.6%	12.2%	2.7%

(5) 富山県

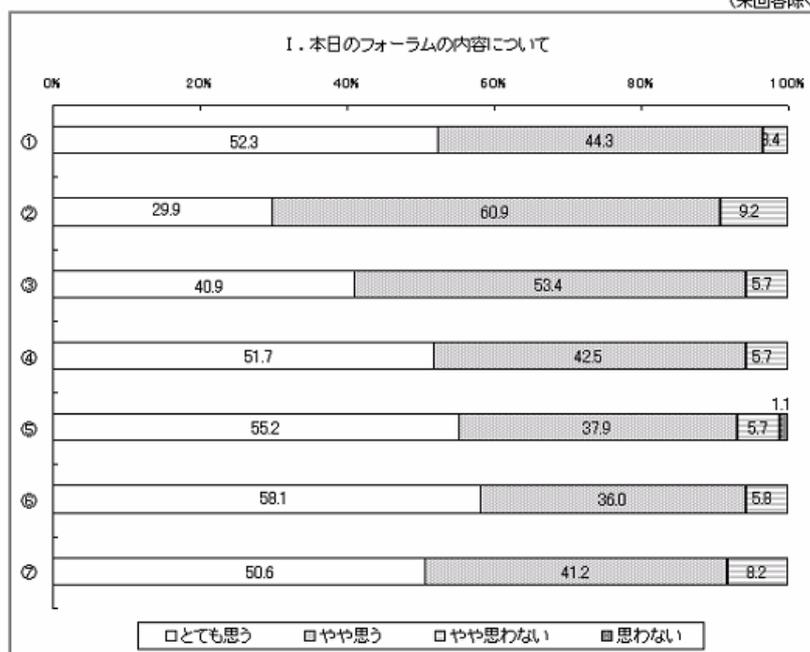
平成19年度文部科学省委託事業
ICT活用の効果に関するフォーラム 参加者アンケート【教師向け】

開催県	富山県	参加人数	116名
開催日時	平成20年2月19日	有効アンケート回収数	90名
開催場所	北日本新聞社ホール	アンケート回収率	77.6%

設問I. 本日のフォーラムの内容について

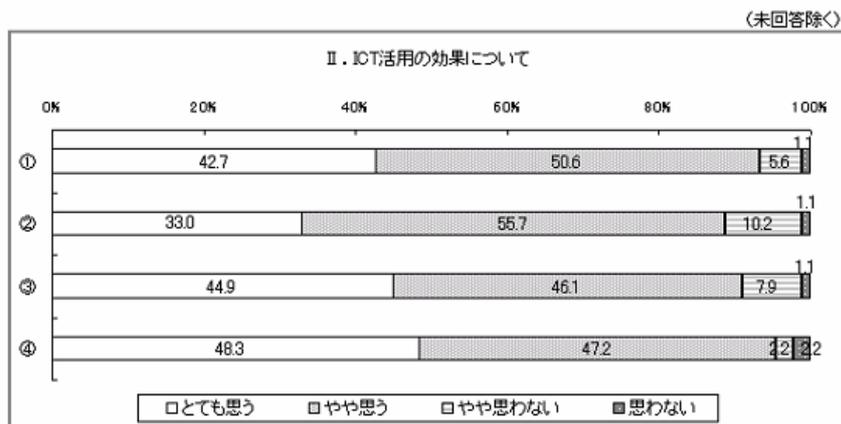
	(回答数)				
	とても 思う	やや思う	やや 思わない	思わない	未回答
①フォーラムの内容は参考になったか	46	39	3	0	2
②コンピューターやインターネットの活用ヒントが得られたか	26	53	8	0	3
③ICT活用による学力向上への効果を理解出来たか	36	47	5	0	2
④ICTの効果的な活用を具体的に理解できる内容があったか	45	37	5	0	3
⑤フォーラムの内容や研究成果を、未参加の方々にも知って欲しいか	48	33	5	1	3
⑥フォーラムの内容を参考に今後ICTを活用した授業を实践したいか	50	31	5	0	4
⑦フォーラムの内容を参考に現在のICT活用授業を改善したいと思うか	43	35	7	0	5

(未回答除く)



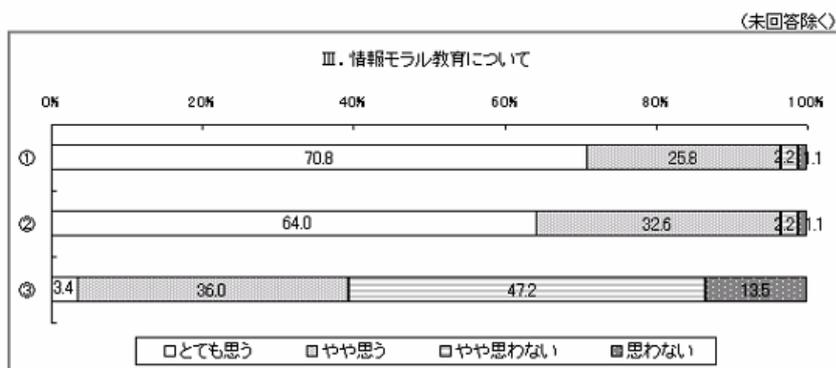
設問Ⅱ・ICTの活用の効果について

	(回答数)					未回答
	とても 思う	やや思う	やや 思わない	思わない		
①教員がICTで授業をすることで児童生徒の学力が向上すると思うか	38	45	5	1		1
②児童生徒がICTの授業をすることで学力が向上すると思うか	29	49	9	1		2
③ICT活用での学力向上を学校に広めていくことが重要だと思うか	40	41	7	1		1
④ICT活用で児童生徒の興味・関心を高められると実感したことはあるか	43	42	2	2		1



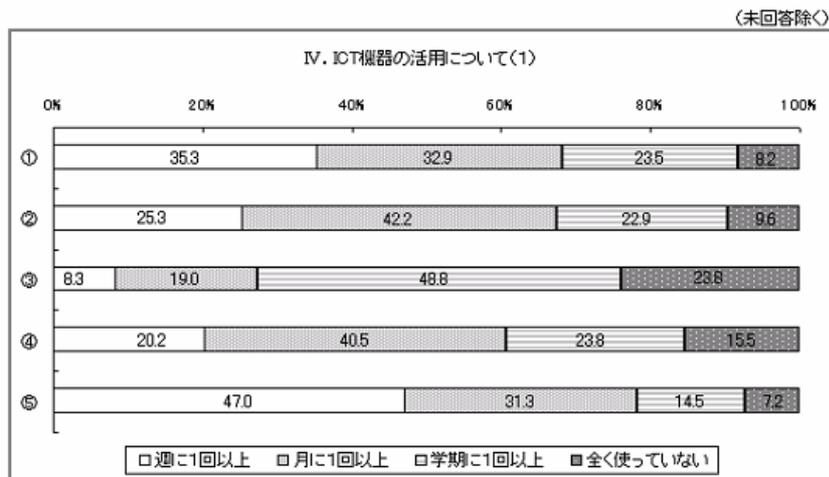
設問Ⅲ・情報モラル教育について

	(回答数)					未回答
	とても 思う	やや思う	やや 思わない	思わない		
①情報モラル教育の実施に際して保護者や地域との連携が重要か	63	29	2	1		1
②インターネットや携帯電話のマナー・ルールを学校でも教える必要があるか。	57	29	2	1		1
③あなたの学校で、情報モラルの指導が充実していると思うか	3	32	42	12		1

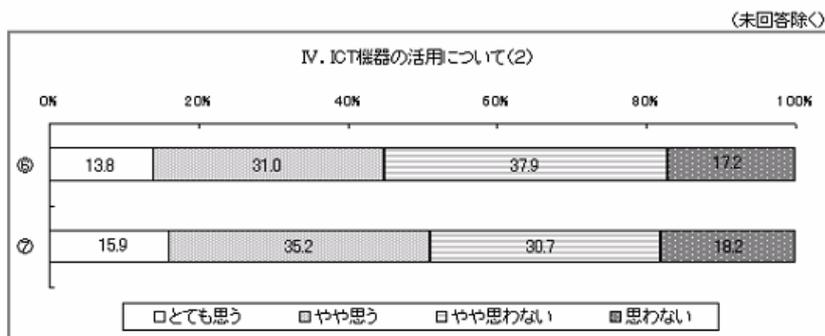


設問Ⅳ・ICT機器の活用について

	(回答数)				
	週1回以上	月1回以上	学期1回以上	全く使っていない	未回答
①授業でプロジェクタ等のICT機器を使って資料を提示しているか	30	28	20	7	5
②授業でインターネットをどの程度利用しているか	21	35	19	8	7
③授業で児童生徒がコンピュータ等のICTを使った発表をどの程度か	7	16	41	20	6
④調べ学習で児童生徒がコンピュータやインターネットをどの程度使用か	17	34	20	13	6
⑤授業に必要な資料等を作成する際に、ICTをどの程度使っているか	39	26	12	6	7



	(回答数)				
	とても思う	やや思う	やや思わない	思わない	未回答
⑤学校にICT活用授業実施の情報機器やネットワーク環境が十分か	12	27	33	15	3
⑦学校に校務に使えるコンピュータが十分整備されていると思うか	14	31	27	16	2



あなた自身のことについて

◇授業でコンピュータを使い始めて何年になりますか (回答数)

10年以上	5年以上	1年以上	1年未満	使っていない	未回答
45	26	9	1	5	4
50.0%	28.9%	10.0%	1.1%	5.6%	4.4%

◇ICTを活用した授業をどの程度実施していますか。 (回答数)

ほぼ毎日	週1回以上	月1回以上	使っていない	未回答
13	21	40	12	4
14.4%	23.3%	44.4%	13.3%	4.4%

◇校務処理などでICTをどの程度活用していますか。 (回答数)

ほぼ毎日	週1回以上	月1回以上	使っていない	未回答
75	5	2	5	3
83.3%	5.6%	2.2%	5.6%	3.3%

◇教員になって何年になりますか。 (回答数)

0-9年	10-19年	20-29年	30年～	未回答
17	10	47	12	4
18.9%	11.1%	52.2%	13.3%	4.4%

◇学校種 (回答数)

小学校	中学校	高等学校	その他	未回答
63	7	13	3	4
70.0%	7.8%	14.4%	3.3%	4.4%

◇担任 (回答数)

小学校	1年	2年	3年	4年	5年	6年	その他
	1	8	5	10	5	4	30 ^{1*}
	1.6%	12.7%	7.9%	15.9%	7.9%	6.3%	47.6% ^{2*}
中学校	1年	2年	3年	その他			
	2	1	0	4 ^{1*}			
	28.6%	14.3%	0%	57.1% ^{2*}			
高等学校	1年	2年	3年	その他			
	3	2	5	3 ^{1*}			
	23.1%	15.4%	38.5%	23.1% ^{2*}			

注)
^{1*} 複数の学年を担当している場合は、担当の最高学年で表示
^{2*} 学年ごとの%は各学校種を母数とした割合

◇性別 (回答数)

男性	女性	未回答
66	21	3
73.3%	23.3%	3.3%

◇年齢 (回答数)

20代	30代	40代	50代	未回答
8	14	39	24	5
8.9%	15.6%	43.3%	26.7%	5.6%

(6) 神戸市

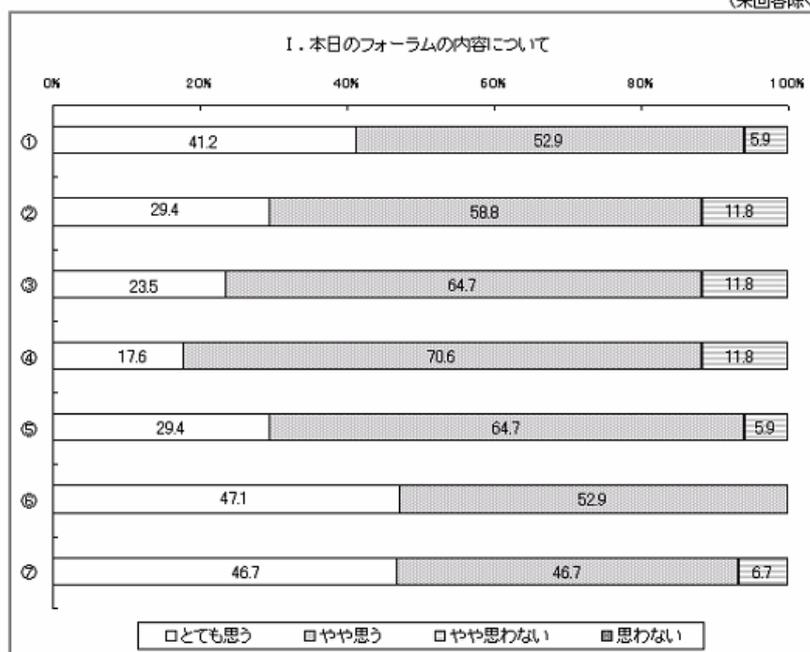
平成19年度文部科学省委託事業
ICT活用の効果に関するフォーラム 参加者アンケート【教師向け】

開催県	神戸市	参加人数	46名
開催日時	平成20年3月4日	有効アンケート回収数	18名
開催場所	神戸市総合教育センター	アンケート回収率	39.1%

設問I. 本日のフォーラムの内容について

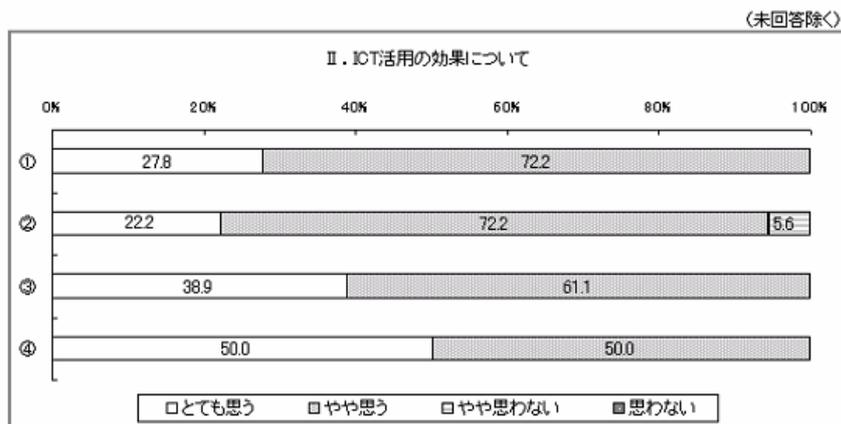
	(回答数)				
	とても 思う	やや思う	やや 思わない	思わない	未回答
①フォーラムの内容は参考になったか	7	9	1	0	1
②コンピューターやインターネットの活用ヒントが得られたか	5	10	2	0	1
③ICT活用による学力向上への効果を理解出来たか	4	11	2	0	1
④ICTの効果的な活用を具体的に理解できる内容があったか	3	12	2	0	1
⑤フォーラムの内容や研究成果を、未参加の方々にも知って欲しいか	5	11	1	0	1
⑥フォーラムの内容を参考に今後ICTを活用した授業を実践したいか	8	9	0	0	1
⑦フォーラムの内容を参考に現在のICT活用授業を改善したいと思うか	7	7	1	0	3

(未回答除く)



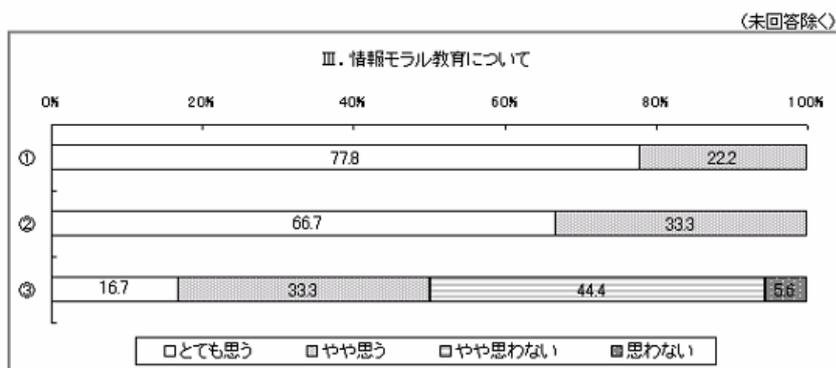
設問Ⅱ．ICTの活用の効果について

	(回答数)				
	とても 思う	やや思う	やや 思わない	思わない	未回答
①教員がICTで授業をすることで児童生徒の学力が向上すると思うか	5	13	0	0	0
②児童生徒がICTの授業をすることで学力が向上すると思うか	4	13	1	0	0
③ICT活用での学力向上を学校に広めていくことが重要だと思うか	7	11	0	0	0
④ICT活用で児童生徒の興味・関心を高められると実感したことはあるか	8	8	0	0	2



設問Ⅲ．情報モラル教育について

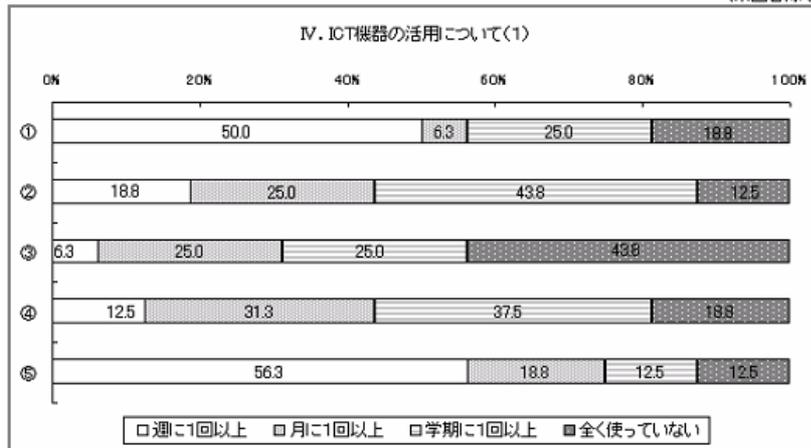
	(回答数)				
	とても 思う	やや思う	やや 思わない	思わない	未回答
①情報モラル教育の実施に際して保護者や地域との連携が重要か	14	4	0	0	0
②インターネットや携帯電話のマナー・ルールを学校でも教える必要があるか。	12	6	0	0	0
③あなたの学校で、情報モラルの指導が充実していると思うか	3	6	8	1	0



設問Ⅳ・ICT機器の活用について

	(回答数)				
	週1回以上	月1回以上	学期1回以上	全く使っていない	未回答
①授業でプロジェクト等のICT機器を使って資料を提示しているか	8	1	4	3	2
②授業でインターネットをどの程度利用しているか	3	4	7	2	2
③授業で児童生徒がコンピュータ等のICTを使った発表をどの程度か	1	4	4	7	2
④調べ学習で児童生徒がコンピュータやインターネットをどの程度使用か	2	5	6	3	2
⑤授業に必要な資料等を作成する際に、ICTをどの程度使っているか	9	3	2	2	2

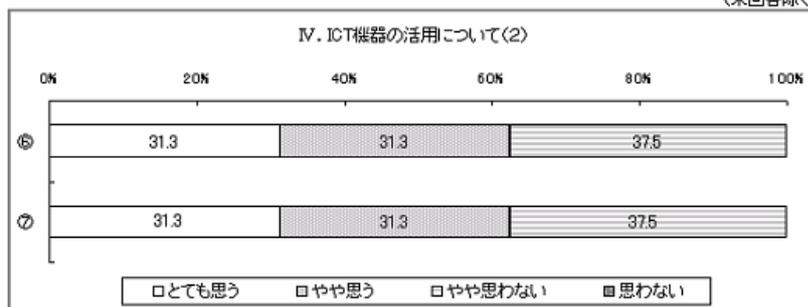
(未回答除く)



(回答数)

	とても思う	やや思う	やや思わない	思わない	未回答
	⑥学校にICT活用授業実施の情報機器やネットワーク環境が十分か	5	5	6	0
⑦学校に校務に使えるコンピュータが十分整備されていると思うか	5	5	6	0	2

(未回答除く)



あなた自身のことについて

◇授業でコンピュータを使い始めて何年になりますか (回答数)

10年以上	5年以上	1年以上	1年未満	使ってない	未回答
9	2	2	1	1	3
50.0%	11.1%	11.1%	5.6%	5.6%	16.7%

◇ICTを活用した授業をどの程度実施していますか。 (回答数)

ほぼ毎日	週1回以上	月1回以上	使ってない	未回答
5	3	3	3	4
27.8%	16.7%	16.7%	16.7%	22.2%

◇校務処理などでICTをどの程度活用していますか。 (回答数)

ほぼ毎日	週1回以上	月1回以上	使ってない	未回答
12	1	2	0	3
66.7%	5.6%	11.1%	0%	16.7%

◇教員になって何年になりますか。 (回答数)

0-9年	10-19年	20-29年	30年～	未回答
7	2	7	1	1
38.9%	11.1%	38.9%	5.6%	5.6%

◇学校種 (回答数)

小学校	中学校	高等学校	その他	未回答
10	4	3	0	1
55.6%	22.2%	16.7%	0%	5.6%

◇担任 (回答数)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	その他
小学校	1	3	0	2	0	1	1 ^{1*}
	10.0%	30.0%	0%	20.0%	0%	10.0%	10.0% ^{2*}
中学校	1	0	0	3			1 ^{1*}
	25.0%	0%	0%	75.0%			2 ^{2*}
高等学校	0	1	0	2			1 ^{1*}
	0%	33.3%	0%	66.7%			2 ^{2*}

注)
 1* 複数の学年を担当している場合は、担当の最高学年で表示
 2* 学年ごとの%は各学校種を母数とした割合

◇性別 (回答数)

男性	女性	未回答
13	4	1
72.2%	22.2%	5.6%

◇年齢 (回答数)

20代	30代	40代	50代	未回答
4	3	5	5	1
22.2%	16.7%	27.8%	27.8%	5.6%

3. 保護者向け開催地域別アンケート回答結果

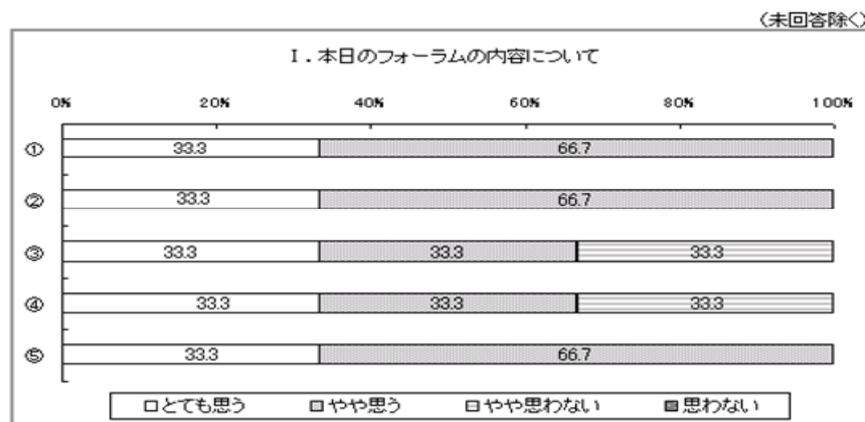
(1) 東京都

平成19年度文部科学省委託事業
ICT活用の効果に関するフォーラム 参加者アンケート【保護者向け】

開催県	東京都	参加人数	9名
開催日時	平成20年1月29日	有効アンケート回収数	3名
開催場所	東京都教職員研修センター	アンケート回収率	33.3%

設問I. 本日のフォーラムの内容について

	(回答数)				
	とても 思う	やや思う	やや 思わない	思わない	未回答
①フォーラムの内容は参考になったか	1	2	0	0	0
②コンピュータやインターネットの活用のヒントが得られたか	1	2	0	0	0
③ICT活用による学力向上の効果を理解することができたか	1	1	1	0	0
④フォーラムの内容・研究成果を未参加の先生方も知って欲しいか	1	1	1	0	0
⑤学校で今後先生達にICTを活用した授業を実践してほしいか	1	2	0	0	0

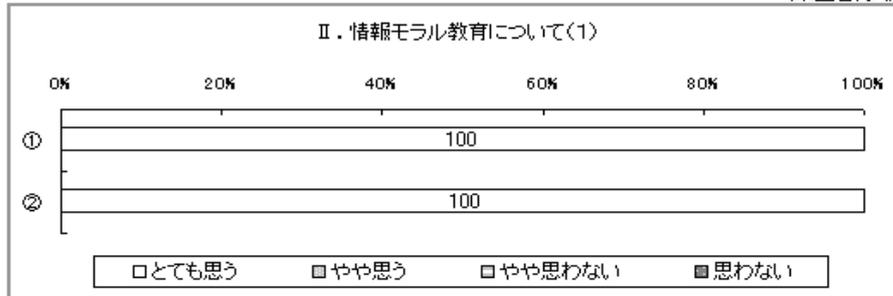


設問Ⅱ．情報モラル教育について

(回答数)

	とても 思う	やや思う	やや 思わない	思わない	未回答
①家庭で情報モラルを指導するのは、重要なことだと思うか	3	0	0	0	0
②情報モラルを小学校低学年から子ども達に指導した方がよいか	3	0	0	0	0

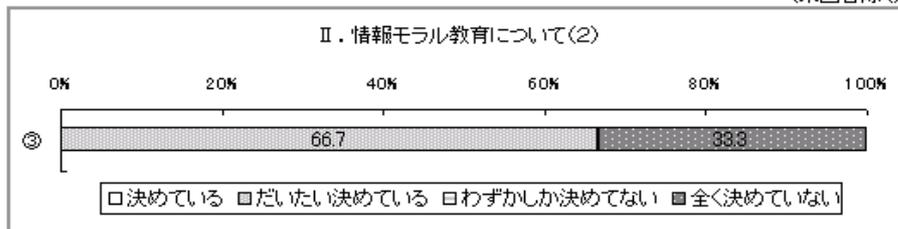
(未回答除く)



(回答数)

	決めている	だいたい 決めている	わずかしが 決めてない	全く決めて いない	未回答
③インターネット・携帯電話を子どもが使うルールを決めているか	0	2	0	1	0

(未回答除く)

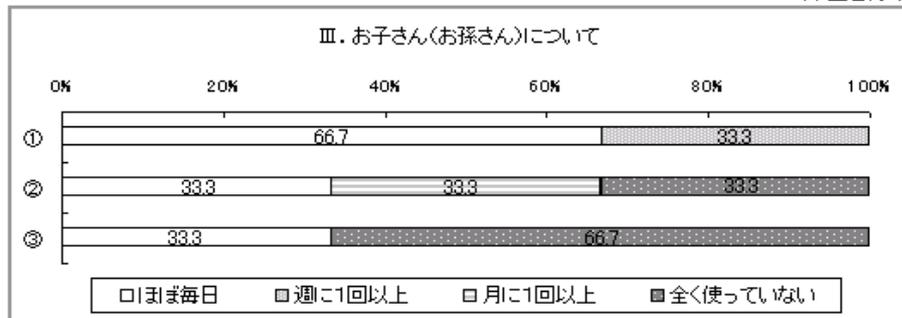


設問Ⅲ．お子さん(お孫さん)について

(回答数)

	ほぼ毎日	週1回 以上	月1回 以上	全く使って いない	未回答
①コンピューターやインターネットをどの程度使用か	2	1	0	0	0
②携帯電話をどの程度使っているか	1	0	1	1	0
③携帯電話の電子メールをどの程度使っているか	1	0	0	2	0

(未回答除く)



あなた自身のことについて

	(回答数)				未回答
	1回毎日	週1回以上	月1回以上	全く使っていない	
①コンピューターやインターネットをどの程度使用か	3	0	0	0	0
②携帯電話をどの程度使っているか	3	0	0	0	0
③携帯電話の電子メールをどの程度使っているか	3	0	0	0	0

(未回答除く)



⑤お子さん(お孫さん)の学校種と学年

学校種	(複数回答)					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
小学校	0	0	1	0	0	1
	33.3% ^{1*}	0%	100%	0%	0%	100% ^{2*}
中学校	0	2	0			
	66.7% ^{1*}	100%	0% ^{2*}			
高等学校	0	0	1			
	33.3% ^{1*}	0%	100% ^{2*}			
その他	0	0	0			
	33.3% ^{1*}	0%	0%			

注)

1* 学校種の%は有効アンケート回収数を母数とした割合であり
複数回答の為、合計は100%を越えている

2* 学年ごとの%は各学校種を母数とした割合であり
複数回答の為、合計は100%を越えている

⑥性別

(回答数)		
男性	女性	未回答
2	1	0
66.7%	33.3%	0%

⑦年齢

(回答数)					
20代	30代	40代	50代	60代以上	未回答
0	0	2	0	1	0
0%	0%	66.7%	0%	33.3%	0%

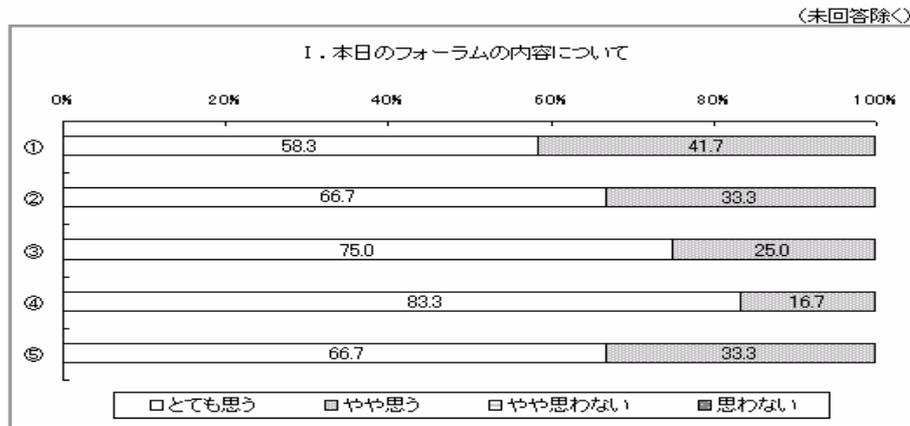
(2) 仙台市

平成19年度文部科学省委託事業
ICT活用の効果に関するフォーラム 参加者アンケート【保護者向け】

開催県	仙台市	参加人数	22名
開催日時	平成20年2月8日	有効アンケート回収数	12名
開催場所	仙台市青年文化センター交流ホール	アンケート回収率	54.5%

設問Ⅰ. 本日のフォーラムの内容について

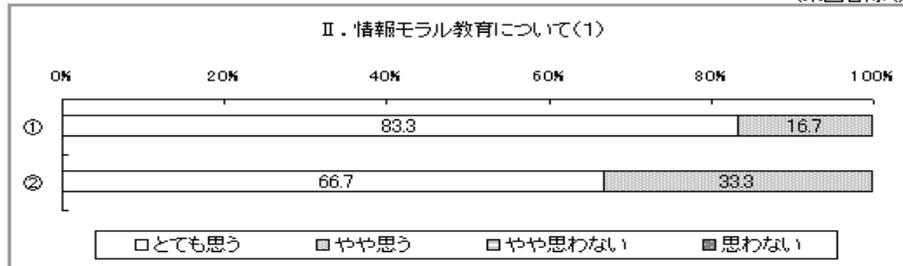
	(回答数)				
	とても 思う	やや思う	やや 思わない	思わない	未回答
①フォーラムの内容は参考になったか	7	5	0	0	0
②コンピュータやインターネットの活用のヒントが得られたか	8	4	0	0	0
③ICT活用による学力向上の効果を理解することができたか	9	3	0	0	0
④フォーラムの内容・研究成果を未参加の先生方も知って欲しいか	10	2	0	0	0
⑤学校で今後先生達にICTを活用した授業を実践して欲しいか	8	4	0	0	0



設問Ⅱ．情報モラル教育について

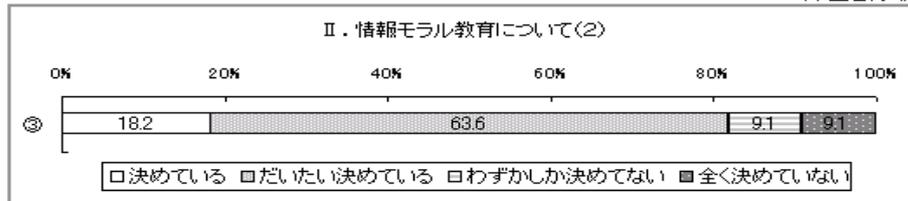
	(回答数)				
	とても思う	やや思う	やや思わない	思わない	未回答
①家庭で情報モラルを指導するのは、重要なことだと思うか	10	2	0	0	0
②情報モラルを小学校低学年から子ども達に指導した方がよいか	8	4	0	0	0

(未回答除く)



	(回答数)				
	決めている	だいたい決めている	わずかしが決めてない	全く決めていない	未回答
③インターネット・携帯電話を子どもが使うルールを決めているか	2	7	1	1	1

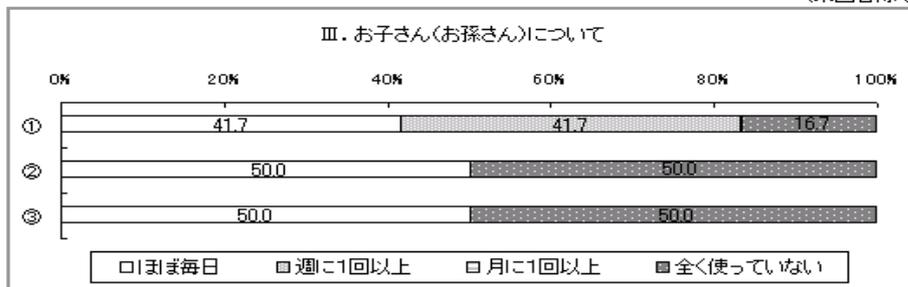
(未回答除く)



設問Ⅲ．お子さん(お孫さん)について

	(回答数)				
	1回も毎日	週1回以上	月1回以上	全く使っていない	未回答
①コンピューターやインターネットをどの程度使用か	5	5	0	2	0
②携帯電話をどの程度使っているか	6	0	0	6	0
③携帯電話の電子メールをどの程度使っているか	6	0	0	6	0

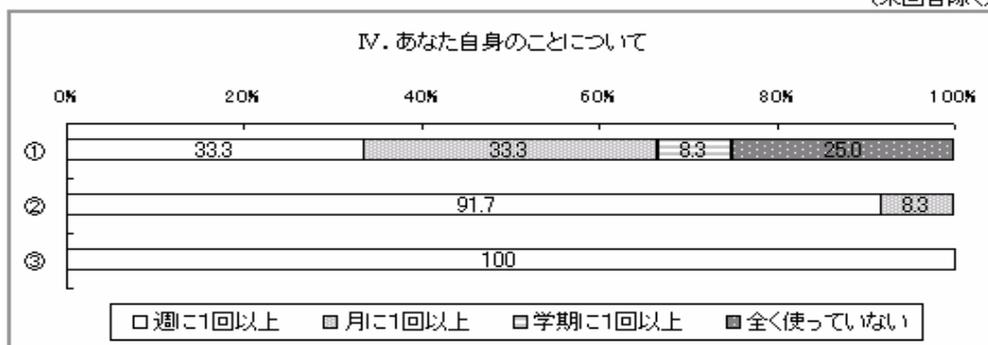
(未回答除く)



あなた自身のことについて

	(回答数)				
	ほぼ毎日	週1回以上	月1回以上	全く使っていない	未回答
①コンピューターやインターネットをどの程度使用か	4	4	1	3	0
②携帯電話をどの程度使っているか	11	1	0	0	0
③携帯電話の電子メールをどの程度使っているか	12	0	0	0	0

(未回答除く)



⑤お子さん(お孫さん)の学校種と学年

(複数回答)

学校種	1年	2年	3年	4年	5年	6年
小学校	1 8.3%	1 8.3%	3 25.0%	3 25.0%	4 33.3%	4 33.3%
中学校	4 50.0%	3 37.5%	3 37.5%			
高等学校	1 100%	0 0%	0 0%			
その他	0 0%					

注)

1* 学校種の%は有効アンケート回収数を母数とした割合であり
複数回答の為、合計は100%を越えている

2* 学年ごとの%は各学校種を母数とした割合であり
複数回答の為、合計は100%を越えている

⑥性別

(回答数)

男性	女性	未回答
1	11	0
8.3%	91.7%	0%

⑦年齢

(回答数)

20代	30代	40代	50代	60代以上	未回答
0	5	7	0	0	0
0%	41.7%	58.3%	0%	0%	0%

(3) 岡山県

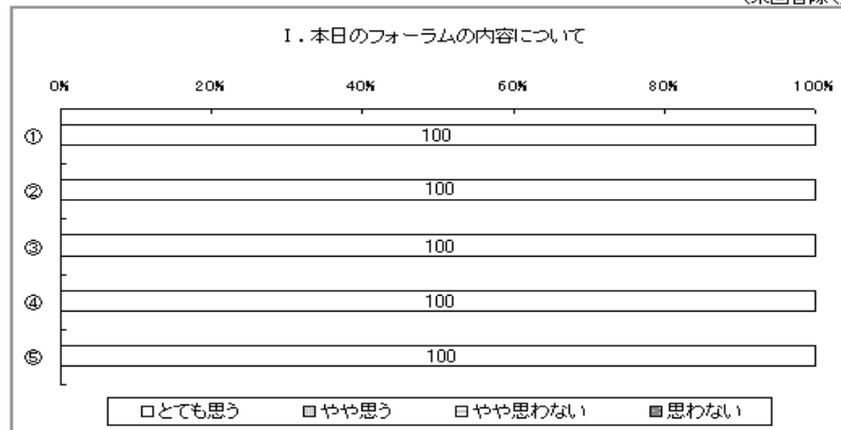
平成19年度文部科学省委託事業
ICT活用の効果に関するフォーラム 参加者アンケート【保護者向け】

開催県	岡山県	参加人数	9名
開催日時	平成20年2月1日	有効アンケート回収数	3名
開催場所	岡山県国際交流センター	アンケート回収率	33.3%

設問 I . 本日のフォーラムの内容について

					(回答数)
	とても 思う	やや思う	やや 思わない	思わない	未回答
①フォーラムの内容は参考になったか	3	0	0	0	0
②コンピュータやインターネットの活用のヒントが得られたか	3	0	0	0	0
③ICT活用による学力向上の効果を理解することができたか	3	0	0	0	0
④フォーラムの内容・研究成果を未参加の先生方も知って欲しいか	3	0	0	0	0
⑤学校で今後先生達にICTを活用した授業を実践して欲しいか	3	0	0	0	0

(未回答除く)



設問Ⅱ．情報モラル教育について

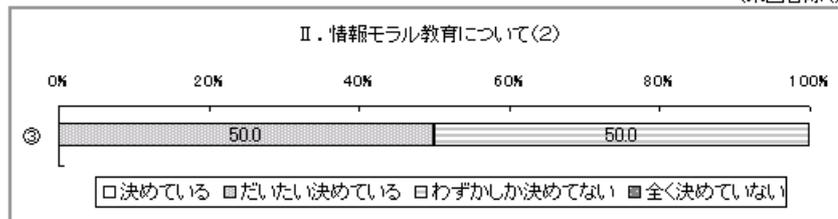
	(回答数)				
	とても 思う	やや思う	やや 思わない	思わない	未回答
①家庭で情報モラルを指導するのは、重要なことだと思うか	3	0	0	0	0
②情報モラルを小学校低学年から子ども達に指導した方がよいか	3	0	0	0	0

(未回答除く)



	(回答数)				
	決めている	だいたい 決めている	わずかしが 決めてない	全く決めて しない	未回答
③インターネット・携帯電話を子どもが使うルールを決めているか	0	1	1	0	1

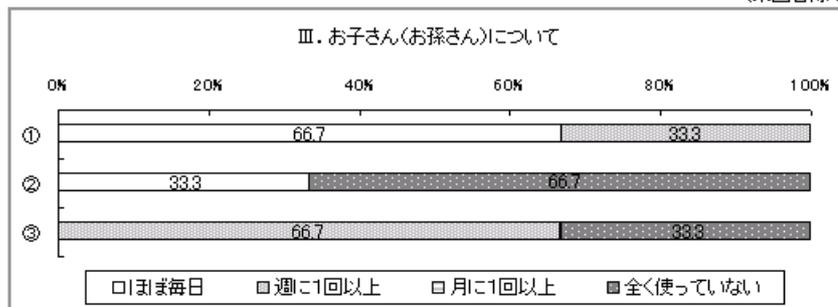
(未回答除く)



設問Ⅲ．お子さん(お孫さん)について

	(回答数)				
	ほぼ毎日	週1回 以上	月1回 以上	全く使って いない	未回答
①コンピューターやインターネットをどの程度使用か	2	1	0	0	0
②携帯電話をどの程度使っているか	1	0	0	2	0
③携帯電話の電子メールをどの程度使っているか	0	2	0	1	0

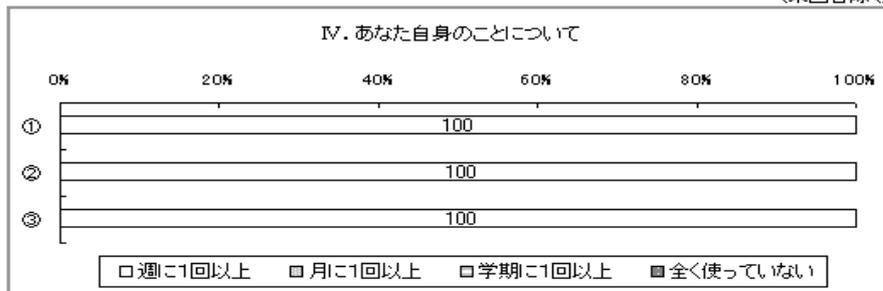
(未回答除く)



あなた自身のことについて

	(回答数)				
	1回以上毎日	週1回以上	月1回以上	全く使っていない	未回答
①コンピュータやインターネットをどの程度使用か	3	0	0	0	0
②携帯電話をどの程度使っているか	3	0	0	0	0
③携帯電話の電子メールをどの程度使っているか	3	0	0	0	0

(未回答除く)



⑤お子さん(お孫さん)の学校種と学年

学校種	(複数回答)					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
小学校	2	0	0	1	1	0
	66.7% ^{1*}	0%	0%	50.0%	50.0%	0% ^{2*}
中学校	1	1	0			
	33.3% ^{1*}	100%	0% ^{2*}			
高等学校	0	0	0			
	0% ^{1*}	0%	0% ^{2*}			
その他	1					
	33.3% ^{1*}					

注)

1* 学校種の%は有効アンケート回収数を母数とした割合であり
複数回答の為、合計は100%を越えている

2* 学年ごとの%は各学校種を母数とした割合であり
複数回答の為、合計は100%を越えている

⑥性別

(回答数)		
男性	女性	未回答
2	1	0
66.7%	33.3%	0%

⑦年齢

(回答数)					
20代	30代	40代	50代	60代以上	未回答
0	1	2	0	0	0
0%	33.3%	66.7%	0%	0%	0%

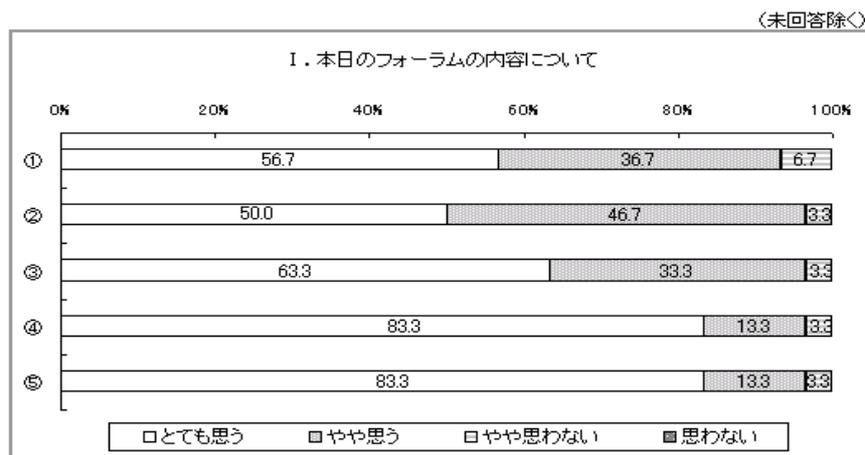
(4) 富山県

平成19年度文部科学省委託事業
ICT活用の効果に関するフォーラム 参加者アンケート【保護者向け】

開催県	富山県	参加人数	89名
開催日時	平成20年2月19日	有効アンケート回収数	31名
開催場所	北日本新聞社ホール	アンケート回収率	34.8%

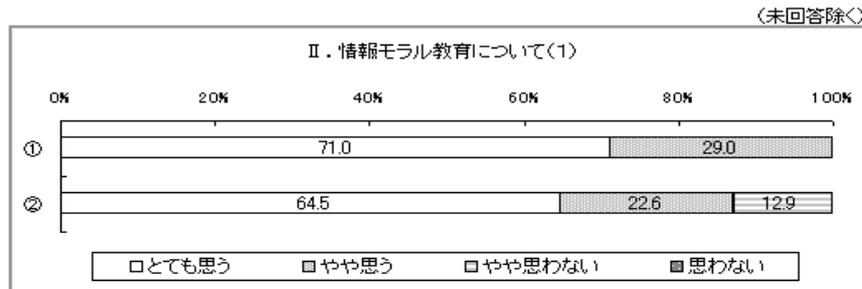
設問Ⅰ・本日のフォーラムの内容について

	(回答数)				
	とても思う	やや思う	やや思わない	思わない	未回答
①フォーラムの内容は参考になったか	17	11	2	0	1
②コンピュータやインターネットの活用のヒントが得られたか	15	14	1	0	1
③ICT活用による学力向上の効果を理解することができたか	19	10	1	0	1
④フォーラムの内容・研究成果を未参加の先生方も知って欲しいか	25	4	1	0	1
⑤学校で今後先生達にICTを活用した授業を実践してほしいか	25	4	1	0	1

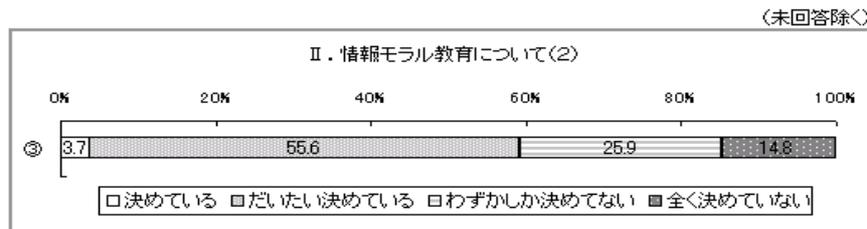


設問Ⅱ．情報モラル教育について

	(回答数)				
	とても 思う	やや思う	やや 思わない	思わない	未回答
①家庭で情報モラルを指導するのは、重要なことだと思うか	22	9	0	0	0
②情報モラルを小学校低学年から子ども達に指導した方がよいか	20	7	4	0	0

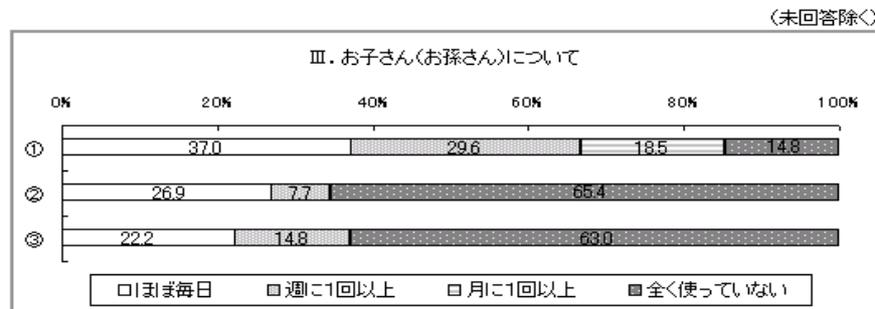


	(回答数)				
	決めている	だいたい 決めている	わずかし か決めて ない	全く決 めてい ない	未回答
③インターネット・携帯電話を子どもが使うルールを決めているか	1	15	7	4	4



設問Ⅲ．お子さん(お孫さん)について

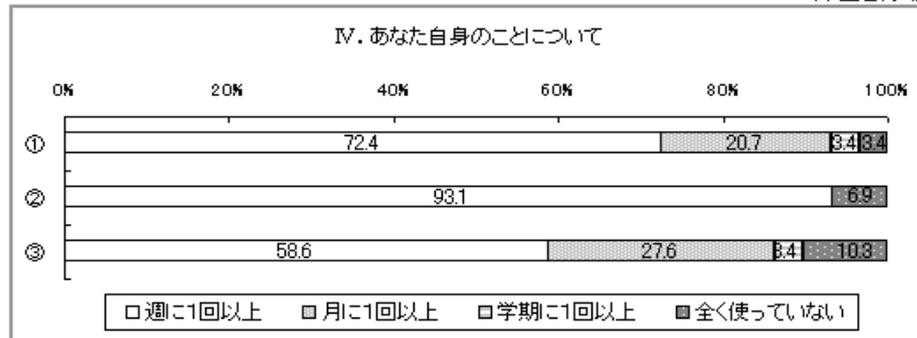
	(回答数)				
	1回 毎 日	週1回 以上	月1回 以上	全く使 って ない	未回答
①コンピューターやインターネットをどの程度使用か	10	8	5	4	4
②携帯電話をどの程度使っているか	7	2	0	17	5
③携帯電話の電子メールをどの程度使っているか	6	4	0	17	4



あなた自身のことについて

	(回答数)				
	ほぼ毎日	週1回以上	月1回以上	全く使って いない	未回答
①コンピューターやインターネットをどの程度使用か	21	6	1	1	2
②携帯電話をどの程度使っているか	27	0	0	2	2
③携帯電話の電子メールをどの程度使っているか	17	8	1	3	2

(未回答除く)



⑤お子さん(お孫さん)の学校種と学年

(複数回答)

学校種	学年					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
小学校	3	2	3	3	6	3
	21.4%	14.3%	21.4%	21.4%	42.9%	21.4%
中学校	4	6	3			
	33.3%	50.0%	25.0%			
高等学校	4	0	2			
	80.0%	0%	40.0%			
その他						

注)

1* 学校種の%は有効アンケート回収数を母数とした割合であり
複数回答の為、合計は100%を越えている

2* 学年ごとの%は各学校種を母数とした割合であり
複数回答の為、合計は100%を越えている

⑥性別

(回答数)

男性	女性	未回答
9	21	1
29.0%	67.7%	3.2%

⑦年齢

(回答数)

20代	30代	40代	50代	60代以上	未回答
5	8	14	3	0	1
16.1%	25.8%	45.2%	9.7%	0%	3.2%

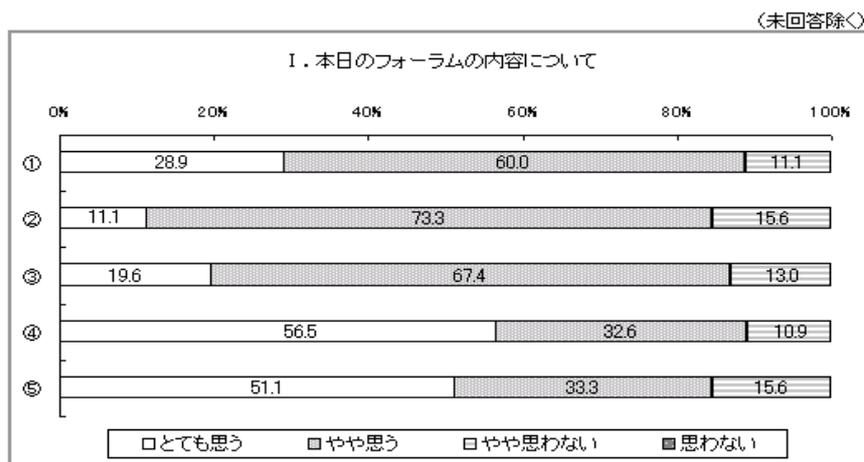
(5) 神戸市

平成19年度文部科学省委託事業
ICT活用の効果に関するフォーラム 参加者アンケート【保護者向け】

開催県	神戸市	参加人数	85名
開催日時	平成20年3月4日	有効アンケート回収数	47名
開催場所	神戸市総合教育センター	アンケート回収率	55.3%

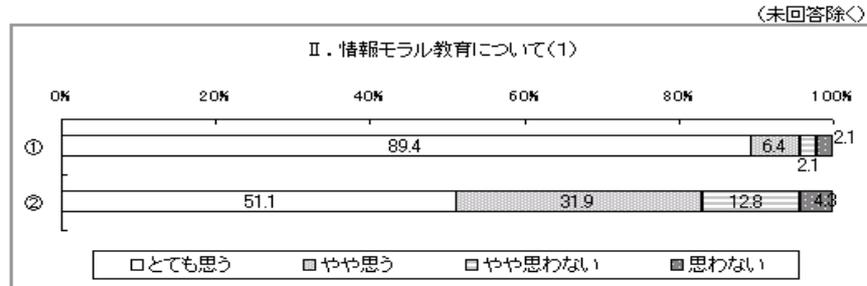
設問Ⅰ. 本日のフォーラムの内容について

	〈回答数〉				
	とても思う	やや思う	やや思わない	思わない	未回答
①フォーラムの内容は参考になったか	13	27	5	0	2
②コンピュータやインターネットの活用のヒントが得られたか	5	33	7	0	2
③ICT活用による学力向上の効果を理解することができたか	9	31	6	0	1
④フォーラムの内容・研究成果を未参加の先生方も知って欲しいか	26	15	5	0	1
⑤学校で今後先生達にICTを活用した授業を実践してほしいか	23	15	7	0	2

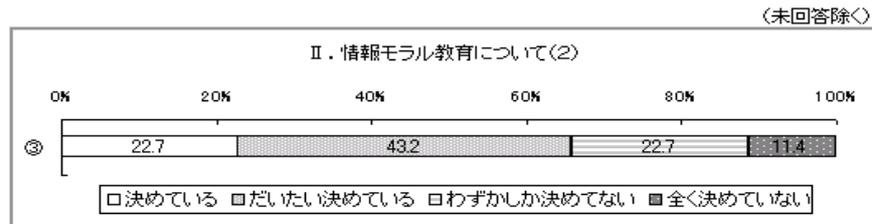


設問Ⅱ．情報モラル教育について

	(回答数)				
	とても 思う	やや思う	やや 思わない	思わない	未回答
①家庭で情報モラルを指導するのは、重要なことだと思うか	42	3	1	1	0
②情報モラルを小学校低学年から子ども達に指導した方がよいか	24	15	6	2	0

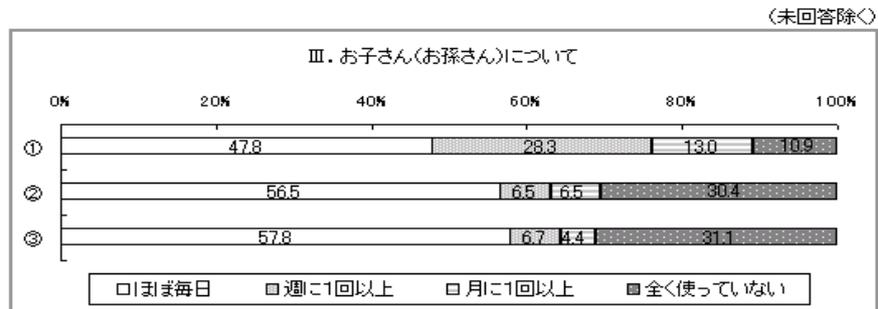


	(回答数)				
	決めている	だいたい 決めている	わずかしが 決めてない	全く決めて いない	未回答
③インターネット・携帯電話を子どもが使うルールを決めているか	10	19	10	5	3



設問Ⅲ．お子さん(お孫さん)について

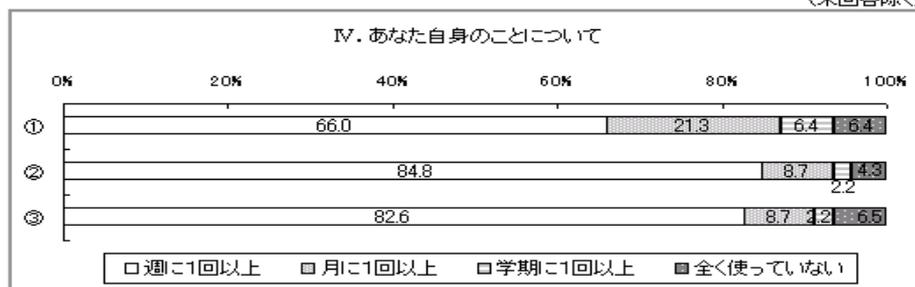
	(回答数)				
	1回も毎日	週1回 以上	月1回 以上	全く使って いない	未回答
①コンピューターやインターネットをどの程度使用か	22	13	6	5	1
②携帯電話をどの程度使っているか	26	3	3	14	1
③携帯電話の電子メールをどの程度使っているか	26	3	2	14	2



あなた自身のことについて

	(回答数)				
	ほぼ毎日	週1回以上	月1回以上	全く使っていない	未回答
①コンピューターやインターネットをどの程度使用か	31	10	3	3	0
②携帯電話をどの程度使っているか	39	4	1	2	1
③携帯電話の電子メールをどの程度使っているか	38	4	1	3	1

(未回答除く)



⑤お子さん(お孫さん)の学校種と学年

学校種	(複数回答)					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
小学校	2 59.6% ^{1*}	8 28.6%	0 0%	9 32.1%	8 28.6%	7 25.0% ^{2*}
中学校	31 66.0% ^{1*}	20 64.5%	8 25.8% ^{2*}			
高等学校	17 36.2% ^{1*}	5 29.4%	8 47.1% ^{2*}			
その他	14 29.8% ^{1*}					

注)

1* 学校種の%は有効アンケート回収数を母数とした割合であり
複数回答の為、合計は100%を越えている

2* 学年ごとの%は各学校種を母数とした割合であり
複数回答の為、合計は100%を越えている

⑥性別

(回答数)		
男性	女性	未回答
12	35	0
25.5%	74.5%	0%

⑦年齢

(回答数)					
20代	30代	40代	50代	60代以上	未回答
1	5	29	11	1	0
2.1%	10.6%	61.7%	23.4%	2.1%	0%

参考 熊本県・保護者向け説明会アンケート回答結果

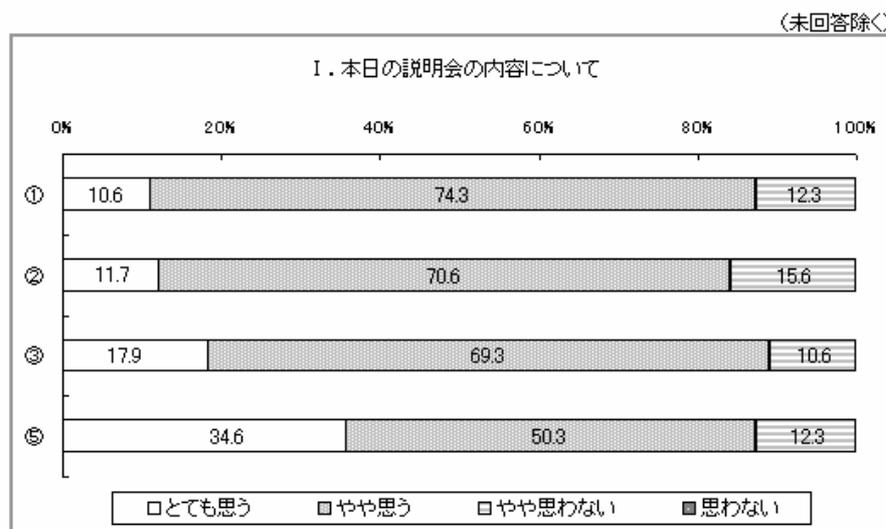
フォーラム開催後、熊本県内の小学校4校で保護者向けの説明会を開催した。
参加者アンケートを以下に掲載する。

開催県	熊本県	参加人数	206名
開催日時	平成20年3月5日、6日	有効アンケート回収数	183名
開催場所	熊本県内小学校4校	アンケート回収率	88.8%

設問Ⅰ．本日の説明会について

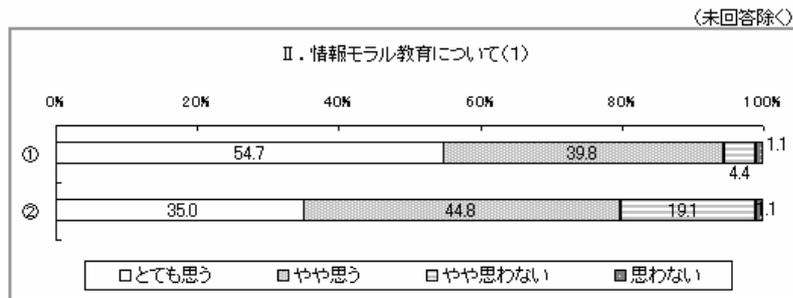
	(回答数)				
	とても 思う	やや思う	やや 思わない	思わない	未回答
①ガイドブックや説明の内容が参考になったか	19	133	22	5	4
②コンピュータやインターネットの活用のヒントが得られたか	21	127	28	4	3
③ICT活用による学力向上の効果を理解することができたか	32	124	19	4	4
④学校で今後先生達にICTを活用した授業を実践してほしいか	62	90	22	5	4

注)設問④は未設定

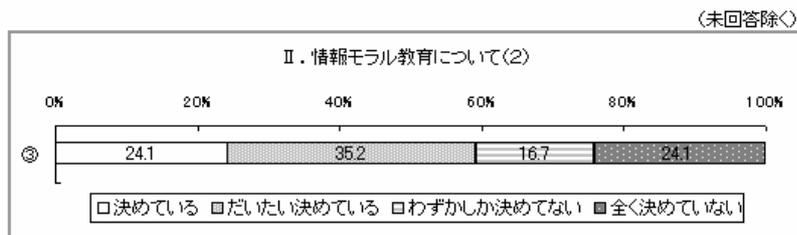


設問Ⅱ・情報モラル教育について

	(回答数)				
	とても 思う	やや思う	やや 思わない	思わない	未回答
①家庭で情報モラルを指導するのは、重要なことだと思うか	99	72	8	2	2
②情報モラルを小学校低学年から子ども達に指導した方がよいか	64	82	35	2	0

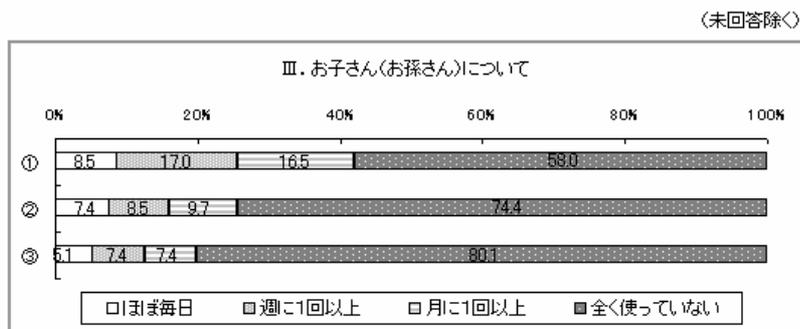


	(回答数)				
	決めている	たいたい 決めている	わずかしが 決めてない	全く決めて いない	未回答
③インターネット・携帯電話を子どもが使うルールを決めているか	39	57	27	39	21



設問Ⅲ・お子さん(お孫さん)について

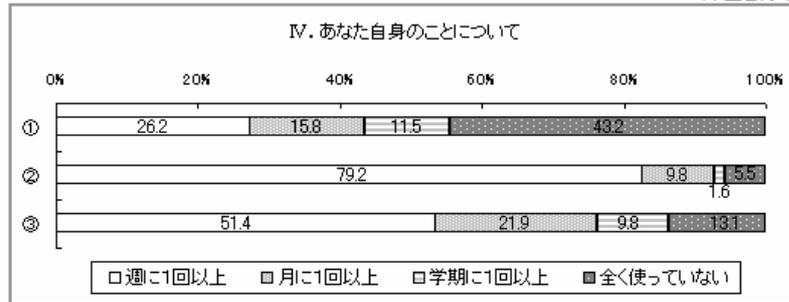
	(回答数)				
	1回も毎日	週1回 以上	月1回 以上	全く使って いない	未回答
①コンピューターやインターネットをどの程度使用か	15	30	29	102	7
②携帯電話をどの程度使っているか	13	15	17	131	7
③携帯電話の電子メールをどの程度使っているか	9	13	13	141	7



参加者プロフィール

	(回答数)				
	ほぼ毎日	週1回以上	月1回以上	全く使っていない	未回答
①コンピューターやインターネットをどの程度使用か	48	29	21	79	6
②携帯電話をどの程度使っているか	145	18	3	10	7
③携帯電話の電子メールをどの程度使っているか	94	40	18	24	7

(未回答除く)



⑤お子さん(お孫さん)の学校種と学年

(複数回答)

学校種	学年					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
小学校	12 6.6%	24 13.1%	18 9.8%	29 15.8%	51 27.9%	40 21.9%
中学校	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%
高等学校	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%
その他	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%

注)

1* 学校種の%は有効アンケート回収数を母数とした割合であり
複数回答の為、合計は100%を越えている

2* 学年ごとの%は各学校種を母数とした割合であり
複数回答の為、合計は100%を越えている

⑥性別

(回答数)

男性	女性	未回答
47	129	7
25.7%	70.5%	3.8%

⑦年齢

(回答数)

20代	30代	40代	50代	60代以上	未回答
3	82	75	8	1	14
1.6%	44.8%	41.0%	4.4%	0.5%	7.7%

ICT活用効果企画評価委員会

企画評価委員会

委員長	清水 康敬	独立行政法人メディア教育開発センター	理事長
副委員長	小泉 力一	尚美学園大学芸術情報学部	教授
委員	日下 孝	仙台市教育センター情報研修班	主任指導主事
委員	佐野 友昭	富山県教育委員会	指導主事
委員	高橋 純	富山大学人間発達科学部	准教授
委員	高橋 伸明	岡山県総合教育センター情報教育部	指導主事
委員	中村 武弘	三重県教育委員会事務局研修分野	主幹兼指導主事
委員	永浜 裕之	東京都教育庁指導部指導企画課	指導主事
委員	西田 義貴	東京都教育庁指導部	主任指導主事
委員	野中 陽一	和歌山大学教育学部附属教育実践総合センター	准教授
委員	堀田 龍也	独立行政法人メディア教育開発センター	准教授
委員	松崎 太亮	神戸市教育委員会事務局総務部調査課	主幹
委員	山本 朋弘	熊本県立教育センター	指導主事
委員	横山 隆光	岐阜県羽島市立羽島中学校	校長

ハンドブック作成ワーキンググループ

委員長	清水 康敬	独立行政法人メディア教育開発センター	理事長
副委員長	小泉 力一	尚美学園大学芸術情報学部	教授
委員	高橋 純	富山大学人間発達科学部	准教授
委員	中村 武弘	三重県教育委員会事務局研修分野	主幹兼指導主事
委員	野中 陽一	和歌山大学教育学部附属教育実践総合センター	准教授
委員	堀田 龍也	独立行政法人メディア教育開発センター	准教授
委員	山本 朋弘	熊本県立教育センター	指導主事
委員	横山 隆光	岐阜県羽島市立羽島中学校	校長